



Simply Better Connections

KG0016 / KG0032

16/32ポートKVM over IP

オムニバス・ゲートウェイ

ユーザーマニュアル

本書 日本語マニュアルについて

この日本語マニュアルはATEN International Co., Ltdが作成している英語版ユーザーマニュアルを、日本国内のお客様が製品をご使用になる上での便宜を図るため、ATENジャパン株式会社にて機械翻訳ベースで作成したドキュメントです。用語・表現などは公開前に人為的な修正を加えておりますが、若干の表記ゆれなどが残っている可能性がございますので、ご理解願います。また、グローバル共通のマニュアルを翻訳したドキュメントであるため、日本国内でのお取り扱いがない機種が含まれている場合がありますことを、ご了承ください。

製品の取扱説明書としての整合性は英語版ユーザーマニュアルに準ずるものですが、万が一内容に不備・誤りなどがございましたら、誠にお手数ですが、ATENジャパン株式会社までお問い合わせさせていただきますよう、お願い申し上げます。

適合性に関する宣言

連邦通信委員会(FEDERAL COMMUNICATIONS COMMISSION INTERFERENCE STATEMENT)

本製品は、FCC(連邦通信委員会)規則のPart15に準拠したデジタル装置 Class Aの制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供するためのものです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則のPart15に準拠しています。動作は次の2つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCCによる注意事項

本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告

この装置を居住地域で使用すると、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案

FCC&CE規格に準拠するには、ユニットにシールド付きツイストペア(STP)ケーブルを使用する必要があります。



カナダ産業省による宣言

Class Aの本デジタル装置はカナダのICES-003に準拠しています。

CAN ICES-003 (A) / NMB-003 (A)

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会および理事会指令』、通称RoHS指令に準拠しております。

バッテリーの安全に関する注意事項

- ◆ 不適切なタイプのバッテリーに交換された場合、爆発する危険性があります。使用済みのバッテリーは、関連する指示に従って処分してください。

ユーザー情報

ユーザーの皆様へ

このマニュアルに記載されているすべての情報、ドキュメント、および仕様は、製造元から事前に通知されることなく変更される場合があります。製造業者は、本契約の内容に関して、明示的または黙示的に表明または保証を行わず、特定の目的のための商業性または適合性に関するいかなる保証も特に放棄します。このマニュアルに記載されている製造元のソフトウェアは、そのまま販売またはライセンスを受けています。購入後にプログラムに欠陥があることが判明した場合、購入者(メーカー、代理店、または販売店は除く)が、必要な全てのサービス、修理、およびソフトウェアの欠陥に起因する付随的または派生的損害の全費用を負担するものとします。

また、この装置に対する許可されていない改造や使用方法によって生じる無線やTV受信などの干渉についても製造業者は責任を負いません。これらの電波障害の対応はユーザー責任です。

製造業者は、動作前に正しい電圧設定が選択されていない場合には、このシステムの動作において被るいかなる損害に対しても責任を負いません。使用前に電圧設定が正しいことを確認してください。

同梱品

全てのアイテムが正常に動作していることを確認してください。問題が発生した場合は、販売店にお問い合わせください。

標準のKVM over IP オムニバス・ゲートウェイの製品パッケージは、以下から構成されています。

- ◆ KG0016 または KG0032 本体 × 1
- ◆ フットパッド(4pcs) × 1
- ◆ マウントキット × 1
- ◆ 制御ターミナルブロック × 2
- ◆ 電源ケーブル × 2
- ◆ 電源ケーブル抜け防止ホルダー「Lok-U-Plug」 × 2
- ◆ 電源ケーブル抜け防止ホルダー取付工具 × 1
- ◆ クイックスタートガイド × 1

目次

適合性に関する宣言.....	i
バッテリーの安全に関する注意事項.....	ii
ユーザー情報.....	iii
ユーザーの皆様へ.....	iii
同梱品.....	iv
目次.....	v
本マニュアルについて.....	xii
マニュアル表記について.....	xiv
用語.....	xiv
第1章 はじめに.....	1
概要.....	1
特長.....	3
ハードウェア.....	3
管理.....	3
使いやすいインターフェース.....	4
セキュリティ.....	4
バーチャルメディア.....	5
バーチャルリモートデスクトップ.....	5
システム要件.....	6
リモートユーザー側で使用するコンピューター.....	6
サーバー.....	6
KVM アダプタ.....	7
オペレーティング・システム.....	7
ブラウザ.....	7
ケーブルホルダー.....	8
製品各部名称.....	9
KG0016 フロントパネル.....	9
KG0032 フロントパネル.....	9
KG0016 リアパネル.....	9
KG0032 リアパネル.....	9

第2章 ハードウェアのセットアップ	13
概要	13
セットアップの前に	13
KG0016 / KG0032 のセットアップ	14
接続図(単体使用時)	15
ケーブルの固定	16
USB KVM アダプタの接続	17
ホットプラグ	20
モジュールID機能	20
電源オフと再起動	21
ポート選択	21
LCDの操作	22
ホーム画面	23
メニュー画面	24
第3章 ログイン	28
概要	28
ブラウザーによるログイン	29
WindowsClient APによるログイン	31
WindowsClient APの接続画面	32
接続 - WindowsClient AP	32
第4章 ユーザーインターフェース	34
概要	34
ウェブブラウザーのメイン画面	34
画面各部名称	34
製造番号	35
タブバー	36
バージョン情報	37
ユーザー設定	38

環境設定	39
パスワードの変更	41
AP GUIメイン画面	42
コントロールパネル	43
WinClientのコントロールパネル	43
WinClientのコントロールパネルの機能	44
オンライン・ポート	47
アレイの開始	50
メッセージボード	51
ビデオ設定	53
マウスダイナシクモード	58
マウスポインターの種類	60
オンスクリーンキーボード	61
マクロ	63
バーチャルメディア	75
その他の設定	81
ドッキング位置	81
コントロールパネルのカスタマイズ	82
ユーザー環境設定	84
パスワードの変更	84
WebClientのコントロールパネル	85
機能	85
WebClientのビデオ設定	86
WebClientのオンスクリーンキーボード	87
WebClientにおけるマウスポインターの種類	87
バーチャルメディア	88
WebClientのマウス同期モード	89
第5章 ダッシュボード	92
概要	92
システムの状態	92
デバイスの概要	93
第6章 ポートアクセス	96
概要	96
サイドバー	97
サイドバーのツリービュー	97

フィルター.....	99
ポートへの名称設定.....	101
設定.....	102
デバイスレベル.....	102
ポートレベル.....	104
アクセス.....	106
デバイスレベルのブラウザ-GUIインターフェース.....	106
ポートレベルのブラウザ-GUIインターフェース.....	107
第7章 ポートビュー.....	109
概要.....	109
第8章 ユーザーアカウント.....	111
概要.....	111
ユーザー.....	112
ユーザーの追加.....	112
ユーザーアカウントの編集.....	117
ユーザーアカウントの削除.....	118
グループ.....	119
グループの作成.....	119
グループの編集.....	120
グループの削除.....	121
ユーザーとグループ.....	122
グループにユーザーを割り当てるには - ユーザー.....	122
グループからユーザーを削除するには - ユーザー.....	123
グループにユーザーを割り当てるには - グループ.....	124
グループからユーザーを削除するには - グループ.....	125
デバイスの割り当て.....	126
デバイス権限の割り当て- ユーザー.....	126
デバイス権限の割り当て- グループ.....	128
アカウントポリシー.....	129
オンラインユーザー.....	131
第9章 デバイス管理.....	132

KVM本体のデバイス管理	132
デバイス情報	133
全般	133
システム情報・設定	134
操作モード	136
ネットワーク	137
IPインストーラー.....	137
サービスポート.....	138
IPv4設定	140
IPv6設定	141
ANMS	142
イベントの宛先.....	142
認証	145
SNMPエージェント.....	148
セキュリティー	151
アクセス保護	151
証明書	159
日付/時刻	163
タイムゾーン	163
日付/時刻.....	163
ネットワークタイム	164
免責事項	165
第10章 ログ	167
概要	167
ログ情報	168
フィルター	169
通知設定	171
第11章 メンテナンス	172
概要	172
ファームウェアのアップグレード	173
ファームウェアアップグレードのリカバリ	174

EDIDの更新	175
KVM アダプタにおけるディスプレイ情報の更新	175
バックアップ/リストア	176
バックアップ	176
リストア	177
ターミナル	178
システム操作	179
デフォルト値の復元	179
第12章 ダウンロード	180
概要	180
第13章 ログサーバー	181
セットアップ	181
起動	183
メニューバー	184
設定	184
Event	186
オプション	187
ヘルプ	188
ログサーバーのメイン画面	189
概要	189
リストパネル	190
イベントパネル	190
付録	191
安全にお使いいただくために	191
全般	191
ラックへのマウント	194
仕様	195
KG0016 / KG0032	195
トラブルシューティング	197
操作全般	197
マウスの問題	199

バーチャルメディア.....	202
ウェブブラウザ.....	203
WinClient AP.....	204
Sunシステム.....	205
Macシステム.....	206
IPアドレスの設定.....	207
IPインストーラー.....	207
ブラウザ.....	208
IPv6.....	209
ステートレス自動設定.....	209
ポートの転送.....	210
キーボードエミュレーション.....	211
Macキーボード.....	211
Sunキーボード.....	212
その他のマウス同期方法.....	213
Windows:.....	213
Sun / Linux.....	215
その他のビデオ解像度の設定.....	216
信頼された証明書.....	217
概要.....	217
証明書のインストール.....	218
証明書のインストール完了.....	219
自己署名(プライベート)証明書.....	220
例.....	221
ファイルのインポート.....	221
工場出荷時におけるデフォルト設定.....	223
対応バーチャルメディア.....	224
WinClient AP.....	224

本マニュアルについて

このマニュアルは、本製品を最大限に活用するために提供されています。このマニュアルでは、製品の取り付け・セットアップ・操作の各方法に関する情報を提供します。

このユーザーマニュアルでは、次のKVM over IP オムニバス・ゲートウェイの機種について説明します。

型番	製品名
KG0016	16ポートKVM over IP オムニバス・ゲートウェイ
KG0032	32ポートKVM over IP オムニバス・ゲートウェイ

マニュアルは下記の通りに構成されています。

第1章 はじめに: 本製品の用途・機能・利点について説明します。フロントパネルとリアパネルにおける各部名称について説明します。

第2章 ハードウェアのセットアップ: 本製品のセットアップ手順について説明します。

第3章 ログイン: インターネットブラウザや、スタンドアロンWindows アプリケーション(AP)プログラムから、使用可能な各種アクセス方法で本製品にログインする方法について説明します。

第4章 ユーザーインターフェース: 本製品のレイアウトと構成要素について説明します。

第5章 ダッシュボード: 本製品のデバイスとシステム情報を示します。

第6章 ポートアクセス: ポートアクセス画面と、ポートや電源アウトレット管理に関するオプションの設定方法について説明します。

第7章 ポートビュー: パネルアレイモードとその設定方法について説明します。

第8章 ユーザーアカウント: スーパーアドミニストレーターとアドミニストレーターが、ユーザーとグループを作成・変更・削除する方法と、これらに属性を割り当てる方法について説明します。

第9章 デバイス管理:スーパーアドミニストレーターが本製品の操作全般を設定・制御する方法について説明します。

第10章 ログ: イベントログ情報の表示・消去、およびエクスポートの方法と、本製品のイベント通知の設定方法について説明します。

第11章 メンテナンス: 本製品のファームウェアをアップグレードする方法と、ポートを取り付けられたデバイスに接続するために使用されるKVM DigiProcessor(以下KVMアダプタ)のファームウェアについて説明します。

第12章 ダウンロード: スタンドアロンAP版のWinClient、およびログサーバープログラムをダウンロードする方法について説明します。

第13章 ログサーバー: ログサーバーのセットアップと設定方法について説明します。

付録: マニュアルの最後に技術情報とトラブルシューティング情報が記載されています。

注意:

- ◆ 本書をよくお読みになり、設置・操作の手順に従い、本機や接続機器の破損を防止してください。
 - ◆ このマニュアルのリリース以降に、製品の機能や特長が追加・改良・削除されることで、アップデートされる場合があります。最新のユーザーマニュアルについては、<http://www.aten.com/global/en/> をご覧ください。
-

マニュアル表記について

このマニュアルでは、次の規則を使用します。

- [] 押すべきキーを示します。入力するキーを示します。例えば[Enter]はEnterキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。
- 1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。
- ◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。
- > (メニューやダイアログボックスなどで)連続したオプションを選択することを示します。矢印は操作の手順を示します。例えば「スタート」>「実行」は「スタート」メニューを開き、「実行」を選択することを意味します。



重要な情報を示しています。

用語

本書において、ローカルとリモートという用語は、本製品のセットアップ環境で使用されます。ユーザーおよびサーバーは、状況に応じて「ローカル」や、「リモート」と表現されることもあります。

- ◆ KVM本体から見た場合
 - ◆ リモートユーザー - 本製品から離れた場所からネットワーク経由でログインするユーザーです。
- ◆ ユーザー側から見た場合
 - ◆ リモートクライアントユーザー - 自分のコンピューターに座って、自分から離れた本製品に接続されたサーバーで操作を実行しているユーザーです。
 - ◆ ターゲットサーバー - ローカルクライアントユーザーから離れた場所にあるサーバーです。

第1章 はじめに

概要

16/32ポートKVM over IP オムニバス・ゲートウェイ KG0016 / KG0032は、IP 経由でのリモートアクセスを提供し、ユーザーがネットワーク経由で最大16/32 台のサーバーにアクセス・監視・制御できるようにするデバイスです。独立した リモート接続に対応したKG0016 / KG0032では、バス共有に伴う待機時間が 解消されるため、より高い操作効率を保証し、ユーザーエクスペリエンスを最 適化することができます。このシングル管理プラットフォームは、効率的な管理 のために、セキュアなシングルポータル経由でのサーバー接続と、アクセス・ 制御の簡素化を実現します。KG0016 / KG0032 は、オールデジタルKVM over IPのアーキテクチャーにより、ビデオのラグとフリーズを防ぎ、特に長距離延長 アプリケーションにおいて安定したスムーズなビデオ表示を保証します。全て のサーバーへのリモートアクセスの信頼性と可用性を確保するために、製品 本体には10GのデュアルNICが搭載されています。バーチャルメディア伝送は 従来のKVM over IPスイッチの10倍のスピードで処理されるため、わずか1分で 1GBのファイル伝送を完了できます。KGシリーズがKVM アダプタシリーズ (KG1900T / KG6900T / KG8900T / KG9900T)と連携する場合、最大 1920 × 1200 @ 60Hzの映像を、Cat 5e/6ケーブル1本で最大100m延長します。

KGシリーズには、別の場所にあるコンソールからWinClient APまたは HTML5 WebClient*経由でリモートアクセスし、KGシリーズの配下にあるサーバ ーの管理や運用を行うことができます。WinClient AP には完全なKVM機能が 備わっており、継続的で信頼性の高い接続をユーザーに提供します。これは、 アレイビューで接続されている全てのサーバーのステータスを同時に監視し、 制御ビューを介して特定のサーバーを制御するのに役立ちます。基本的な KVM機能では、ユーザーはブラウザからクライアントビューアを起動するだけ で、HTML5 WebClientを介していずれかのポートに直接アクセスし、制御す ることができます。ソフトウェアを事前にインストールする必要はありません。ま た、ウェブGUI からポートビューの全てのポートのステータスを監視しながら、

クライアントビューアをブラウザーから簡単に分離し、制御用の2台目のモニターにドラッグすることができます。

このKVM over IP オムニバス・ゲートウェイを使用すると、本番ネットワークがダウンしたときに、BIOSレベルのトラブルシューティングの目的で、管理ネットワークを介してリモートコンソールから接続されたサーバーへの帯域外アクセスが可能になります。IT管理者は、メイン/本番ネットワークから分離された管理ネットワークを介してサーバーを管理できます。本番ネットワーク経由でサーバーにアクセスするのが困難な場合でも、アドミニストレーターはKGシリーズ経由でサーバーにアクセスできます。

厳格なセキュリティを提供するために、KGシリーズはTLS 1.3と組み込みのFIPS 140-2認定OpenSSL暗号化モジュールを提供します。KGシリーズのセキュリティ機能には、セキュリティ保護されたデータ送信用の256ビットAES暗号化、およびサードパーティー認証サービス用のRADIUS、LDAP、LDAPS、Active Directoryが含まれます。

KGシリーズのその他の専用機能として、メッセージボード、Panel Array Mode™ Live+、Mouse DynaSync™、フロントパネルのLCDディスプレイがあります。ATEN KVM over IP オムニバス・ゲートウェイは、管理者が事実上どこからでもサーバーを管理できるようにすることで、ユーザーの時間と費用を節約します。移動コストとMTTR (平均修理時間)コストを最小限に抑え、データセンターサービスの可用性を最大限に高めます。

注意:

より堅牢な管理と制御のために、WinClientアプリの使用を推奨します。パフォーマンスと使用状況は、ユーザーのハードウェア構成によって異なる場合があります。8GB以上のRAM、デュアルコアCPU、およびOpenGLをサポートするグラフィックカードが必要です。また、使用するブラウザーが最新であることを確認してください。

特長

ハードウェア

- ◆ 高密度なポート・レイアウト - 1Uサイズの筐体に最大16ポート(KG0016)/32ポート(KG0032)のRJ-45コネクタを配置しCat 5e/6ケーブルで接続
- ◆ 最適なオールデジタルKVM over IP伝送 - ノイズ耐性、信号品質の維持、効率的な圧縮・保存により、長距離でも信頼性の高い伝送を実現
- ◆ Cat 5e/6ケーブル経由で解像度1920×1200@60Hzの映像を信号干渉を受けずゼロ・レイテンシーに近い速度で最大100m延長
- ◆ リモートKVM over IP アクセス用に最大16/32の独立した接続
- ◆ 10Gネットワークインターフェースを2ポート搭載 - ネットワークの二重化や、異なる2つのIPアドレスの割り当てが可能
- ◆ LCDパネル - 接続状況、通知、システムアラートメッセージをリアルタイムで提供
- ◆ 接続状況とハードウェアの状態をLED表示
- ◆ マルチプラットフォームのサーバー環境 - Windows、Mac、Linux
- ◆ 全周通気シャーシ設計により通気効率が向上 - フロントパネルの両側に冷気を吸入し、バックパネルの通気孔から廃熱
- ◆ 電源冗長性を備えたデュアル電源

管理

- ◆ 接続されているサーバーに対して、16(KG0016)/32(KG0032)の独立した接続を同時に共有
- ◆ アウトオブバンド・アクセス
- ◆ グリーンITファン - 温度によって速度を自動調整
- ◆ イベントログおよびWindowsベースのログサーバー
- ◆ イベント通知 - SMTPメール、SNMPトラップ、およびSMS(追加でモバイルデバイスが必要)による通知をサポート

- ◆ イベント通知先 - イベントログはログサーバー、SyslogサーバーおよびUSBドライブ(対応予定)に保存
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ ポート共有モード - 複数ユーザーからサーバーに対して同時アクセス可能
- ◆ IPv4およびIPv6をサポート

使いやすいインターフェース

- ◆ パネルアレイを見ながら任意のサーバ操作。直感的なWinClient AP - ユーザーは全サーバーを監視し、特定のサーバーを同時に制御可能
- ◆ Panel Array Mode™ Live+ - 設定可能なマルチスクリーン・レイアウトで、全ポートから出力された動画フィードをリアルタイム監視
- ◆ ブラウザーおよびAP GUIは統一された多言語インターフェースを提供 - ユーザートレーニング時間を最小限に抑え、生産性が向上
- ◆ WebClient経由でマルチプラットフォーム・クライアントをサポート (Windows、Mac OS X、Linux)
- ◆ マルチブラウザ対応 - Edge、Chrome、Firefox、Safari、Opera
- ◆ HTML5ビューアによるウェブフレンドリーなリモートアクセスをサポート - ユーザーは、Javaまたはブラウザプラグインのインストールなしで、接続されている全てのサーバー・PCにリモートアクセス可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能

セキュリティ

- ◆ 高度なセキュリティ - 組み込みのFIPS 140-2 認定OpenSSL暗号化モジュールをサポート
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ TLS 1.3データ暗号化とRSA 2048ビット証明書をサポートし、ブラウザからのユーザーログインを保護

- ◆ ビデオ、バーチャルメディアの各信号を暗号化可能(56ビットDES、168ビット3DES、256ビットAES、128ビットRC4、ランダムより選択)
- ◆ IPアドレスやMACアドレスによるフィルタリング機能
- ◆ サーバーへのアクセス権限や操作権限をユーザー単位やグループ単位で設定可能
- ◆ CSR自動生成機能およびサードパーティー機関による認証に対応

バーチャルメディア

- ◆ 従来のKVMスイッチより最大で約10倍の速度で伝送できるバーチャルメディア - ファイル転送、OSのパッチ適用、ソフトウェアのインストール、診断テストに最適
- ◆ USB対応サーバーはオペレーティング・システムおよびBIOSレベルで動作可能
- ◆ USB 2.0 DVD / CDDライブ、USB大容量ストレージデバイス、PCハードドライブ、およびISOイメージをサポート

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ ビデオ品質の調整(モノクロの色深度やバンド幅の増減など)によってデータ転送速度を最適化
- ◆ Mouse DynaSync™ - リモートマウスの動きを自動的に同期
- ◆ 多言語対応のオンスクリーンキーボード
- ◆ トラブルシューティングのためにBIOSレベルでアクセス可能

システム要件

リモートユーザー側で使用するコンピューター

リモートユーザーのコンピューター(別名リモート端末)とは、ユーザーがLANまたはインターネット経由で本製品にログインするコンピューターです(p.xiv「用語」参照)。これらのコンピューターには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ 最適な結果を得るには、Intel Core i5 : 11500以上の性能を持つCPUを搭載したコンピューターを使用し、解像度を1920×1080に設定することを推奨します。
- ◆ Windows10など、メインストリームサポートが提供されているクライアントOSがインストールされたPCをお使いください。
- ◆ Microsoft Edge(Chromium)など対応ウェブブラウザをご利用ください。
- ◆ ブラウザーはTLS 1.2暗号化通信に対応したものをお使いください。
- ◆ 最適な結果を得るために、1Gbps以上のNICを搭載したPCを推奨します。
- ◆ OSの稼働用メモリとは別にリモートアクセス用アプリの最低動作用に4GB以上のメモリが使用可能である必要があります。
- ◆ ログサーバーを使用する場合は、WindowsServerなどの24/365環境で動作するサーバーにインストールしてご利用ください。
- ◆ (推奨)10ギガビットイーサネット対応のネットワークインターフェース

サーバー

サーバーは、KVM アダプタを介して本製品に接続するコンピューターです。これらのサーバーには下記のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGAなどVESA DMT/CVT準拠解像度に対応した映像出力ポート。
- ◆ USB Type-Aポート。

KVM アダプタ

- ◆ KVM 本体をKVM アダプタに接続するには、Cat 5e(またはそれ以上)ケーブルが必要です(p.17参照)。
- ◆ 本製品を使用するには、次のKVM アダプタが必要です。

機能	モジュール
USB + VGA出力・バーチャルメディア対応	KG1900T
USB + DVI出力・バーチャルメディア対応	KG6900T
USB + HDMI出力・バーチャルメディア対応	KG8900T
USB + DisplayPort出力・バーチャルメディア対応	KG9900T

オペレーティング・システム

- ◆ サーバーのコンピューターでサポートされるオペレーティング・システムには、Windows 2000以降が含まれます。
- ◆ 次の表に、KVM アダプタに接続されているサーバーでサポートされるオペレーティング・システムを示します。

OS		バージョン
Windows		2000以降
Linux	RedHat	7.1以降
	Fedora	Core 2以降
	SuSE	9.0以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0以降
UNIX	AIX	4.3以降
	FreeBSD	4.2以降
	Sun	Solaris 8以降
Novell	Netware	5.0以降
Mac		OS 9以降*
DOS		6.2以降

ブラウザー

リモートアクセスでログインするユーザーは、次の対応ブラウザをお使いください。

ブラウザ		バージョン
Edge (Chromium)		118以降
Chrome		8.0以降
Firefox	Windows	3.5以降
	Linux	3.0以降
Safari	Windows	4.0以降
	Mac	3.1以降
Opera		10.0以降

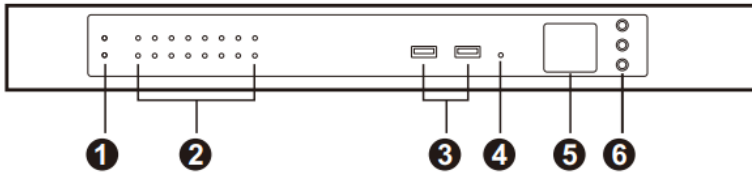
* 詳細については、p.206「Macシステム」を参照してください。

ケーブルホルダー

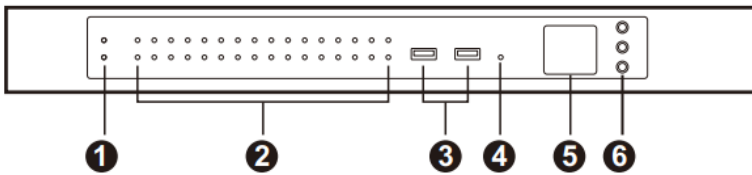
ケーブルホルダーはオプション品です。安全性を高めるには、ATEN Lok-U Plugケーブルホルダーを使用して、KVM本体の所定の位置にケーブルを固定します。使用できるのは、KVM本体と併用できるように特別に設計されたATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーのみです。他の種類のケーブル固定デバイスを使用すると、KVM本体またはユーザーに取り返しの付かない損傷や損害を与える可能性があります。

製品各部名称

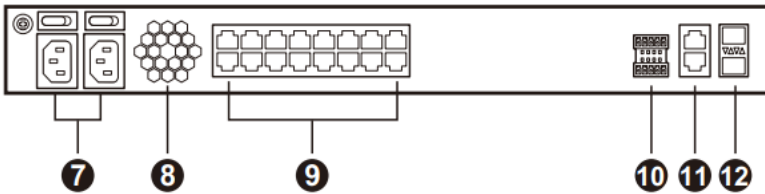
KG0016 フロントパネル



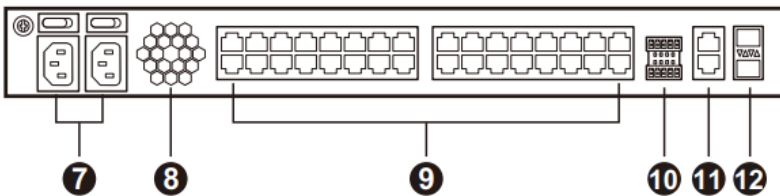
KG0032 フロントパネル



KG0016 リアパネル



KG0032 リアパネル



番号	名称	説明
フロントパネル		
1	電源LED	本体の電源がオンになると青色に点灯し、2つの電源の利用可能状況を示します。
2	ポートLED	<p>ポートLEDは、各LEDに対応するKVMポートのステータス情報を提供します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 緑色: ポートに接続されているコンピューターと1000Mbpsの速度で通信しています。 ◆ 赤色: ポートに接続されているコンピューターと10Mbpsの速度で通信しています。 ◆ オレンジ色: ポートに接続されているコンピューターと100Mbpsの速度で通信しています。
3	USB Type-A ポート (将来拡張用)	現在は機能しませんが、将来の拡張用に予約されています。

番号	名称	説明
4	リセットボタン	<p>注意:このスイッチは、ペーパークリップの先端やボールペンなど先が細いもので押す必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 動作中に、このボタンを押して離すと、本製品が再起動します。 ◆ 製品の動作中に、このボタンを3秒以上長押しすると、設定内容をリセットし、工場出荷時のデフォルト設定に戻します。 <p>注意:この操作を行っても、ユーザーアカウントの情報は消去されません。ユーザーアカウント情報の消去については、p.223「工場出荷時におけるデフォルト設定」を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを押したまま製品本体の電源をオンにすると、これまでにアップグレードされたファームウェアの内容を破棄して、工場出荷時におけるファームウェアバージョンに戻します。この操作によって、ファームウェアアップグレードのエラーから回復して、アップグレードを再度行うことができます。 <p>注意:このオプションはファームウェアアップグレードに失敗し、製品本体が操作できなくなった場合にのみ、実行してください。</p>
5	LCDパネル	<p>デバイスの情報、デバイスのデフォルトへのリストア、システムの再起動、およびシステムのシャットダウンを示します。p.22「LCDの操作」を参照してください。</p>
6	ボタン (OSDナビゲーション (上下)および ENTER)	<p>デバイスの情報の表示、デバイスへのデフォルト値の復元、システムの再起動、およびシステムのシャットダウンを行うために、LCD画面を操作します。p.22「LCDの操作」を参照してください。</p>

番号	名称	説明
リアパネル		
7	電源ソケットおよびスイッチ	<p>◆ 電源ケーブルを接続します。左側の電源ソケットは左側の電源スイッチに対応し、右側の電源ソケットは右側の電源スイッチに対応します。</p> <p>◆ 製品本体に電源を入れたり切ったりするための標準的なロッカースイッチです。</p>
8	本体冷却用ファン	ファン速度の情報は、デバイス管理画面にリアルタイムで反映されます。上記の画像の各ファンの速度はダッシュボードに表示されます。詳細は p.92を参照してください。
9	KVMポート	ここには、KVM本体とKVM アダプタ(サーバーに接続)をストレート配線のCat 5e/6ケーブルで接続します。
10	デジタルI/O ポート (将来拡張用)	現在は機能しませんが、将来の拡張用に予約されています。
11	シリアルポート (将来拡張用)	現在は機能しませんが、将来の拡張用に予約されています。
12	SFP+スロット	<p>ユニットをLANに接続する10Gbps光ファイバーモジュールがここに接続されます。</p> <p>注意: SFP+スロットは、10GBASE-LRおよび10GBASE-SRのみをサポートします。</p>


第2章 ハードウェアのセットアップ

概要

様々な映像インターフェースのコンピューターを柔軟かつ簡単に接続できるよう、KVM アダプタを組み合わせて利用する設計となっています(詳細はp.17「USB KVM アダプタの接続」参照)。

KVM本体に接続するサーバー1台に対して、KVM アダプタが1台必要になります。型番は、p.7「KVM アダプタ」セクションに記載されています。

セットアップの前に

1. この装置の設置および接地に関する重要な安全上の注意は、p.191以降に記載されています。作業の前に必ず目を通してください。
2.  今から接続するデバイス全ての電源がオフになっていることを確認してください。コンピューターにキーボード起動機能がついている場合は、ここからも電源ケーブルを抜いてください。
3. 環境温度が高い場合は、注意してデバイス进行操作してください。このような条件下では、デバイスの表面が過熱する可能性があります。例えば、環境温度が50°Cに近づくと、デバイスの表面温度が70°C以上になる場合があります。

KG0016 / KG0032 のセットアップ

p.15から始まる接続図(図中の番号は、指示手順の番号に対応)を参照し、次の手順に従って作業を行ってください。

1. アース線の片方の端をKG0016/KG0032本体のグラウンドターミナルに接続したら、もう片方の端を適切な接地物に接続してください。
-

注意:

この手順は省略しないでください。適切な接地を行うことで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

2. セットアップするサーバーに適したKVM アダプタを、ストレート配線のCat 5e/6ケーブルで製品本体のKVM ポートに接続します。その後、KVM アダプタのもう片方の端をサーバーに接続します。
-

注意:

- ◆ KVM本体とKVM アダプタの距離が、使用しているKVM アダプタで指定された最大距離を超えないようにセットアップしてください。
 - ◆ KG0016 / KG0032とKVM アダプタが直接接続されており、間にネットワークスイッチなどの機器を繋いでいないことを確認してください。
-

3. ファイバーモジュールとファイバーをユニットのSFP+スロットに接続し、もう片方の端をネットワークスイッチに接続して、WinClientやWebClientなどのIP経由の操作を可能にします。

注意:

SFPスロットは、10GBASE-LRおよび10GBASE-SRのみをサポートします。

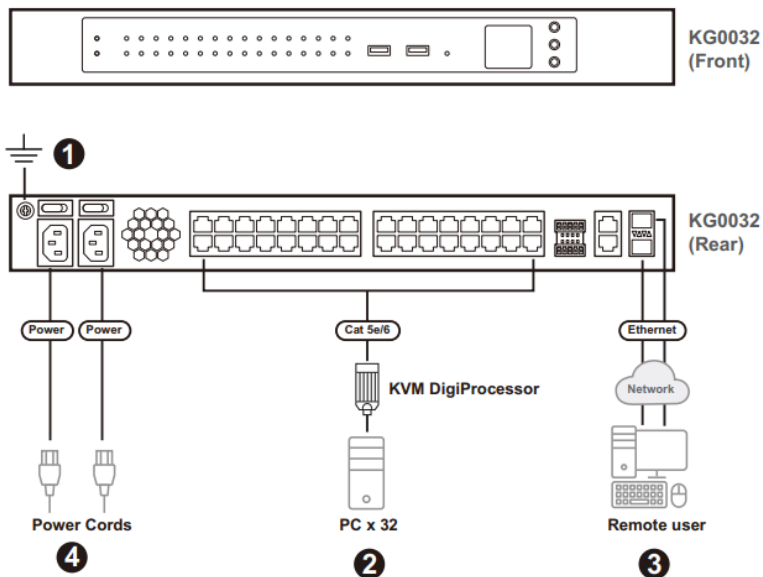
4. 本体の電源ソケットの1つに電源ケーブルを接続し、電源スイッチをオンにします。これでKG0016/KG0032の電源がオンになります。
-

注意:

電源を二重化する場合は、ユニットにある2つ目の電源ソケットに2本目の電源ケーブルを接続します。

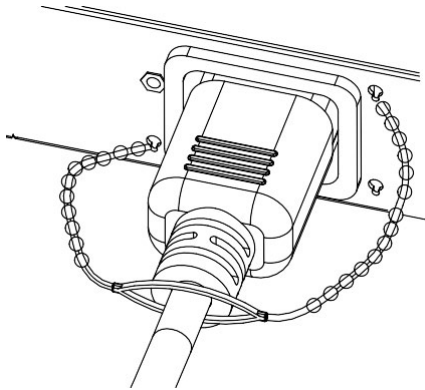
5. サーバーおよびその他の接続機器に電源を入れてください。

接続図(単体使用時)



ケーブルの固定

安全性を高めるには、ATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーを使用して、電源供給デバイスのケーブルをKVM本体の所定の位置に固定します。各電源アウトレットの周りには特別に設計された穴を使用して、ケーブルホルダーを下図のようにホルダーを穴に挿し込んで固定してください。



注意:

1. ケーブルホルダーはオプション品です。p.8「ケーブルホルダー」を参照してください。
 2. KVM本体と併用できるように特別に設計されたATEN Lok-U-Plugケーブルホルダーのみ使用できます。他の種類のケーブル固定デバイスを使用すると、KVM本体またはユーザーに取り返しの付かない損傷や損害を与える可能性があります。
-

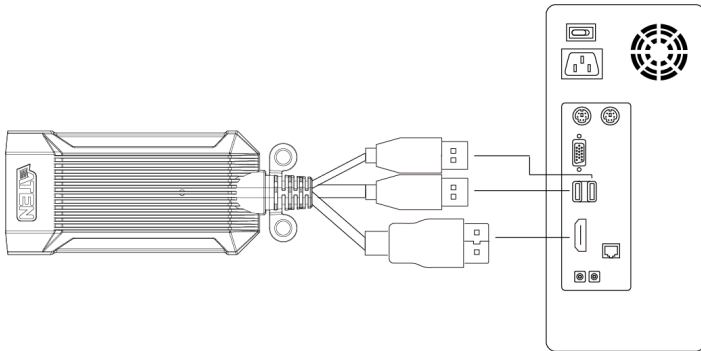
USB KVM アダプタの接続

USB KVM アダプタ (KG1900T / KG6900T / KG8900T / KG9900T) をKVM 本体に接続するには、次の手順に従って作業を行ってください。

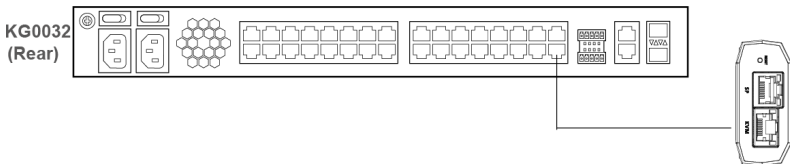
注意:

ここでは、USB HDMI KVM アダプタであるKG8900Tを例として、手順を説明します。

1. USB KVM アダプタのUSBおよびHDMIコネクタを、セットアップするPCの対応するポートに接続します。2つのUSBコネクタは両方ともPCに必ず接続してください。



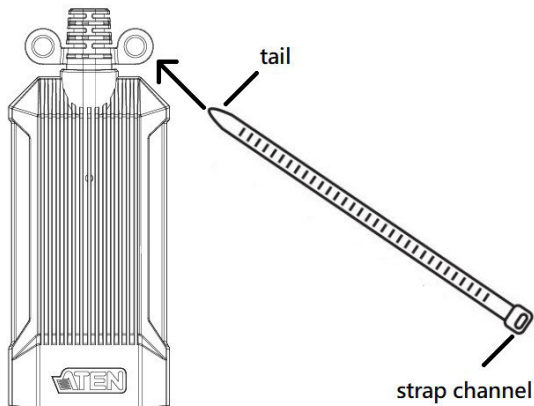
2. USB KVM アダプタのRJ-45ポート (KVMポート) とKVM 本体のKVMポートを、ストレート配線のCat 5e/6ケーブルで接続します。この時、KVMポートとアダプターの間はJJコネクタやネットワークスイッチなどはさまないで、必ずケーブル直結で接続してください。



3. USB KVM アダプタは、ケーブルタイ、ネジとケージナット、またはマジックテープを使用してラックに固定できます。

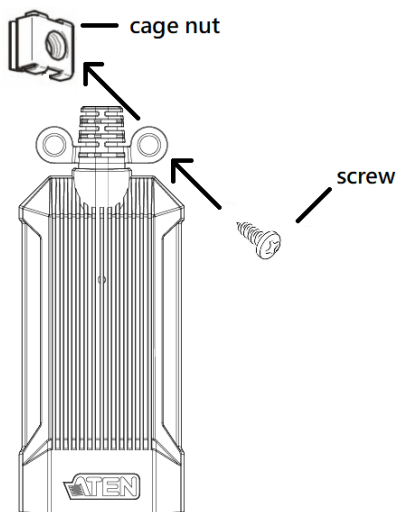
◆ ケーブルタイを使用してUSB KVM アダプタを固定する場合

ご自身で用意されたケーブルタイのテール部分をSR取り付けハンガーに挿入して通したら、テール部分をストラップチャンネルに接続し、ストラップをラックに締め付けてください。



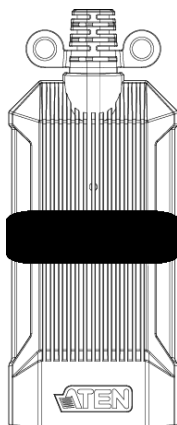
◆ ネジとケージナットを使用してUSB KVM アダプタを固定する場合

ネジとケージナットをご自身で用意していただき、このネジを使用してSR取り付けハンガーをケージナットにねじ込んで、USB KVM アダプタをラックに固定してください。最初にケージナットがラックに固定されていることを確認してください。



◆ マジックテープを使用してUSB KVM アダプタを固定する場合

ご自身で用意していただいたマジックテープを使用して、USB KVM アダプタをラックに固定してください。



ホットプラグ

本製品(KG0016/KG0032)はホットプラグに対応しています。KVMアダプタは、KVM本体やサーバーをシャットダウンすることなく、ポートからケーブルを抜き差ししたり、取り外してシステム機器構成を変更できます。

注意:

サーバー本体並びにOSがホットプラグに対応していない、USBホットプラグを無効にしている場合、この機能は正常に動作しないことがあります。

モジュールID機能

KVM アダプタに関する情報(モジュールID、ポート名、OS、キーボード言語、アクセスモード、アクセス権)は、KVM アダプタ内部メモリに保存されます。KVM 本体は接続時にデータ取得し、KVM本体のデータベースに保存します。そのため、KVM 本体に接続していたポートを同じKVM本体の別のポートへ繋ぎ変える場合、手動更新は必要はありません。これらの情報は、移動先のポートに接続されると読み直し、更新されます。

そのためKVM アダプタを別のKG0016/KG0032本体につなぎ変えると、KVM アダプタに保存されている情報が上書き展開されます。その他の設定については、繋ぎ変えた先のKVM本体の管理画面で再設定するか、バックアップ/リストア機能(p.176参照)を使用して復元する必要があります。

本製品ならびにKVM アダプタはサーバーのハードウェア情報は保存されないためKVM アダプタを新品と交換したり、新しいサーバーを既存のKVM アダプタに接続したりする場合は、サーバーに関する設定を手動で再構成する必要があります。

電源オフと再起動

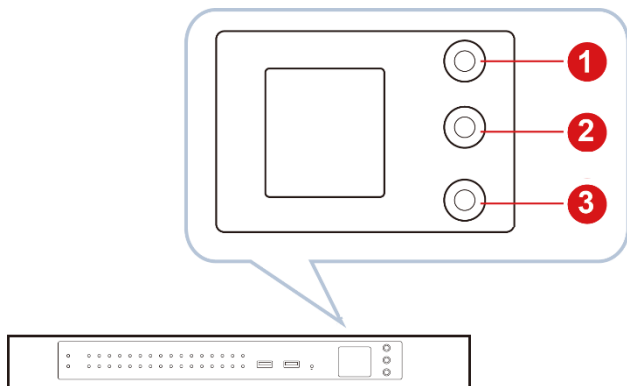
KVM本体の電源をオフにする必要がある場合、または再起動が必要になった場合は、30 秒待って完全放電してから電源を再投入します。サーバーは本製品の再起動の影響を受けないようになっていますが、しかし、サーバーがUSBデバイスの接続状態を監視している設定など、デバイス再接続によって障害報告やセキュリティ警告が発報された場合は各監視システム側の操作で復旧を行ってください。

ポート選択

ポートの選択は、GUIを使用して行います。ポートの選択については、第6章「ポートアクセス」を参照してください。

LCDの操作

本製品には、LCD ディスプレイが付属しています。ユーザーはこの部分を使って、デバイス情報の確認、デバイスのデフォルト値の復元、システムの再起動・シャットダウンといった操作を行うことができます。

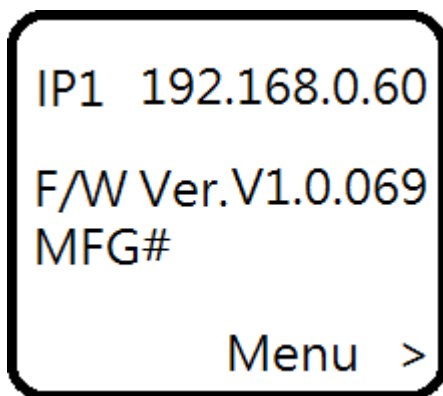


次の機能を提供する3つのボタンがあります。

番号	ボタン	説明
1	UP	<ul style="list-style-type: none">◆ メニュー画面でこのボタンを押すと、上に移動します。◆ ボタンを3 秒間押し続けると、LCD 操作のロック/ ロック解除ができます。
2	DOWN	<ul style="list-style-type: none">◆ メニュー画面でこのボタンを押すと、下に移動します。
3	MENU / ENTER	<ul style="list-style-type: none">◆ ボタンを押すとメニュー画面に入り、詳細を確認します。◆ ボタンを押すと、選択操作を行います。

ホーム画面

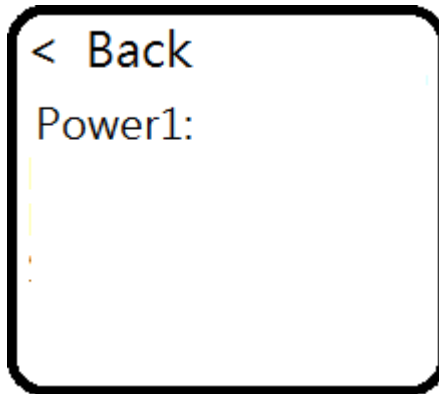
デバイスをAC電源に接続し、電源を入れると、LCD ディスプレイにホーム画面が表示されます。



項目	説明
IP1 / IP2	LAN 1 / LAN 2のIPアドレスを示します。
F/W	ファームウェアバージョンとMFG番号(※製品保証シリアル番号とは異なります)を表示します。
Menu >	Menuボタンを押すと、メニュー画面に移動します。

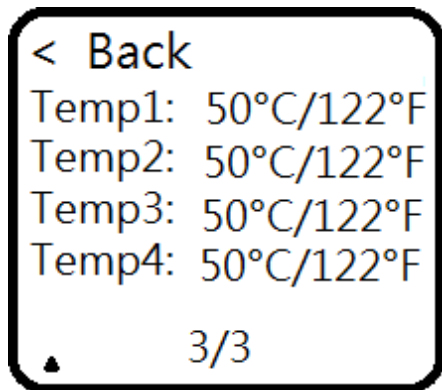
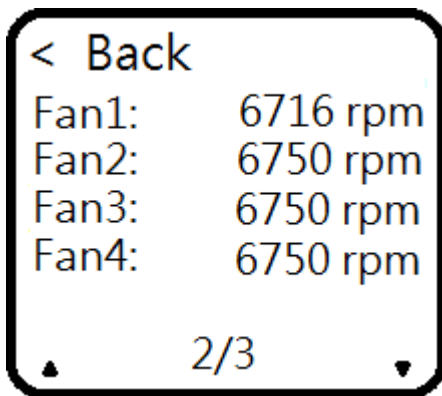
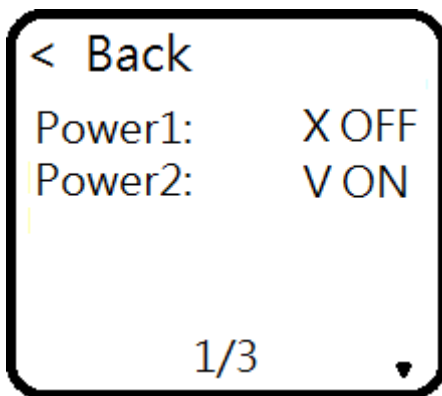
メニュー画面

メインメニュー画面では、本製品の環境ステータスの確認、デバイスへのデフォルト値のリストア、システムの再起動、またはシステムのシャットダウンを行うことができます。

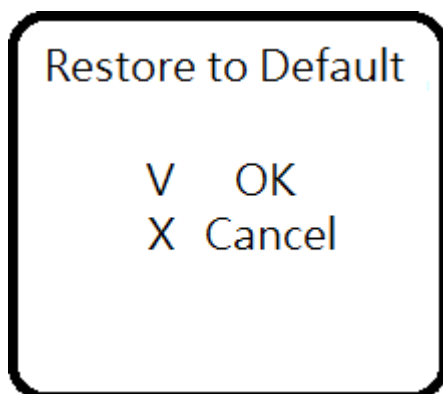


項目	説明
< Back	ENTERボタンを押すと、前の画面に移動します。
Environment Status	ENTERボタンを押すと、環境ステータス画面に移動します。
Restore to Default	ENTERボタンを押すと、デバイスのデフォルト値を復元します。
Reboot System	ENTERボタンを押すと、システムを再起動します。
System Shutdown	ENTERボタンを押すと、システムをシャットダウンします。 注意: 「システムのシャットダウン」は、単純にオペレーティング・システムのシャットダウンを行います。デバイスを完全に電源OFFにする、またはデバイスを再起動するには、ユニットのリアパネルにある電源スイッチを使用します。

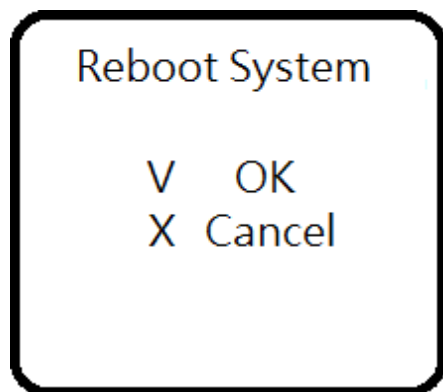
環境ステータス画面



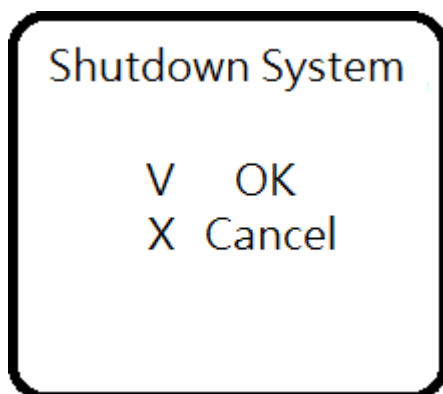
デフォルト値の復元



システムの再起動



システムのシャットダウン



第3章 ログイン

概要

本製品は、対応ブラウザまたは専用のリモートアクセスアプリからアクセスできます。

どのアクセス方法を選択しても本製品は、有効なユーザーネームとパスワードを入力する必要があります。間違ったログイン情報が入力されると、認証ルーチンから、「無効なユーザーネームまたはパスワード」や「ログイン失敗」のメッセージが返ってきます。この類のメッセージが表示された場合は、正しいユーザーネームとパスワードで再ログインしてください。

注意:

無効なログイン試行が一定の回数を超えると、タイムアウト時間が作動します。この場合、このタイムアウト時間が経過するまで、再ログインすることができなくなります。詳細については、p.151「ログイン失敗」を参照してください。

ブラウザーによるログイン

本製品は、対応ブラウザでアクセスできます。本製品にアクセスするには、次の手順を実行します。

1. ブラウザを開き、アドレスバーに本製品のIPアドレスを入力します。

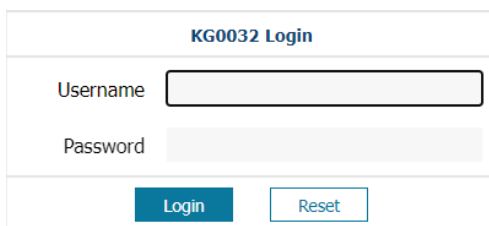
注意:

セキュリティのために、管理者によってログイン文字列が設定されている場合があります(詳細についてはp.155を参照してください)。その場合、ログインの際に、IPアドレスの後にスラッシュを入れてから文字列を入力してください。次に例を示します。

https://192.168.0.60/kg0032

IPアドレスやログイン文字列がご不明な場合は、管理者にご相談ください。

2. セキュリティー警告ダイアログボックスが表示された場合は、証明書を受け入れられます。これは信頼できるものです。(詳細はp.217「信頼された証明書」参照)。別のセキュリティの警告に関するダイアログが表示されたら、その証明書を受け入れてください。
または「このサイトの閲覧を続行する(推奨されません)」をクリックすると、ログイン画面が表示されます。



KG0032 Login	
Username	<input type="text"/>
Password	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/>	<input type="button" value="Reset"/>

3. ユーザーネームとパスワード(管理者が設定)を入力し、「ログイン」をクリック

クすると、ウェブのメイン画面が表示されます。ウェブメイン画面の説明は、p.34を参照してください。

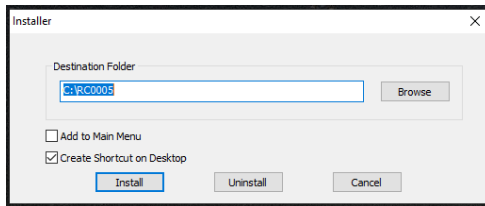
注意:



アドミニストレーターで、初めてログインする場合は、デフォルトのユーザー名(administrator)とパスワード(password)を使用します。カリフォルニア州IoTセキュリティ法に準拠するため、ログインパスワードの変更を求めるプロンプトが表示されます。このパスワードは、ログインパスワードとは異なるものに設定してください。

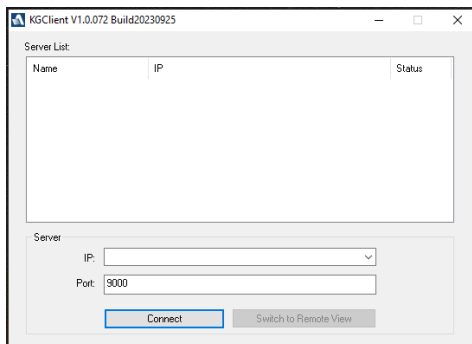
WindowsClient APによるログイン

システム管理者は、一般ユーザーにブラウザでのアクセスを許可したくない場合があります。専用のWindowsクライアントアプリを使用すると、ブラウザを介さずにWindowsシステムユーザーに直接リモートアクセスできます(ただし、ユーザーへ配布できるようあらかじめ、ブラウザ画面からアプリをダウンロードしてください。詳細は第12章「ダウンロード」を参照してください)。

本製品にリモート接続するには、リモート端末にコピーしたWindowsクライアントをそのアイコン(WinClient.exe) をダブルクリックしてWinClientアプリをインストールします。そうすると、インストーラー画面が表示されます。



「インストール」をクリックしてWinClientアプリをインストールすると、デスクトップに次のようなアイコン()が表示されます。  をダブルクリックするとWinClient接続画面が表示されます。



WindowsClient APの接続画面

接続画面の説明を次の表に示します。

項目	説明
サーバーリスト	<p>WinClient.exeファイルが実行されると、リモート端末と同じネットワークセグメントにある本製品が検索され、検出されたものがここの一覧で表示されます。これらのユニットのいずれかに接続する場合は、ダブルクリックします。(詳細については、p.32「接続 - WindowsClient AP」を参照してください。)</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">1. 本製品は、「デバイスを有効にする」の設定パラメーターが有効になっていない限り、リストに表示されません。詳細は、p.136「操作モード」を参照してください。2. プログラムのアクセスポート設定(p.138「サービスポート」参照)が、このダイアログボックスの「サーバー」セクションにある「ポート」で指定した番号と一致するユニットのみが、「サーバーリスト」ウィンドウに表示されます。
サーバー	<p>この項目は、IPアドレスを直接入力して接続するときに使います。IPリストボックスを開いて、アドレスを選んでください。希望のアドレスが見つからない場合、「IP」にターゲットIP、「ポート」にポート番号を入力してください。ポート番号がわからない場合は、管理者に確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ IPアドレスとポート番号を指定したら、「接続」をクリックします。(詳細については、p.32「接続 - WindowsClient AP」を参照してください。)◆ セッションが終了し、このダイアログボックスに戻ったら、「切断」をクリックして接続を終了します。
リモート表示に切替	<p>認証されると(詳細については、p.32「接続 - WindowsClient AP」参照)、このボタンがアクティブになります。クリックすると、GUIメイン画面に切り替わります。GUIメイン画面については、p.42で説明します。</p>

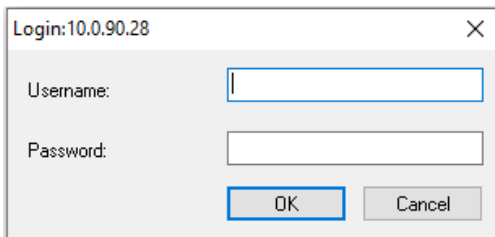
接続 - WindowsClient AP

リモートから本製品に接続するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. サーバーリストボックスから、接続するデバイスを**ダブルクリック**します。
- または -
「サーバーIP」と「ポート」の各入力ボックスでIPアドレスとポート番号を指定します。

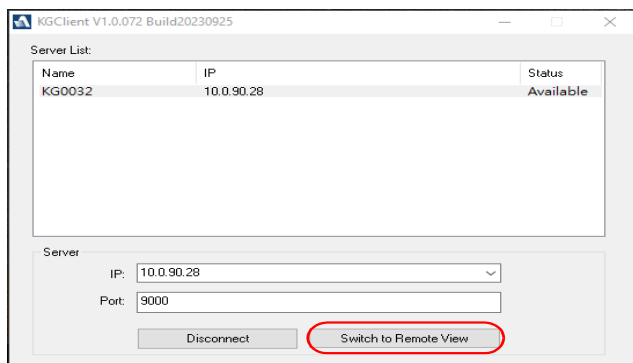
2. 「**接続**」をクリックします。

そうすると、「ログイン」ダイアログボックスが表示されます：



A dialog box titled "Login:10.0.90.28" with a close button (X) in the top right corner. It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "OK" and "Cancel".

3. 有効なユーザーネームとパスワードを入力したら、「OK」をクリックします。
4. 認証されると、「リモート表示に切替」ボタンが有効になります。これをクリックすると、本製品に接続し、GUIメイン画面を表示します。GUIメイン画面については、p.42を参照してください。



The main window of the KGClient software, titled "KGClient V1.0.072 Build20230925". It features a "Server List:" section with a table containing one entry:

Name	IP	Status
KG0032	10.0.90.28	Available

Below the table is a "Server" section with two input fields: "IP:" (containing "10.0.90.28") and "Port:" (containing "9000"). At the bottom, there are two buttons: "Disconnect" and "Switch to Remote View", with the latter highlighted by a red circle.

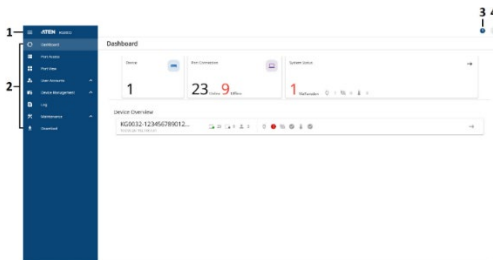
第4章 ユーザーインターフェース

概要

ブラウザでログインすると、メイン画面が表示されます。画面の見た目はアカウントの権限によって表示項目が異なります。各インターフェースについては、次のセクションで説明します。

ウェブブラウザのメイン画面

マルチプラットフォームの相互運用性を確保するために、KVMへは大半のモダンウェブブラウザでアクセスできます。ユーザーがログインして認証されると (p.34参照)、ウェブブラウザのメイン画面が表示され、「ポートアクセス」画面が表示されます。




注意:

説明には、スーパーアドミニストレーター(最大の管理権限を持つアカウント)用の画面を使用しております。ユーザーの種類や操作権限によっては、表示されている全てのメニューが利用できるとは限りません。

画面各部名称

ウェブ画面における各部名称と説明は、下表の通りです。







番号	項目	説明
1		クリックすると、タブバーを展開または最小化します。
2	タブバー	タブバーには、この製品のメイン操作カテゴリーが表示されます。表示される項目は、ユーザーアカウントのタイプと操作権限によって決まります。p.36「タブバー」を参照してください。
3	バージョン情報	「バージョン情報」は、本体の現在のファームウェアバージョンとそのオンラインヘルプに関する情報を提供します。p.37「バージョン情報」を参照してください。
4	ユーザー設定	ユーザー情報の確認、ユーザー環境設定、パスワードの変更、ログアウトを行う場合は、このボタンをクリックします。p.38「ユーザー設定」を参照してください。



製造番号

「MFG番号」(製造番号)は、ATENの工場や技術サポートが製品の製造時期を識別するための内部シリアル番号です。この番号は、特定の障害や問題が発生した際に使用されますが、製品保証期間には影響しません。修理サービスが必要な場合は、MFG番号ではなく、製品底面や箱に記載されている保証用シリアル番号をお伝えください。

タブバー

画面上部のタブメニューに表示されるアイコンの数と種類は、ユーザーの種類（スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー）や、与えられた操作権限によって異なります。各アイコンの機能については、以下の表をご覧ください。

アイコン	機能
	ダッシュボード :ダッシュボード画面を使うことで、ポート接続、システムステータス、デバイス概要などのデバイス情報を簡単に確認することができます。
	ポートアクセス :ポートアクセス画面は、本体の機器構成にアクセスしてデバイスを制御するために使用します。このメニューは全てのユーザーがアクセス可能です。
	ポートビュー :ポートビュー画面は、パネルアレイモードを呼び出します。このモードでは、画面は最大64分割されてパネル表示されます。
	ユーザーアカウント :、ユーザーやグループを作成・管理します。デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。詳しくは、p.111をご参照ください。この機能は、スーパーアドミニストレーターと権限を持つアカウントにのみ開放されています。権限の無いアドミニストレーターやユーザーには、このタブは表示されません。
	デバイス管理 :本製品の全体的な設定や制御を行います。この機能は、スーパーアドミニストレーターと権限を持つアカウントだけが使用できます。権限の無いアドミニストレーターやユーザーには、このタブは表示されません。
	ログ :ログファイルの内容を表示します。ログ画面については p.167で説明します。

アイコン	機能
	<p>メンテナンス:メンテナンス画面は、新しいファームウェアのインストール、設定とアカウント情報のバックアップとリストア、ネットワークデバイスに対するpingコマンド実行、およびデフォルト値のリストアに使用します。詳細、p.187で説明します。この画面はスーパーアドミニストレーター(およびメンテナンス権限のあるアドミニストレーターとユーザー)が使用できます。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。</p>
	<p>ダウンロード:ユーザーはこのアイコンをクリックして、Windows Client のAP版およびログサーバーをダウンロードできます。このメニューは全てのユーザーがアクセス可能です。ダウンロードできるプログラムは、ユーザーの権限によって異なります。</p>

バージョン情報

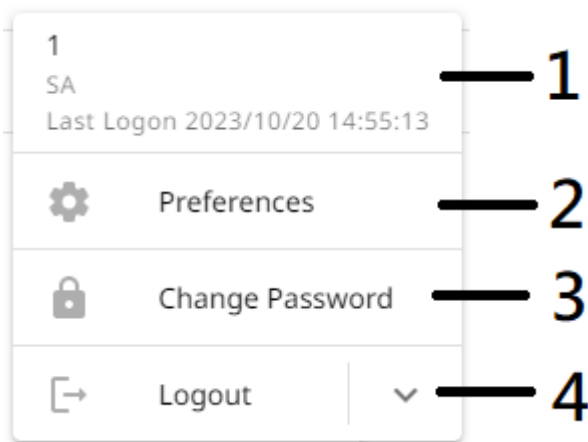
クリックすると、オンラインヘルプとバージョン情報を含むパネルが表示されます。



番号	項目	説明
1	オンラインヘルプ	クリックすると、本製品のウェブページにアクセスして、クイックスタートガイドやユーザーマニュアルなどの関連情報を確認できます。
2	バージョン情報	クリックすると、本体のファームウェアバージョンに関する情報が表示されます。

ユーザー設定

クリックすると、環境設定とパスワードの変更オプションを含むパネルが表示されます。また、ログアウトして本製品とのKVMセッションを終了することもできます。



番号	項目	説明
1	ユーザー情報	ユーザー情報とその説明を表示します。
2	設定	クリックすると、言語、ID表示/期間、ログアウトタイムアウト、ビューア設定などのユーザー設定を定義します。p.39「環境設定」を参照してください。
3	パスワードの変更	クリックすると、ログインパスワードを変更します。p.41「パスワードの変更」を参照してください。
4	ログアウト	クリックすると、ログアウトして本体とのセッションを終了します。

環境設定

「ユーザー設定」画面を使用して、ユーザーごとの作業環境をカスタマイズできます。本製品は各ユーザーアカウントの設定を保存し、ログイン時にその設定を読み込みます。

The screenshot shows a 'Preferences' dialog box with the following settings:

- Language: English
- ID Display: Port Number + Port Name
- ID Duration: 3 sec
- Logout Timeout: 0 min
- Viewer: #1 Web Client (selected), #2 Win Client

Buttons: Cancel, Save

各項目の詳細は下表の通りです。

設定	説明
言語	ブラウザで表示される言語を選択します。
ID表示	ポートIDの表示方法を「ポート番号のみ」(PORT NUMBER)、「ポートネームのみ」(PORT NAME)、または「ポート番号とポートネーム」(PORT NUMBER+PORT NAME)から選択します。デフォルトは「ポート番号とポートネーム」(PORT NUMBER+PORT NAME)です。
ID表示間隔	ポートの変更が行われた後、ポートIDがモニターに表示される時間を決定します。1～255秒の間で設定できます。デフォルトは3秒です。0(ゼロ)に設定すると、ポートIDが常にオンになります。
ログアウト タイムアウト	ユーザーからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。本体に再びアクセスするには、ログインが必要です。

設定	説明
----	----

ビューア	<p>ブラウザでアクセスすると、「ビューア」セクションを設定できません。ポートに接続するときに、どのビューアの方法を優先するかを選択できます。</p> <div style="text-align: right;"> <table border="1" data-bbox="707 225 932 296"> <tr> <td data-bbox="707 225 932 261">#1 Web Client</td> <td data-bbox="958 236 980 256">↑</td> </tr> <tr> <td data-bbox="707 261 932 296">#2 Win Client</td> <td data-bbox="958 268 980 288">↓</td> </tr> </table> </div> <p>Viewer</p> <p>詳細については、p.41「ビューアの環境設定」(下記)を参照してください。</p>	#1 Web Client	↑	#2 Win Client	↓
#1 Web Client	↑				
#2 Win Client	↓				

表示設定

ブラウザアクセス時のみ「ユーザー環境設定」にのみ表示されるこの項目は、リモートアクセスのアプリを選択できます。

ビューアを手動で選択するには、p.97「サイドバー」を参照してください。

使用可能なビューアは、ログイン時のシステムのステータスとブラウザーの種類によって自動的に決定されます。

ポートに接続しようとする(ポートをダブルクリックするか、ポートを選択して「接続」をクリックすると)、ビューアリストに従ってどちらのリモートアクセスアプリが起動します。以下に例を示します。

Viewer	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="590 888 869 932">#1 Web Client</td> <td data-bbox="904 906 926 927">↑</td> </tr> <tr> <td data-bbox="590 932 869 978">#2 Win Client</td> <td data-bbox="904 946 926 967">↓</td> </tr> </table>	#1 Web Client	↑	#2 Win Client	↓
#1 Web Client	↑				
#2 Win Client	↓				

- ◆ #1に設定した方法が最初にビューワとして起動を試みます。初期設定はWebClientです。
- ◆ WinClientを選択した場合、すでにリモート端末にアプリをインストールしていればブラウザからアプリを起動し接続します。
- ◆ #1にWinClientに設定し、リモート端末がWinClientをインストールされていない場合、#2で指定したWebClientでのアクセスを試行します。

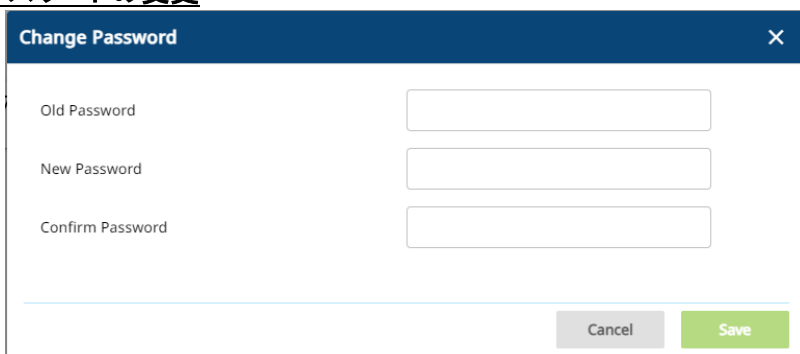
ビューア環境設定の調整

以下の手順で環境設定を調整します。

1. クリックして方法を選択し、強調表示させます。上記では2番目に「WinClient」の方法が選択されています。
2. 上(▲)下(▼)の矢印をクリックして、位置を移動します。

上向き矢印(▲)は上方向に移動し(優先度が高くなります)、下向き矢印(▼)は下方向に移動します(優先度が低くなります)。

パスワードの変更

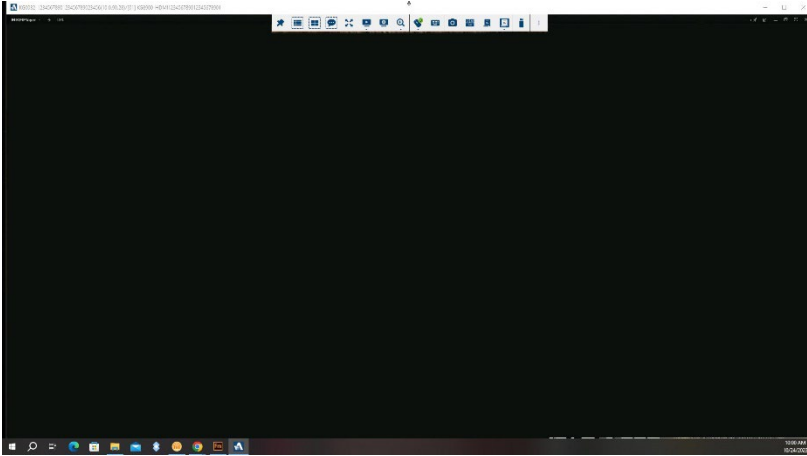


The image shows a 'Change Password' dialog box with a dark blue header and a close button (X) in the top right corner. It contains three text input fields labeled 'Old Password', 'New Password', and 'Confirm Password'. At the bottom right, there are two buttons: 'Cancel' (grey) and 'Save' (green).

設定	説明
旧パスワード	KVM本体の旧パスワードを正しく入力します。
新パスワード	KVM本体の新パスワードを入力します。
パスワードの確認	KVM本体用に上記で入力した新パスワードを確認用に入力します。

AP GUIメイン画面

WinClient APIによるアクセスでは、ユーザーがログインすると(p.28「ログイン」参照)、GUIメイン画面(接続先のPCの画面)が表示されます。



GUIメイン画面は、操作目的でのみ設計されています。画面の上部または下部中央にはコントロールパネルがあり、マウスを近づけると表示されます。デフォルトは画面の上部中央にあります。

コントロールパネル

WinClientのコントロールパネル

WinClientには本製品のリモート接続の全機能が搭載されています。このセクションではWinClientコントロールパネルについて説明します。WebClientでは、一部機能が再現され全ての機能は利用できませんが、共通の機能は以下をご参照ください。

コントロールパネルは、画面の上部・下部中央・右・左のいずれかで非表示になっており(デフォルトは上部中央)、その上にマウスを重ねると表示されます。




















注意:






上の画像は、フル機能が利用できるコントロールパネルを表しています。表示されるアイコンはユーザーが選択できます。詳細については、p.82「コントロールパネルのカスタマイズ」を参照してください。

WinClientのコントロールパネルの機能

コントロールパネルの機能を以下の表に示します。


アイコン	機能
	コントロールパネルが常に画面に表示されます。もう一度クリックすると、通常の状態に戻します。
	切り替えて接続できるポート一覧を表示します。
	アクセスされたポートでクリックすると、パネルアレイモードを呼び出します (p.109「ポートビュー」参照)。
	メッセージボード (p.51 参照) を起動します。
	フルスクリーンモードとウィンドウモードを交互に切り替えます。
	接続対象のポートを選択します。
	ビデオの画質設定を表示します。(詳細については、p.53「ビデオ設定」を参照してください)。
	リモート画面のウィンドウをズーム表示します。 注意: この機能はウィンドウモード(フルスクリーンモードがオフ)でのみ使用できます。詳細については、p.57「ズーム」を参照してください。
	リモートディスプレイをカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。

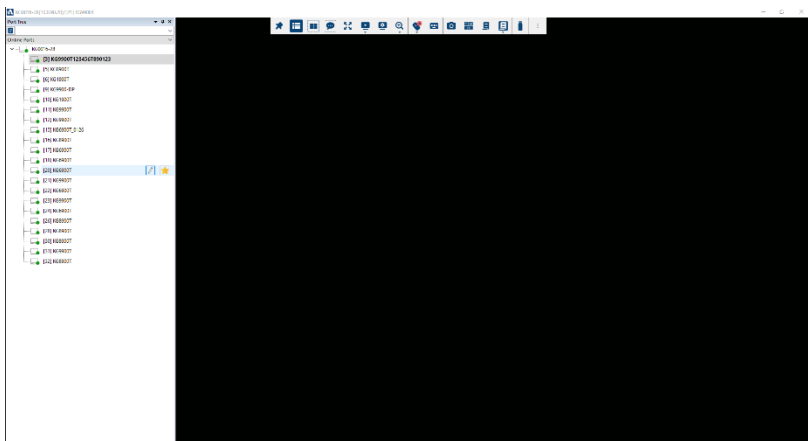
アイコン	機能
	<p>マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「自動」を選択すると、アイコンに緑色の✓が表示されます。 ◆ 「手動」を選択すると、アイコンに赤色の×が表示されます。 <p>この機能に関する詳細については、p.58「マウスダイナシンクモード」をご参照ください。</p>
	<p>マウスポインターの種類を選択します。</p> <p>注意:このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります(p.60「マウスポインターの種類」参照)。</p>
	<p>オンスクリーンキーボード(p.61参照)を起動します。</p>
	<p>リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。スナップショットに関するパラメーター設定の詳細については、p.83「スナップショット」を参照してください。</p>
	<p>[Ctrl] + [Alt] + [Delete]のキー入力を接続先のサーバーに送信されます。</p>
	<p>マクロダイアログボックスが表示されます(詳細はp.63参照)。</p>
	<p>ユーザーマクロのドロップダウンリストが表示され、「マクロ」ダイアログボックスを使用するよりも簡単にマクロにアクセスして実行できるようになります(上の表におけるマクロアイコンおよびp.63「マクロ」セクション参照)。</p>
	<p>「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。アイコンは、バーチャルメディア機能の状態に応じて変化する(詳細についてはp.75「バーチャルメディア」を参照してください)。</p> <p>注意:このアイコンは、機能が無効になっているか使用できない場合、灰色で表示されます。</p>

アイコン	機能
	<p>リモート端末のスピーカーで聞こえるように音声のオン・オフを切り替えます。オフに切り替えると、アイコンに「禁止」記号(斜線の付いた赤い円)が表示されます。</p>
	<p>これらのアイコンは、リモートコンピューターにおける[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]の各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ロック状態がオンの場合、LEDは緑色に点灯し、ツルの部分が閉じた状態になります。
	<ul style="list-style-type: none"> ◆ ロック状態がオフの場合、LEDは暗緑色になり、ツルの部分が開いた状態になります。
	<p>アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</p> <p>注意:これらのアイコンとローカルキーボードのアイコンは同期しています。アイコンをクリックすると、それに応じてキーボードの対応LEDが変化します。同様に、キーボードのロックキーを押すと、アイコンの色がそれに応じて変化します。</p>
	<p>その他のコントロールパネル設定機能が表示されます。</p> <p>コントロールパネルの設定の詳細については、p.81「その他の設定」を参照してください。</p>



オンライン・ポート

本製品でアクセスできるポートがアクセス画面の左に一覧表示されます。オンライン・ポートの横にある  をダブルクリックすると、そのポートにアクセスできます。

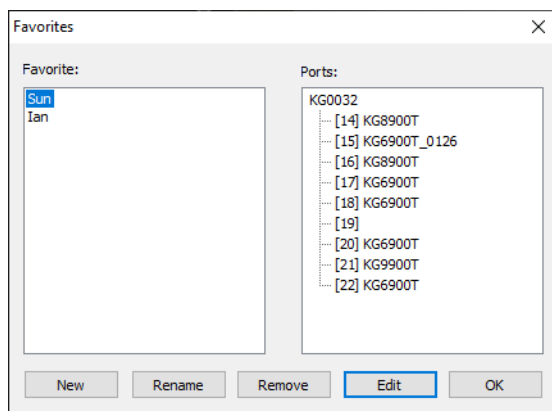


お気に入り



をクリックすると、お気に入りとして追加します。

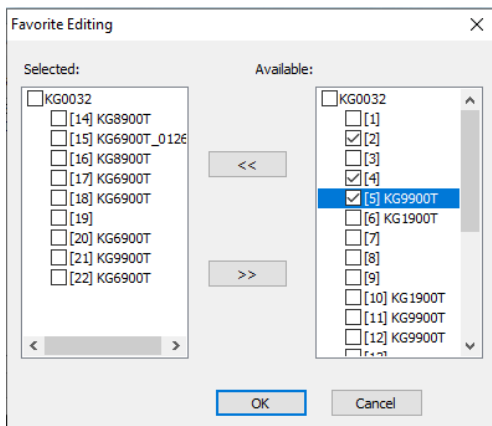
ポップアップウィンドウでお気に入りの作成・削除・編集が行えます。



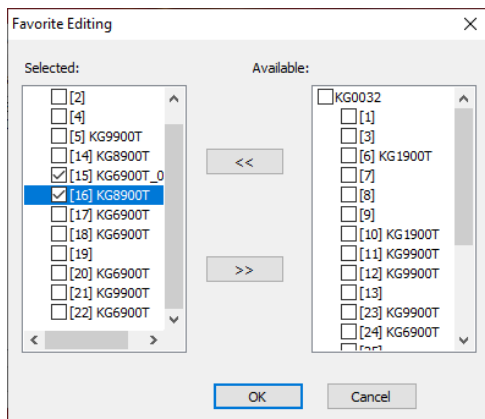
ポートの追加・削除

特定のポートだけを表示したい場合、ポートの追加・削除をしてお使いください。以下の手順に従って操作を行います。

1. ポップアップウィンドウから、ポートを追加するお気に入りを選択したら、「編集」をクリックします。
2. 「お気に入りの編集」ポップアップウィンドウで、追加対象となるポートの横にあるチェックボックスをオンにしたら、<<< をクリックします。

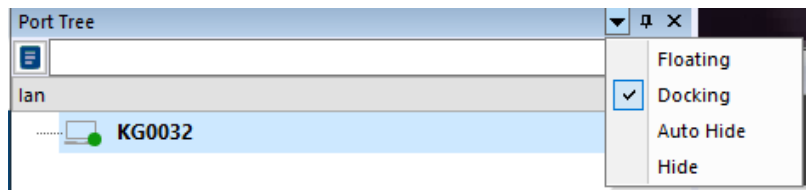


3. 「お気に入りの編集」ポップアップウィンドウで、削除対象となるポートの横にあるチェックボックスをオンにしたら、>>> をクリックします。



ウィンドウの位置

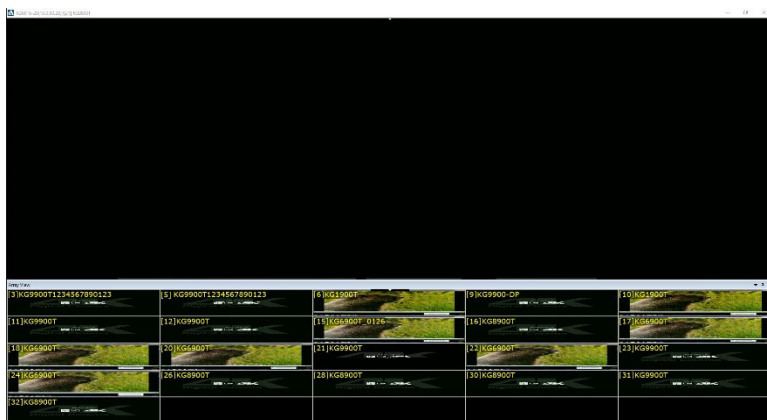
ウィンドウの位置に調整するには、▼をクリックします。4つのオプションが利用可能です。



設定	説明
フローティング	ウィンドウ位置は調整可能で、マウスカーソルを使用して画面上の任意の場所にウィンドウを移動することができます。
ドッキング	ウィンドウの位置は固定され、画面の左側に配置されます。
自動非表示	ウィンドウは自動的に画面の左側に非表示になり、上にマウスを置くとウィンドウが開きます。
非表示	ウィンドウが非表示になり、開かなくなります。

アレイの開始

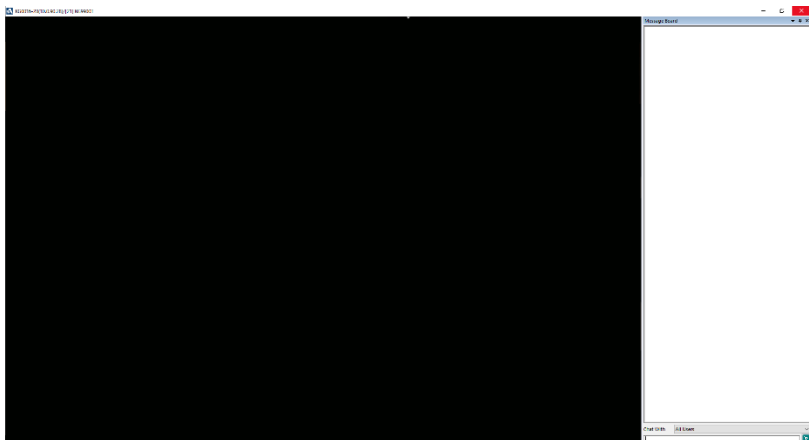
パネルアレイモードを呼び出します。このモードでは、画面は最大64分割されてパネル表示されます。パネルアレイモードを呼び出すには「アレイの開始」アイコンをクリックし、「全てのポート」を選択します。「ポートアクセス」にお気に入りがある場合は、お気に入りに割り当てられたポートのみを表示するパネルアレイモードを起動できます。





メッセージボード

本製品は複数のユーザー同時利用をサポートしているため、利用方法によっては同時操作による誤操作が発生する可能性があります。回避策として、ユーザー同士がテキストチャットができるようにしています。



メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに投稿したメッセージとシステムメッセージが、このパネルに表示されます。ただし、チャットを無効にすると、ボードに投稿されたメッセージは表示されません。

メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「送信」をクリックするか[Enter]キーを押すと、メッセージをボードに投稿します。

ユーザーリストパネル

このパネルには、ログインしている全てのユーザーの名前が表示されます。

- ◆ 自分の名前は青色で表示され、他のユーザーの名前は黒色で表示されます。
- ◆ デフォルトでは、メッセージは全てのユーザーに宛に投稿されます。特

定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。

- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「全てのユーザー」を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード・ビデオ・マウス、またはキーボード・マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。

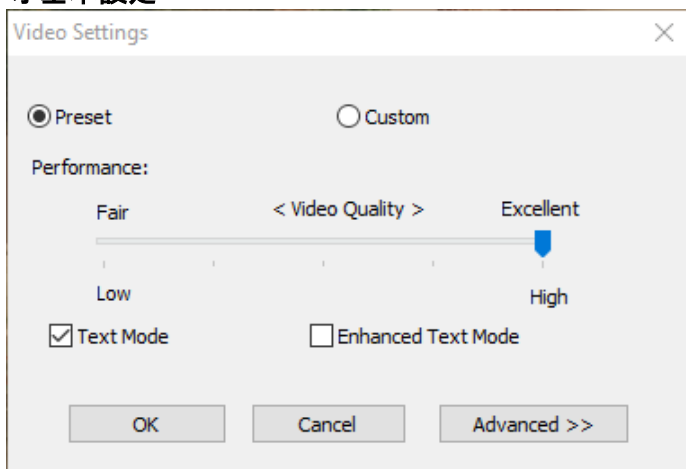


ビデオ設定

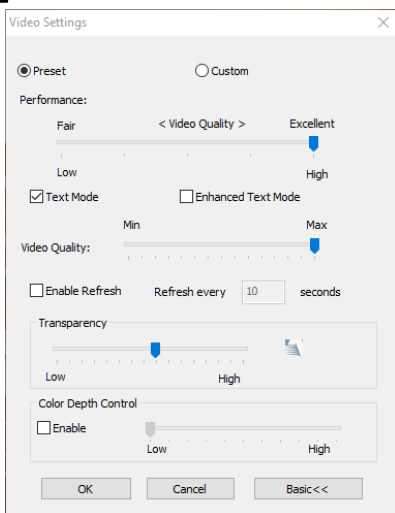
ビデオ設定アイコンをクリックすると、画質調整のためにパフォーマンスバーをスライドさせたり、テキストモードと拡張テキストモードをオン・オフにすることができます。「詳細」ボタンを選ぶと、「ビデオ詳細設定」ダイアログボックスが開き、ビデオ品質、再読み込みの有効化、透明度、色深度コントロールなどの詳細なオプションが表示されます。詳細は次のページに記載されています。

以下はWinClientのスクリーンショットとなります。WebClientはWinClientよりも機能が制限されているため、設定が無い項目もあります。

ビデオ基本設定



ビデオ詳細設定



次の表に、ビデオ調整オプションの意味を示します。

オプション	使用方法
プリセット /カスタム	「プリセット」ボタンと「カスタム」ボタンを使用すると、カスタムビデオ設定を設定して保存したり、デフォルトのビデオ設定に戻したりすることができます。
パフォーマンス	スライダーを使用して、リモート端末のネットワーク回線のタイプ(帯域)を選択してください。本製品は帯域に合わせてビデオ品質設定を自動的に調整し、ビデオ表示の品質を最適化します。 ネットワークのトラフィックが変動する場合、プリセットの選択肢のいずれもうまく動作しないように見える場合は、「詳細」を選択し、「ビデオ品質」のスライダーを使用して、条件に合わせて設定を調整することができます。
テキストモード	クリックすると、拡張テキストモードを有効または無効にします。 p.55「拡張テキストモード」を参照してください。

オプション	使用方法
拡張 テキストモード	<p>一部のインターフェースシステム(Sun Blade1000やその他のサーバなど)に影響するビデオ画面解像度に関連するビデオ表示の問題を解決するには、これをオンにしてください。この設定により、一部の表示で画像の色を改善できます。</p> <p>デフォルトYUV:4:1:1</p> <p>拡張テキストモードYUV:4:4:4</p>
ビデオ品質	<p>スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が遅くなる場合があります。</p>
再読込を 有効にする	<p>本製品は1～99秒ごとに画面を再描画できるため、画面から不要な映像ノイズを排除できます。「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を1～99の整数で入力してください。本製品は、指定した間隔で画面を再描画します</p> <p>この機能はデフォルトでは無効です。この機能を有効にするには、「再読込を有効にする」の項目にチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本製品は、マウスの動きや映像更新が停止すると時間間隔の計測を開始し、映像圧縮モードを切り替えます。 2. この機能を有効にすると、ネットワーク経由で送信されるビデオデータの量が増加します。設定するインターバル時間の値が小さくなるに従って、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
透明度	<p>GUIホットキー([Scroll Lock][Scroll Lock]など)が呼び出されたときに表示されるツールバーの透明度を調整します。バーをスライドさせて、お好みに合わせてサンプルウィンドウの表示を調整してください。</p>
色深度 コントロール	<p>この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の精細さを変更します。</p>





KVMセッションのネットワーク帯域幅情報

ネットワーク帯域幅管理の場合、理想的な状況では、1920×1200@60HzのフルスクリーンビデオディスプレイのKVMセッションに約260Mbpsがかかります。各ステーションやセッションのネットワーク環境は変動するため、前述の情報は理想的なものを提案しますが、各セッションの滑らかさや品質が保証されるわけではありません。

1ギガビットイーサネットのLANポートを使用した場合、4つのサーバーへのアクセスがおおよそ快適な同時操作の目安となります。10ギガビットイーサネットのSFP+のモジュールと各ネットワーク端末も10ギガビットイーサネットインターフェースで構成した場合は、1本のSFPモジュールで32ポート同時に快適なアクセスが確保できる目安となります。

ズーム

ズームアイコンは、リモートビューウィンドウのズーム倍率を制御します。設定内容は以下の通りです。

設定	説明
200%	リモートビューのウィンドウを200%の倍率で表示します。
175%	リモートビューのウィンドウを175%の倍率で表示します。
150%	リモートビューのウィンドウを150%の倍率で表示します。
125%	リモートビューのウィンドウを125%の倍率で表示します。
110%	リモートビューのウィンドウを110%の倍率で表示します。
100%	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。
90%	リモートビューのウィンドウを90%の倍率で表示します。
80%	リモートビューのウィンドウを80%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを75%の倍率で表示します。
67%	リモートビューのウィンドウを67%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを50%の倍率で表示します。
33%	リモートビューのウィンドウを33%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを25%の倍率で表示します。
	リモートビューのウィンドウを100%の倍率で表示します。この設定と100%設定の違いはリモートビューウィンドウのサイズを変更してもその内容はサイズ変更されず元のサイズのままになることです。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させ、画面をスクロールしてください。
	
	
	



マウスダイナシクモード

接続先のサーバーとリモート端末のマウスポインタの同期は、接続先のサーバーに合わせて動作モードを変更してください。

マウスの自動同期(ダイナシク)




自動同期では、映像信号の解像度からマウスポインタの位置を算出し、自動的にカーソル位置を同期します。

注意:

この機能は、KVM アダプタのOS 設定がWinまたはMac用に設定されている時でのみ使用できます(p.184「設定」参照)。これらのシステムは、KVM アダプタ(KG1900T、KG6900T、KA8900T、KG9900T)のいずれかがKVM本体に接続した時に利用可能です。

他の全ての機器構成では、手動設定によるマウス同期を使用する必要があります(次のセクションで説明します)。

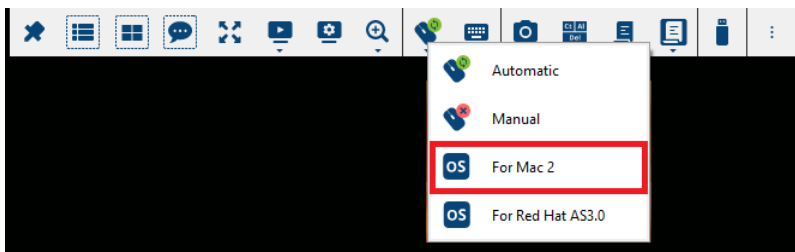
コントロールパネルのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	このアイコンは灰色で表示され、マウスダイナシクが使用できないことを示します。この場合は、手動の同期機能を使用する必要があります。これは、KG1900T、KG6900T、KG8900T、およびKG9900T以外の全てのKVM アダプタのデフォルト設定です。
	このアイコンの緑色のチェックマークは、マウスダイナシクが使用可能かつ有効になっていることを示します。これは、マウスダイナシクが使用可能な場合のデフォルト設定です(上記の注意書きを参照)。
	このアイコンの赤い×印は、マウスダイナシク機能が使用可能であるものの、 無効である ことを示します。

マウスダイナシクが利用可能な場合、アイコンをクリックすると、そのステータスが有効と無効の間で切り替わります。マウスダイナシクモードを無効にする場合は、「手動設定によるマウス同期」(p.91参照)で説明されている手動による同期処理を使用する必要があります。

Mac/Linuxの環境における注意事項

- ◆ Mac OS バージョン10.4.11(Tiger)以降をお使いの場合、デフォルト設定で十分な結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試しください。Mac 2を選択するには、コントロールパネルからマウスダイナシクモードアイコンを左クリックし、Mac 2用を選択します。



- ◆ Linuxをお使いでダイナシクモードがサポートされない場合、マウス同期モードメニュー(Red hat AS 3.0)の設定を行うことで同期が可能な場合があります。AS 3.0システムでUSBタイプのKVM アダプタ(前ページの注意書きを参照)を使用していて、デフォルトのマウス同期が不十分である場合は、Redhat AS 3.0設定を試すことができます。ただし、上記のいずれの場合においても、次のセクションに記載された手動によるマウス同期の方法で設定を行う必要があります。

手動設定によるマウス同期

2つカーソルが同期していない場合、同期させる方法がいくつかあります。

1. コントロールパネルのマウスアイコンをクリックして、マウスを手動設定にします(p.53参照)。
2. 画面の四隅にマウスポインターを動かし位置ずれの傾向性を見てください。(動かす順序は問いません)。
3. 画面端カーソルが合わせにくい場合は画面上のコントロールパネルをド

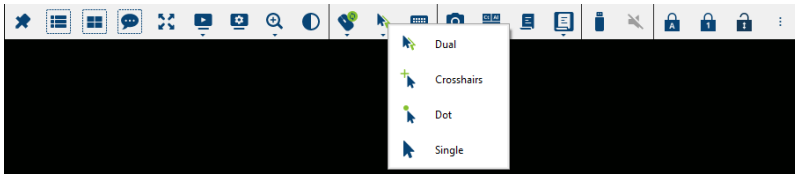
ラッグして別の場所に移動させてください。

4. 位置ずれが大きいについてマウス速度と加速度を設定します。詳細については、p.213「その他のマウス同期方法」を参照してください。



マウスポインターの種類

本製品は、リモートアクセスで作業をする際のマウスポインターに関して複数のオプションを提供します。このアイコンをクリックして、操作に使用するタイプを選択してください。



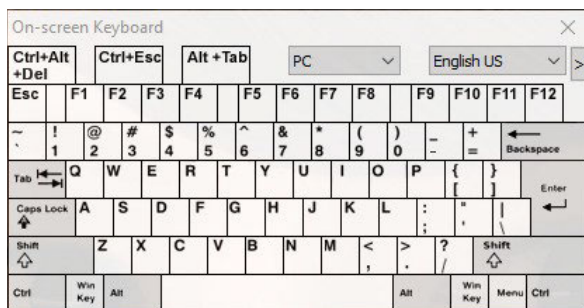
注意:

1. リモートアクセス時、設定メニュー画面にて表示されるカーソルはデュアルと十字のみです。ポートにアクセスすると、3種類のポインターが使用可能になります。
 2. シングルポインターを選択すると、マウスポインターは「マウス表示の切替」のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.65参照)。
 3. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-



オンスクリーンキーボード

本製品は、複数の言語で使用可能なオンスクリーンキーボードをサポートしています。このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードがポップアップ表示されます。



オンスクリーンキーボードの大きな利点の1つは、リモート端末とKVMアダプタで接続しているサーバーの言語が同じでない場合、この機能を使用することで、言語設定を変更する必要がありません。オンスクリーンキーボードを起動するだけで、アクセスしているサーバーで使用されている言語を選択しキー入力ができます。

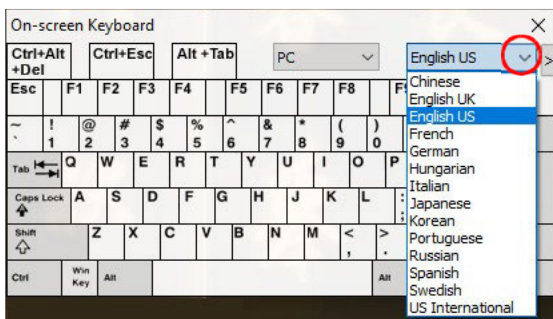
注意:

オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行ってください。キーボード操作はできません。

言語の変更

言語を変更するには、以下の手順で操作を行ってください。

1. 現在選択されている言語の横にある下向き矢印をクリックして、「言語」ドロップダウンリストを展開して表示します。

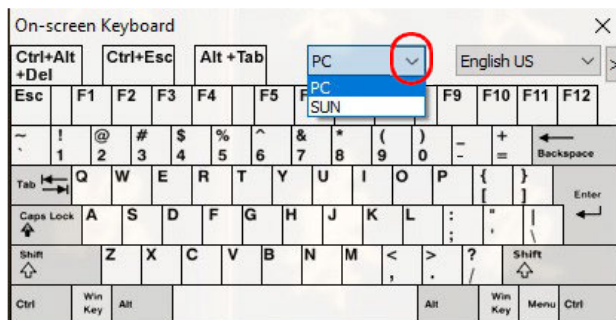


2. リストから新しい言語を選択してください。

プラットフォームの選択

オンスクリーンキーボードは、SunプラットフォームとPCをサポートします。プラットフォームを選択するには、次の手順に従って操作を行ってください。

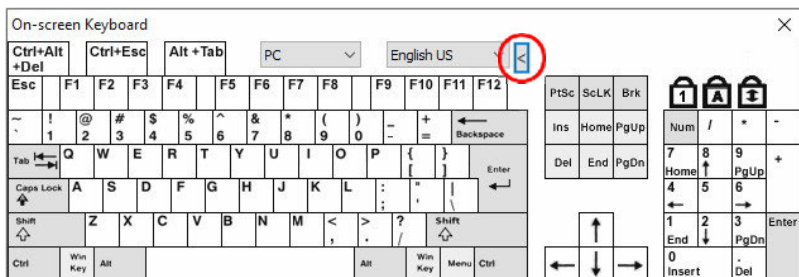
1. 現在選択されているプラットフォームの横にある下向き矢印をクリックして、「プラットフォーム」ドロップダウンリストを展開して表示します。



2. リストから新規プラットフォームを選択します。

拡張キーボード

スクリーンキーボードのテンキーなどの表示・非表示を切り替えるには、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。



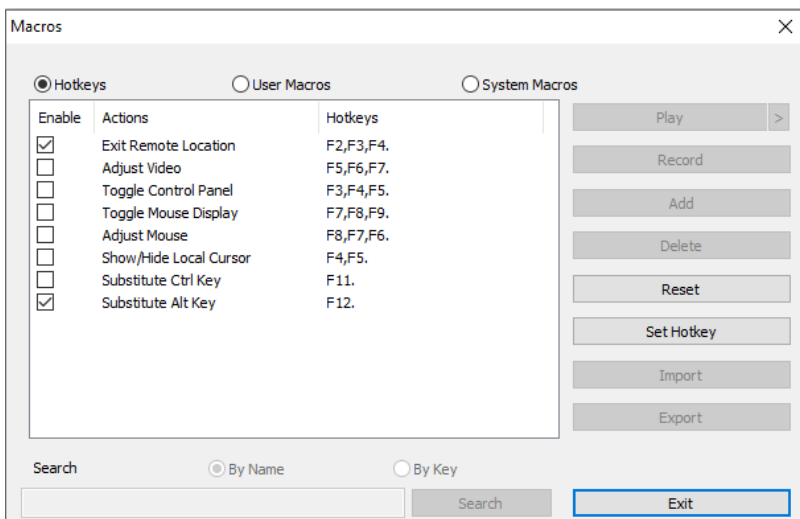
マクロ

マクロアイコンは、マクロダイアログボックスの3つの機能(ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロ)にアクセスすることができます。これらの機能については、以下のセクションで説明します。

ホットキー

リモート端末に関連するさまざまなマクロは、ホットキーを使用して実行できます。ホットキー設定ユーティリティ(アクセスするには、このアイコンをクリック)では、操作を実行するホットキーを設定できます。

マクロを起動するホットキーは、名前の右側に表示されます。アクション名の左側のチェックボックスを使用してホットキーの有効・無効を設定してください。



ホットキーを起動するためのキー操作を変更するには、次の操作を行います。

1. 対象となる名前をリストから選択し、「**ホットキーの設定**」をクリックします。
2. 選択したファンクションキーを1つずつ押してください。押されたキーの名前が「**ホットキー**」欄に表示されます。
 - ◆ キー入力の順番が同じでなければ、同一ファンクションキーを複数のアクションに使用することができます。
 - ◆ ホットキーの設定を取り消す場合は「**キャンセル**」をクリックしてください。また、アクションの「**ホットキー**」欄を消去するには「**クリア**」をクリックしてください。
3. マクロキーの順番を入力し終わったら、「**保存**」をクリックしてください。

ホットキーの設定を全てデフォルト値にリセットするには、「**リセット**」をクリックしてください。

ホットキーアクションの内容は下表の通りです。
 起動するホットキーは1つずつ順番に押してください。

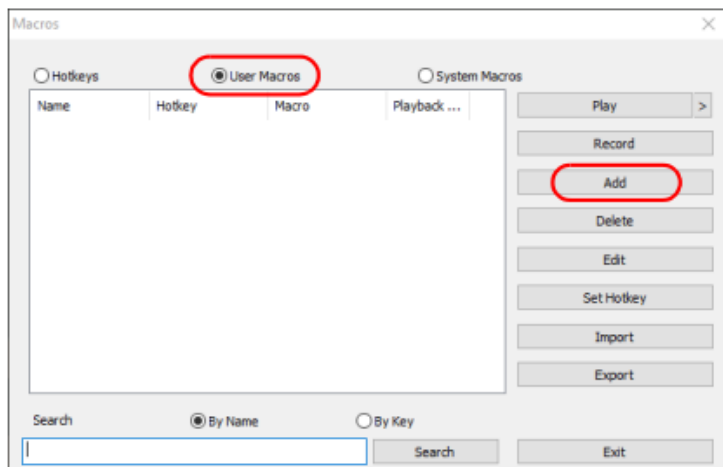
アクション	説明
リモート操作の終了	リモート接続を終了します。これは、コントロールパネルの「終了」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは、[F2][F3][F4]に設定されています。
ビデオの調整	「ビデオ設定」ダイアログボックスを表示します。これは、コントロールパネルの「ビデオ設定」アイコンをクリックするのと同じです。デフォルトでは[F5] [F6] [F7]に設定されています。
コントロールパネルの切替	コントロールパネルのオンとオフを切り替えます。デフォルトでは[F3][F4][F5]に設定されています。
マウス表示の切替	ローカルとリモートの2つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用して、機能しない方のマウスポインターを最小化することで見やすくすることができます。この機能はトグル式であるため、同じホットキーを再度入力するとマウス表示を元の設定に戻します。これは、コントロールパネルの「マウスポインター」アイコンをクリックし、「ドット」ポインターの種類を選択するのと同じです。デフォルトでは[F7][F8][F9]に設定されています。
マウスの調整	これにより、ローカルとリモートのマウスの動きが同期されます。デフォルトでは、[F8][F7][F6]に設定されています。
ローカルカーソルの表示・非表示	オン/オフを切り替える: ローカルカーソルを非表示にし、WindowsClient AP ウィンドウ内でのマウスポインターとキーボードの使用をロックし、コントロールパネルを非表示にします。これは、コントロールパネルにある「マウスポインター」アイコンから「シングル」ポインタータイプを選択するのと同じです。デフォルトでは[F4][F5]に設定されています。

アクション	説明
代替Ctrlキー	<p>初期設定では誤動作防止目的で[Ctrl]キーの代わりとして[F11]キーに指定しています。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11] + [5]と入力すると、リモートシステムでは[Ctrl] + [5]キーが押されたこととなります。</p> <p>デフォルトでは[F11]キーに設定されています。</p>
代替Altキー	<p>初期設定では誤動作防止目的で[Alt]キーの代わりとして[F12]キーに指定しています。</p> <p>[Alt] + [Tab]と[Ctrl] + [Alt] + [Del]はローカルコンピューターでのみ動作します。接続先のサーバーに対してこれらのキー操作をするには[Alt]キーの代わりに[F11]キーを使用します。</p> <p>例えば、初期設定[F12]の場合、[F12] + [Tab]や、上記の代替Ctrlキーを組み合わせた[F11] + [F12] + [Del]と入力することでControl-Alt-Deleteと同等の操作ができます。デフォルトでは[F12]に設定されています。</p>

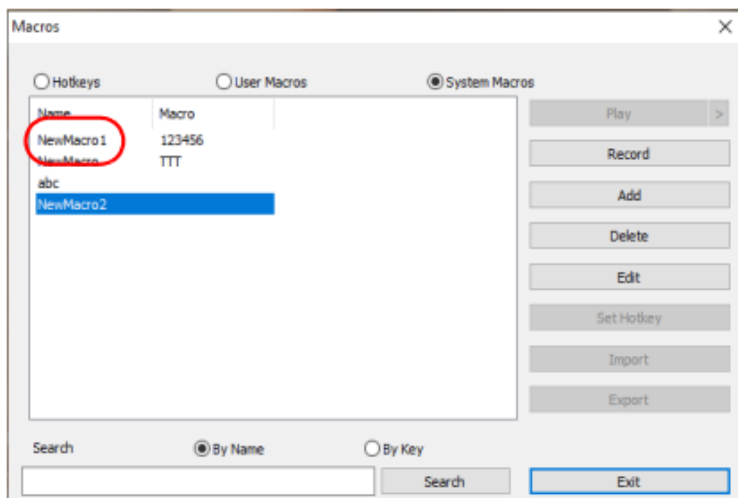
ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、リモートサーバー上で特定のアクションを実行するために作成されます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「ユーザーマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」をクリックしてください。

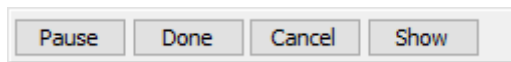


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



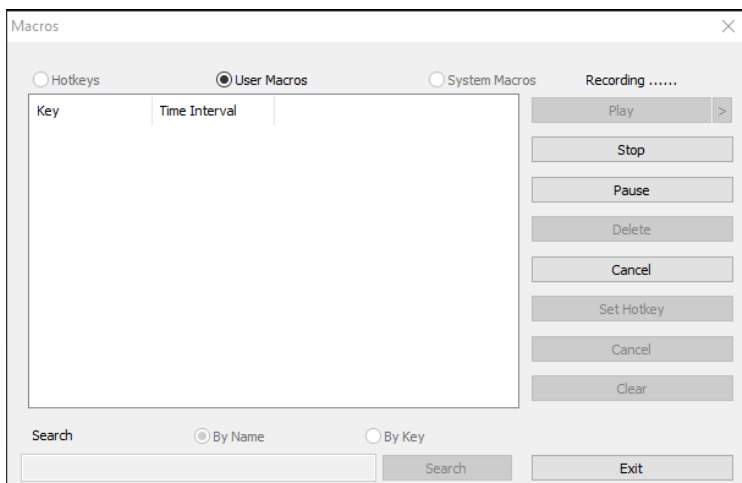
3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロに記録させたいキー操作を入力してください。

- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」をクリックしてください。再開するには、「記録」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成した全てのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。



- ◆ 「キャンセル」をクリックすると、全てのキー入力を取り消します。
- ◆ 完了したら、「記録」をクリックします。(これは、手順5で「完了」をクリックした場合と同じです。)
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。

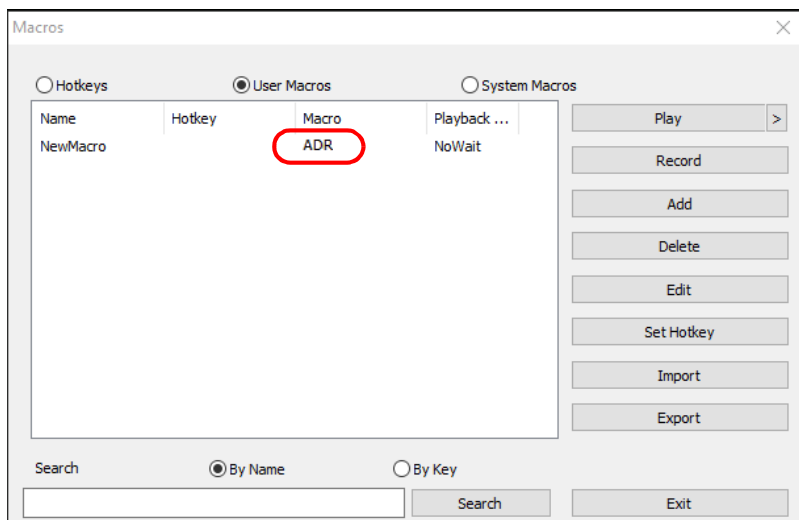
注意:

1. 大文字や小文字は区別されません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
2. マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は

使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。

3

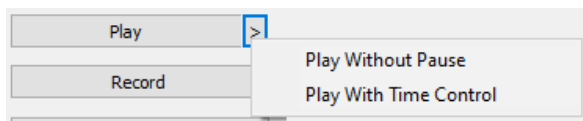
5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステムマクロキーが表示されます。



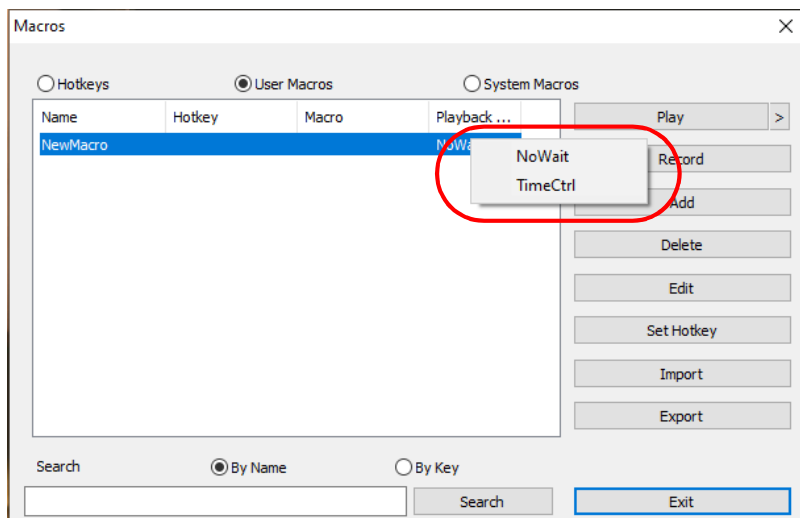
6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」をクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。作成したマクロは、下記3つの方法のいずれかで実行することができます。
 1. ホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
 2. コントロールパネルのマクロリストを開き、必要なマクロをクリックする (p.45参照)。
 3. この(マクロ)ダイアログボックスを開き、「再生」をクリックする。

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指

定するオプションがあります。



- ◆ 「すぐに再生」を選択した場合、マクロは入力キーの遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「タイムコントロール再生」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力とその時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「再生」の隣にある矢印ボタンをクリックしてください。
- ◆ リストを開かずに「再生」をクリックすると、「再生」列に表示されるデフォルトの選択肢(「待機なし」または「タイムコントロール」)でマクロが実行されます。



現在の選択肢(上記のスクリーンショットでは「待機なし」)をクリックし、代替選択肢を選択することで、デフォルトの選択肢を変更できます。

注意:

1. 検索機能については、下記の「■検索」を参照してください。
2. ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されます。したがって、マクロの数、マクロ名のサイズ、またはそれらを呼び出すホットキーの組み合わせの構成に制限はありません。

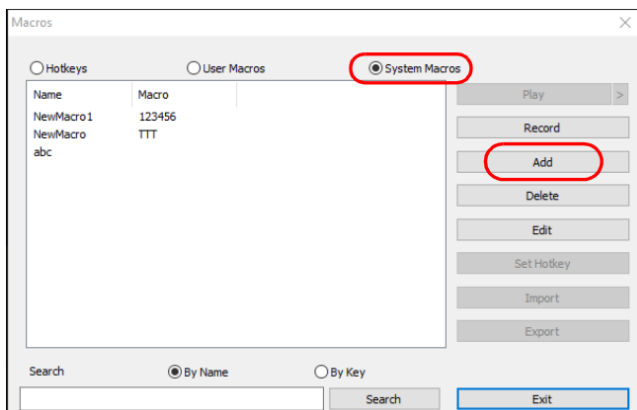
■ 検索

ダイアログボックスの下部にある「検索」を使用すると、大きな上部パネルに表示されるマクロのリストをフィルタリングして、再生または編集できます。ラジオボタンをクリックして、名前で検索するかキーで検索するかを選択し、文字列で検索をキー入力してから、「検索」をクリックします。この文字列に合致するものが、全て上部パネルに表示されます。

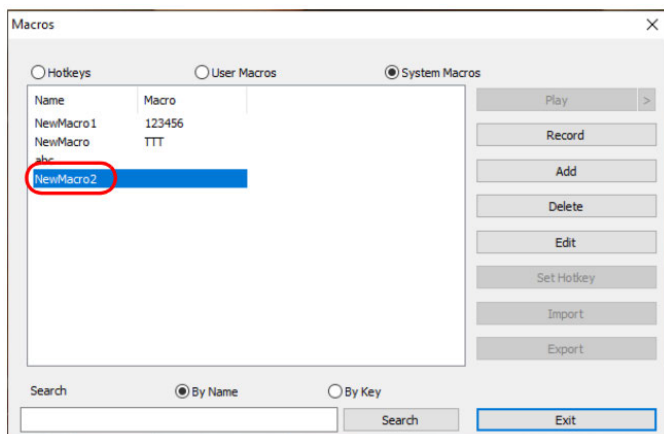
システムマクロ

システムマクロはセッション終了時に実行される終了マクロを作成する際に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておくと、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートサーバーのログイン画面を表示することができるため、セキュリティを強化することができます。マクロを作成するには以下の手順に従って操作を行ってください。

1. 「システムマクロ」ラジオボタンを選択し、「追加」をクリックしてください。

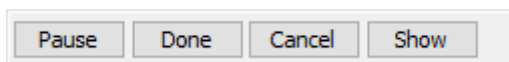


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であれば、ダイアログボックスでこの名前を変更してください。



3. 「記録」をクリックしてください。

ダイアログボックスが終了すると、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



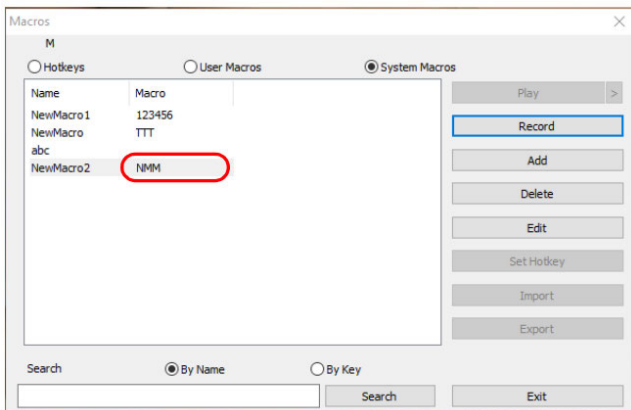
4. マクロのキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を一時停止する場合は、「一時停止」をクリックしてください。再開するには、もう一度「一時停止」をクリックします。
- ◆ 「表示」をクリックするとダイアログが立ち上がり、作成した全てのキー入力と、それぞれに要した時間が一覧表示されます。
- ◆ マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログボックスを選択した状態では記録できません。

注意:

1. 大文字や小文字は区別されません。[A]または[a]を入力しても同じ結果となります。
 2. マクロとして記録できるのは直接入力のキーのみで、代替文字は使用できません。例えば、キーボードが中国語(繁体字)でデフォルト文字がAの場合、キーボード切り替えで取得した漢字は記録されません。
-

5. 「表示」ダイアログを立ち上げていない場合は、「完了」をクリックしてマクロの記録を終了してください。「マクロ」ダイアログボックスに戻ると、リストには先程入力したシステム マクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更する場合は、対象となるマクロを選択し、「編集」をクリックしてください。これにより、「表示」を押した時と同様のダイアログボックスが表示されるため、入力キーの種類や順番を変更することができます。
7. 他のマクロを作成する場合も、上記の手順を繰り返してください。

システムマクロが作成されると、ポートごとに使用できるようになります。これらは、ポートの「ポート設定」で選択されます(詳細については、p.184「設定」参照)。

注意:




1. 検索機能については、p.71を参照してください。
 2. ポートごとに選択できるシステムマクロは1つのみです。
 3. システムマクロはKVM本体に保存されるため、マクロ名は64バイトを超えることはできません。ホットキーの組み合わせは256バイトを超えることはできません。(各キーは通常3～5バイト使用します。)
-



バーチャルメディア

バーチャルメディア機能は、リモート端末のドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスク、またはスマートカードリーダーを、あたかもターゲットサーバーに外部ストレージとしてマウントされているかのように動作します。

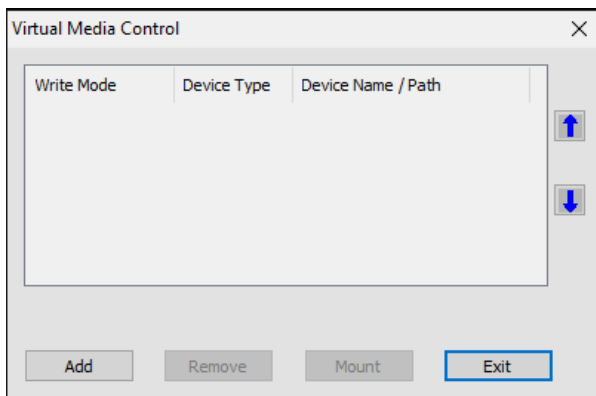
バーチャルメディアのアイコンは、バーチャルメディア機能のステータスに応じて変化します(下表を参照)。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または操作権限が制限されている場合、このアイコンが表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログボックスを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスは全てマウントが解除されます。

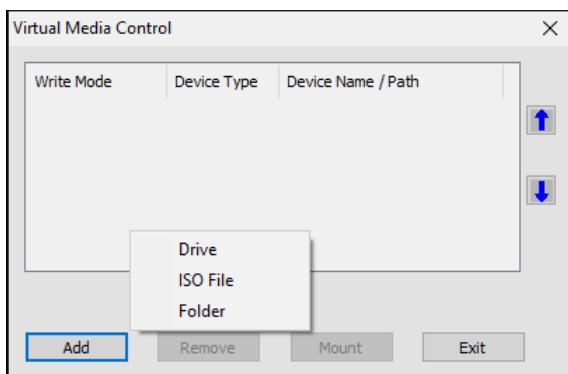
バーチャルメディアのマウント

バーチャルメディアを使用するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして、「バーチャルメディア操作」ダイアログボックスを表示してください。



2. 「追加」をクリックし、メディアソースを選択します。

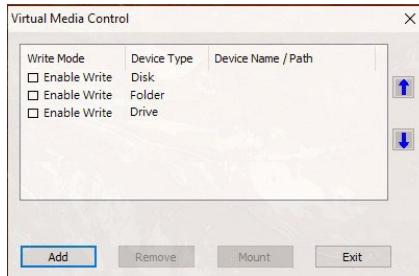


ドライブ、ISOファイル、またはフォルダーを選択できます。

サポートされるバーチャルメディアの種類の一覧、およびそれらのマウントに関する詳細については、p.224「対応バーチャルメディア」を参照してください。

3. デバイスがFull Speed USBのみをサポートしている場合は、「High Speed USBの操作モードを無効にする」の項目にチェックを入れます。
4. メディアを追加する場合は、「追加」をクリックして必要となるメディアを全て選択してください。最大3種類のバーチャルメディアをマウントできます。リストの上位3つの項目は、選択済みのものです。バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントできます。選択された項目の順番を入れ替える場合は、移動対象となるデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックしてリスト内で位置を移動させてください。

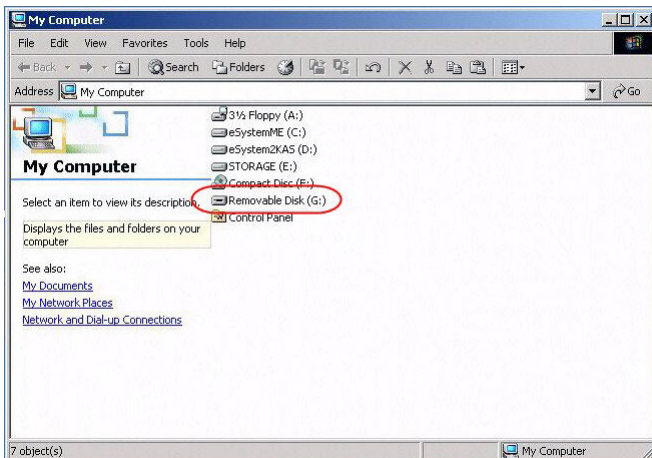
5. 「読み取り」とは、リモート端末からターゲットサーバーへのデータ送信を意味し、「書き込み」とは、ターゲットサーバーからバーチャルメディアへの書き込みを意味します。接続先でread/writeを有効にするには「書き込みを有効にする」にチェックを入れます。



注意:

書き込み不可のデバイスをマウントした場合、チェックボックスは灰色で表示されます。

6. リストから登録削除するには、選択して「削除」をクリックします。
7. マウントしたいデバイスを選択した後に「マウント」をクリックすると、選択したメディアやストレージデバイスは、ターゲットサーバーに接続されドライブとして表示されます。



マウントされたバーチャルメディアは、ターゲットサーバーへファイルをドラッグ&ドロップしたり、ファイルを開いて編集したり、マウントしたストレージにデータが保存できます。

ターゲットサーバーからデータコピーした保存したファイルは、一時的にリモート端末のストレージに保存されます。マウントを終了するとマウントしたストレージに書き込まれます。

8. バーチャルメディアを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスは全て自動的にマウントが解除されます。

バーチャルメディアのマウント – ドラッグ&ドロップ

マウスポインターのオプションを「デュアル」に設定すると、ドラッグ&ドロップによるマウントを実行しやすくなります(p.60「マウスポインターの種類」参照)。

ドラッグ&ドロップでバーチャルメディアのデバイスをマウントするには、次の手順に従って操作を行ってください。

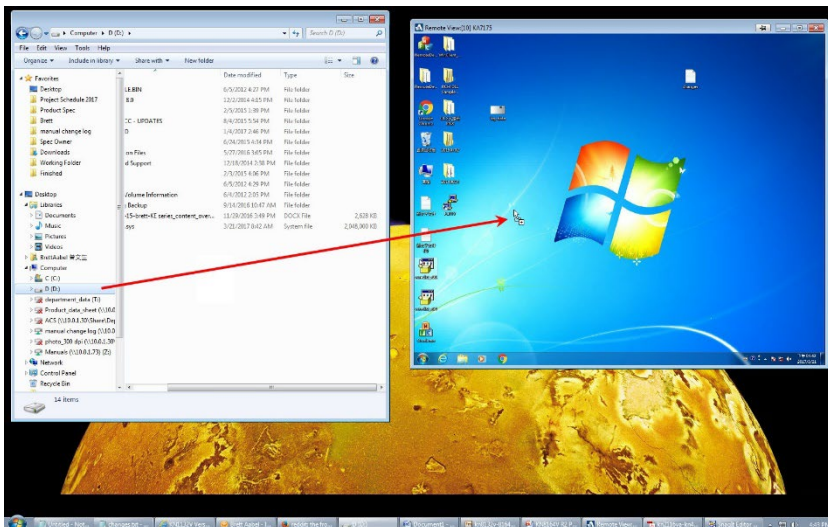
1. リモート端末で任意のターゲットサーバーに接続し、バーチャルメディアアイコンが青色で利用可能状態であることを確認します。



2. ローカルコンピューターでエクスプローラーのウィンドウを開き、マウントするドライブを選択し、マウスで左クリックしたままWinClientのウィンドウにドラッグ&ドロップします。以下に例を示します。

◆ ドラッグ&ドロップ = バーチャルメディア読み取り専用

◆ ドラッグ&ドロップ + [Ctrl] = バーチャルメディアの読み取り+書き込み

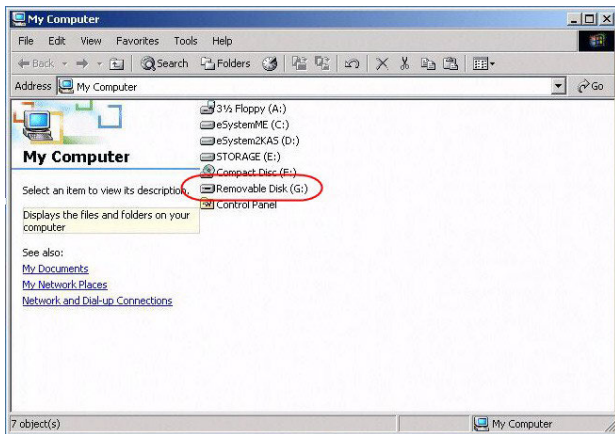


サポートするバーチャルメディアの種類の一覧、およびそれらのマウントに関する詳細については、p.224「対応バーチャルメディア」を参照してください。

3. バーチャルメディアのドライブがマウントされると、リモートビュー画面に次のようなメッセージが表示されます。



4. ドラッグ&ドロップしたドライブは、ターゲットサーバーに接続し、ストレージデバイスとして表示されます。



注意:

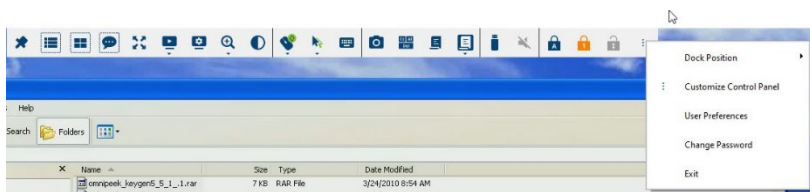
マウントしたデバイスに書き込めない場合、灰色で表示されます。

マウントしたバーチャルメディアは、直結したデバイスのように扱うことができます。マウントメディアのファイルをターゲットサーバーにコピーしたり、ターゲットサーバーのログファイルなどをマウントしたメディアに保存できます。

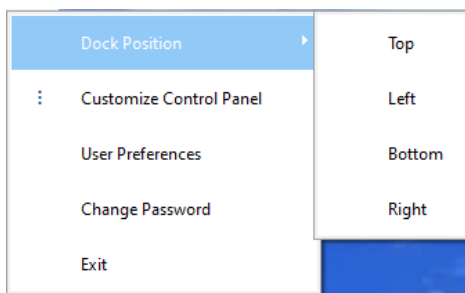
ターゲットサーバーからデータコピーした保存したファイルは、一時的にリモート端末のストレージに保存されます。マウントを終了するとマウントしたストレージに書き込まれます。

5. バーチャルメディアを終了するには、コントロールパネルを表示してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスは全て自動的にマウントが解除されます。

その他の設定



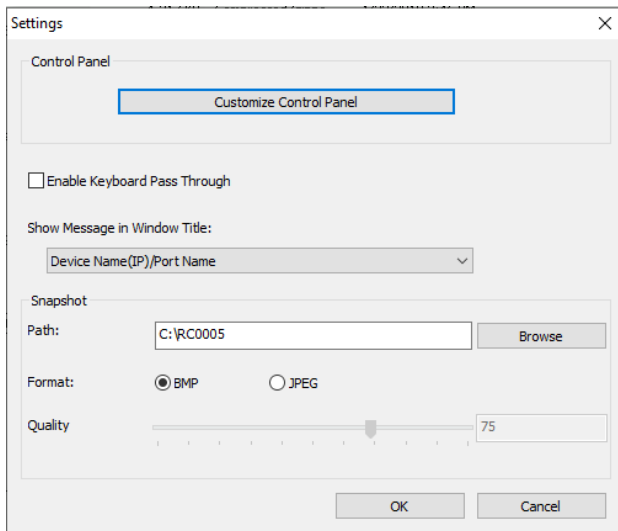
ドッキング位置



ドッキング位置は、ドッキング位置を画面の上・左・下・右に調整します。

コントロールパネルのカスタマイズ

コントロールパネルに表示される項目とその表示設定を変更できます。

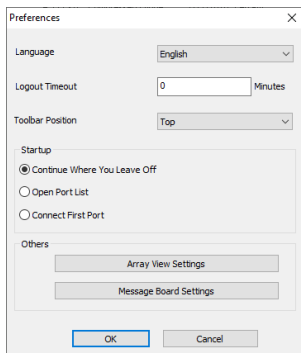


ダイアログボックスの構成については、以下の表で説明します。

項目	説明
コントロールパネルのカスタマイズ	コントロールパネルに表示するアイコンを選択できます。表示したいものをチェックし、不要なものからチェックを外してください。
キーボードパススルーを有効にする	これを有効にすると、押下した[Alt]+[Tab]キーの信号がリモートサーバーに送信され、そのサーバーで作用します。この項目が有効になっていない場合は、[Alt] + [Tab]のキー操作がローカルクライアントコンピューター上で実行されます。
ウィンドウタイトルメッセージを表示する	ポート名、デバイス名、解像度、フレームレート、帯域幅などの接続に関する情報をウィンドウのタイトルに表示できます。

項目	説明
スナップショット	<p>ターゲットサーバーの画面キャプチャーの設定です (p.83「コントロールパネル」の「スナップショット」の説明を参照)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「パス」は、キャプチャーした画面のディレクトリーを選択できます。「参照」をクリックし、対象となるフォルダーを「フォルダーの選択」ダイアログから選択して「OK」をクリックしてください。ここでディレクトリーを指定しない場合、スナップショットはデスクトップに保存されます。 ◆ キャプチャーした画面のイメージの保存形式(BMP、JPEG)をラジオボタンで選択してください。 ◆ JPEGを選択した場合は、キャプチャーした画像の画質をスライダーバーで調整することができます。画質を上げるとより鮮明な画像になりますが、ファイルサイズが大きくなります。

ユーザー環境設定



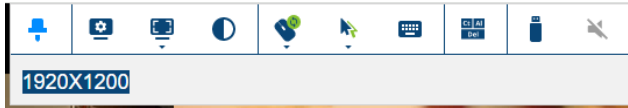
項目	説明
言語	メニュー画面などで表示する言語を選択します。
ログアウトタイムアウト	操作がないまま一定時間が経過すると、この設定に沿ってログアウトさせられます。自動的にログアウトを防ぐには「0」と設定してください。
ツールバーの位置	ツールバーの位置を画面の上・左・下・右に調整します。
起動	<ul style="list-style-type: none">◆ 終了したところから続行する: WinClientビューアが開き、ビューアを閉じるときに使用していたポートに接続します。◆ ポート一覧を開く: WinClientビューアが開き、接続可能なポート一覧が表示されます。◆ 最初のポートに接続する: WinClientビューアが開き、最初のポートに接続します。
その他	<ul style="list-style-type: none">◆ アレイビュー設定: パネルアレイビュー設定を調整します。◆ メッセージボード設定: メッセージボードの設定を調整します。

パスワードの変更








これは、p.41「ユーザー設定」における「パスワードの変更」で説明されているパスワードの変更と同じです。




WebClientのコントロールパネル

WebClientのコントロールパネルは、以下に示すように、WinClientコントロールパネルの機能が少ないシンプルなバージョンです。



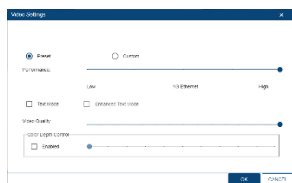
機能

アイコン	機能
	クリックすると、コントロールパネルが永続的に表示されます。もう一度クリックすると、通常の状態、自動的に表示が消える挙動に戻します。
	ビデオの画質を設定します(詳細は、p.86「WebClientのビデオ設定」を参照してください)。
	「フルスクリーンモード」と「ウィンドウに合わせる」のどちらかを選択します。
	クリックすると、リモートディスプレイをカラー表示とグレースケール表示の間で切り替えます。
	クリックすると、マウスの自動同期と手動同期を交互に切り替えます。 <ul style="list-style-type: none">◆ 「自動」を選択すると、アイコンに緑色の✓が表示されます。◆ 「手動」を選択すると、アイコンに赤色の×が表示されます。 この機能に関する詳細については、p.58「マウスダイナシクモード」をご参照ください。
	クリックすると、マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは、選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります(p.60「マウスポインターの種類」参照)。
	クリックすると、オンスクリーンキーボードを呼び出します(p.61「オンスクリーンキーボード」参照)。

アイコン	機能
	<p>クリックすると、[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号がリモートシステムに送信されます。</p>
	<p>クリックすると、「バーチャルメディア」ダイアログボックスを表示します。アイコンは、バーチャルメディア機能の状態に応じて変化します。詳細については、p.75「バーチャルメディア」を参照してください。 注意:このアイコンは、機能が無効になっているか使用できない場合、灰色で表示されます。</p>
	<p>クリックすると、クライアントコンピューターのスピーカーで聞こえるようにリモートサーバーからの音声のオン・オフを切り替えます。スピーカーをオフに切り替えると、アイコンに「禁止」記号(斜線の付いた赤い円)が表示されます。</p>

WebClientのビデオ設定

このアイコンをクリックすると、以下のようなWebClientのビデオ設定が表示されます。



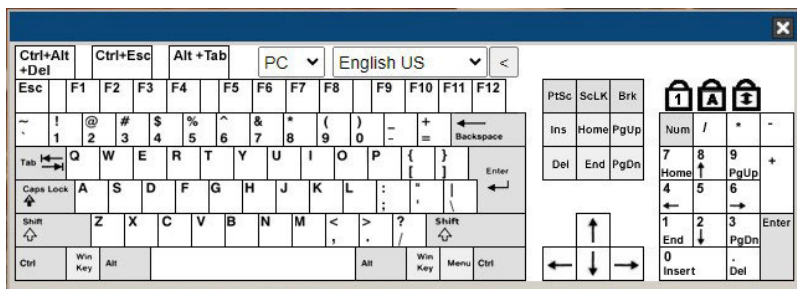
各オプションとその機能は下表の通りです。

オプション	使用方法
パフォーマンス	<p>スライダーを使用して、ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続のタイプを選択してください。本製品は、この選択を使用してビデオ品質設定を自動的に調整し、ビデオ表示の品質を最適化します。</p> <p>ネットワークの状態は変動するため、プリセットの選択肢のいずれもうまく動作しないように見える場合は、「詳細」を選択し、「ビデオ品質」スライダーを使用して、条件に合わせて設定を調整することができます。</p>

オプション	使用方法
テキストモードの強化	一部のインターフェースシステム(Sun Blade1000やその他のサーバなど)に影響するビデオ画面解像度に関連するビデオ表示の問題を解決するには、これをオンにしてください。この設定により、一部の表示で画像の色を改善できます。 デフォルトYUV:4:1:1 拡張テキストモードYUV:4:4:4
ビデオ品質	スライダーバーをドラッグしてビデオ全体の画質を調節します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワーク帯域によっては、値を大きくすると応答時間が遅くなる場合があります。
色深度コントロール	この設定は、色情報の量を調節することによって、ビデオ表示の豊かさを決定します。

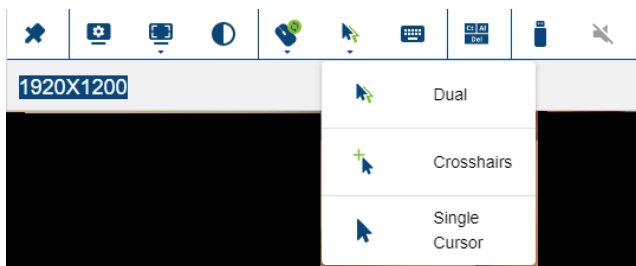
WebClientのオンスクリーンキーボード

このアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボード(英語)が表示されます。



WebClientにおけるマウスポインターの種類

本製品は、リモートディスプレイで作業をする際のマウスポインターに関して複数のオプションを提供します。このアイコンをクリックして、使用したいタイプを選択してください。



注意:

1. 利用可能なオプションはブラウザによって異なります。例えば、Chromeにはデュアル、十字、シングルカーソルがあります。
 2. コントロールパネルのアイコンはポインターの選択に合わせて変化します。
-

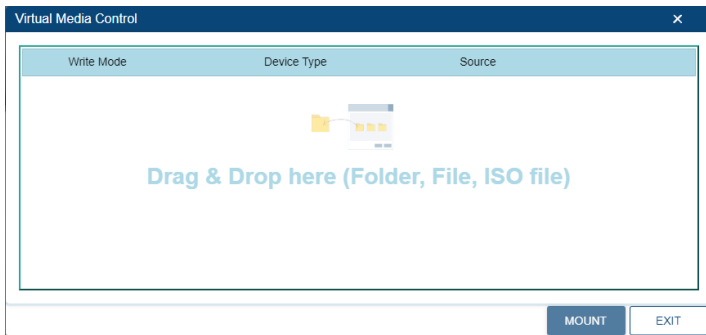
バーチャルメディア

バーチャルメディアのデバイスを設定するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「バーチャルメディア」アイコンをクリックして、バーチャルメディアコントロールを表示してください。

注意:

1. Internet Explorerのウェブブラウザでは、ISOファイルのみとなります。(IEでの動作はサポート外となります)
 2. バーチャルメディアの書き込みはWebClientではサポートされていません。
-



2. 選択したファイルを「バーチャルメディア制御」ダイアログボックスにドラッグ&ドロップして、「マウント」をクリックしてください。
3. リダイレクトを終了するには、バーチャルメディアアイコンをクリックしてください。そうすると、マウントされている全てのデバイスのマウントが自動的に解除されます。

WebClientのマウス同期モード

ローカルマウスポインターとリモートマウスポインターの同期は、自動的に、または手動で行われます。

マウスの自動同期(ダイナシク)



マウスダイナシクは、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期します。これにより、2つの動きを頻繁に再同期する必要がなくなります。

注意:

この機能は、KVM アダプタの属性のOS 設定がWinまたはMac用に設定されているWindowsおよびMacシステム(G4 以降)でのみ使用できます (p.184 「設定」参照)。これらのシステムは、KVM アダプタ(KG1900T、KG6900T、KA8900T、KG9900T)のいずれかでKVM本体に接続されています。

他の全ての機器構成では、手動設定によるマウス同期を使用する必要があります(次のセクションで説明します)。

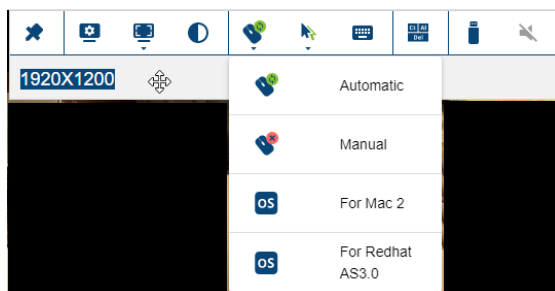
コントロールパネルのアイコンは、同期モードの状態を次のように示します。

アイコン	機能
	<p>このアイコンの緑色のチェックマークは、マウスダイナシクが有効になっていることを示します。これはデフォルト設定です(上の注意書きを参照)。</p>
	<p>このアイコンの赤い×印は、マウスダイナシクが有効になっていないことを示します。</p>

アイコンをクリックすると、そのステータスが有効または無効に切り替わります。マウスダイナシクモードを無効にする場合は、以下で説明する手動同期手順を使用する必要があります。

Mac/Linuxの環境における注意事項

- ◆ Mac OS バージョン10.4.11以降をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法でダイナシク機能の設定を行うことができます。デフォルト設定の同期方法で十分な結果が得られなかった場合は、「**Mac 2**」の設定をお試しください。



- ◆ Linuxをお使いの場合、ダイナシクモードはサポートされませんが、サーバーのドライバによっては自動で利用できるケースがあります。自動設定で快適に操作ができない場合は、(Red hat AS 3.0)の設定で同期ができるかお試しください。ただし、上記のいずれの場合においても快適にならない場合、次のセクションに記載された手動によるマウス同期の方法で改善できるかお試しください。

手動設定によるマウス同期

ローカルマウスのポインターがリモートシステムのマウスポインターと同期していない場合、それらを同期させる方法がいくつかあります。

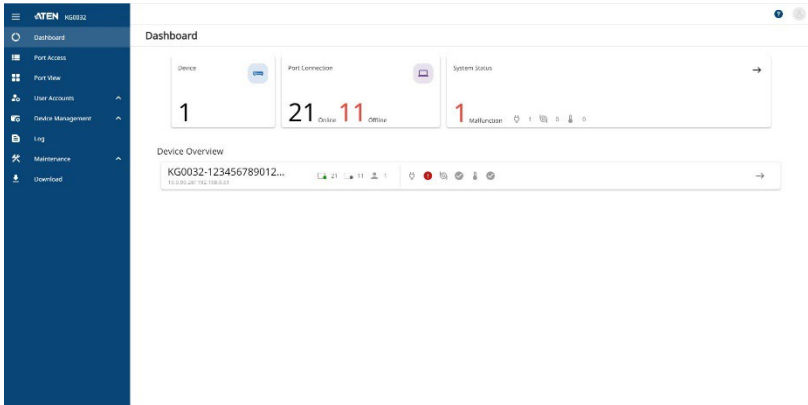
1. WinClientにて検知している解像度とPCが出力している解像度が一致していることを確認します。
2. コントロールパネルのビデオの自動同期を実行します。
3. マクロ「マウスを調整」にチェックを入れた後、ホットキーで実行します。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして別の位置に移動させて、カーソルが追従するかどうかご確認ください。

本製品に接続されているサーバーのうち、問題があるものについてマウス速度と加速度を設定します。詳細については、p.213「その他のマウス同期方法」を参照してください。

第5章 ダッシュボード

概要

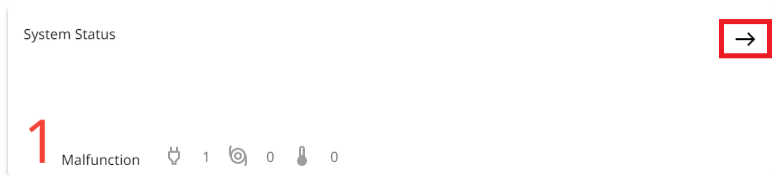
本製品にログインすると、「ダッシュボード」画面に製品ステータスと各KVMアダプタに関する情報が表示されます。




「ダッシュボード」画面は、ポート接続、システムステータス、デバイス概要などのデバイス情報をユーザーが簡単に参照できるように設計されています。

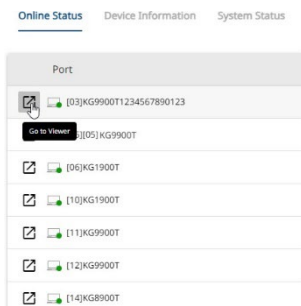
システムの状態

システム状態を確認するには、ダッシュボード画面でシステム状態に移動し、→をクリックします。



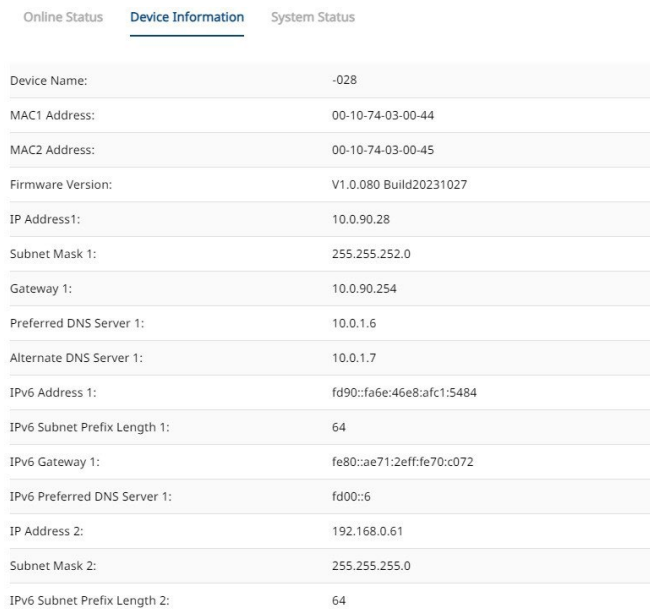
オンライン状態

「オンライン状態」画面には、本製品に接続されている使用可能な全てのポートが表示されます。使用可能なポートのWebClientパネルの横にある  をクリックすると、そのパネルにすばやくアクセスできます。



デバイス情報

「デバイス情報」画面に、本製品のデバイス名、MAC アドレス、ファームウェアバージョンなどのデバイス情報が表示されます。





Device Information	
Device Name:	-028
MAC1 Address:	00-10-74-03-00-44
MAC2 Address:	00-10-74-03-00-45
Firmware Version:	V1.0.080 Build20231027
IP Address1:	10.0.90.28
Subnet Mask 1:	255.255.252.0
Gateway 1:	10.0.90.254
Preferred DNS Server 1:	10.0.1.6
Alternate DNS Server 1:	10.0.1.7
IPv6 Address 1:	fd90::fa6e:46e8:afc1:5484
IPv6 Subnet Prefix Length 1:	64
IPv6 Gateway 1:	fe80::ae71:2eff:fe70:c072
IPv6 Preferred DNS Server 1:	fd00::6
IP Address 2:	192.168.0.61
Subnet Mask 2:	255.255.255.0
IPv6 Subnet Prefix Length 2:	64

システムの状態

「システムの状態」画面には、「システムの状態」(p.92参照)と同じステータスが表示されますが、レイアウトが異なります。

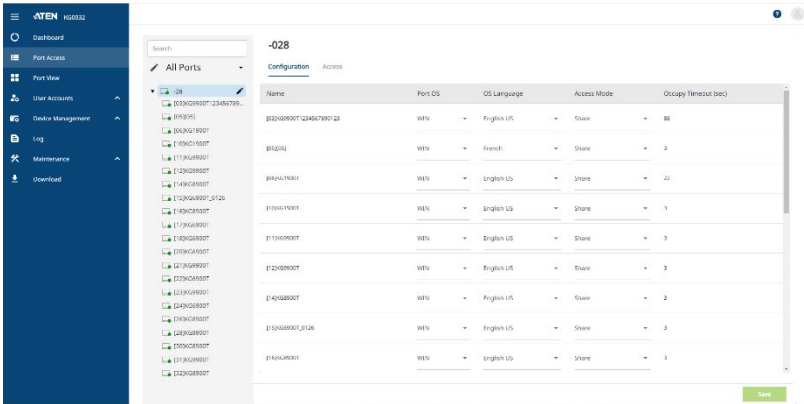
[Online Status](#) [Device Information](#) [System Status](#)

Power1	 On
Power2	 Off
Fan1	6750 rpm
Fan2	6750 rpm
Fan3	6783 rpm
Fan4	6683 rpm
Temperature1	44 Celsius
Temperature2	37 Celsius
Temperature3	58 Celsius
Temperature4	30 Celsius

第6章 ポートアクセス

概要

「ポートアクセス」タブを選択すると、「ポートアクセス」画面が表示されます。



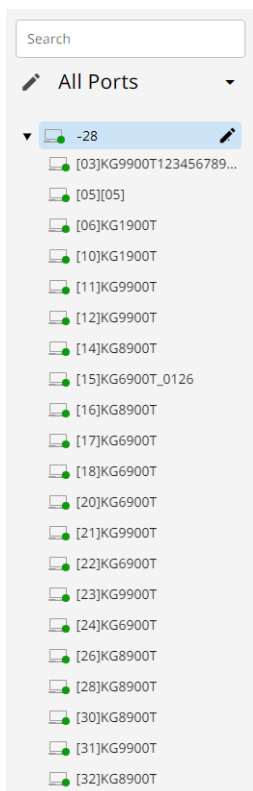
「ポートアクセス」画面は、複数のメインエリアから構成されています。ユーザーがアクセス権を持っている機器やポート、および、アウトレットは全て、画面の左側にあるサイドバーに一覧表示されます。

KVMデバイスとポートの設定と操作については、p.184で説明しています。

サイドバーでデバイス、ポート、またはアウトレットを選択した後、メニューバーのエントリーをクリックすると、サイドバーで選択した項目に関連する情報と設定画面が開きます。

サイドバー

各モデル共通で、画面左側のサイドバーにツリー形式でアクセス可能なKVMアダプターが表示されます。




サイドバーのツリービュー

サイドバーにおけるツリー構造の特長は次の通りです。

- ◆ アクセス権限を持つポートのみを表示することができます。
- ◆ 本体に対して接続しているKVMアダプタがツリー形式表示されます。
 - ▶をクリックするとツリーを展開し、その下にポートが列挙されます▼をクリックすると、ツリーが折りたたまれます。
- ◆ ポートのID番号は、そのアイコンの横に括弧で囲まれて表示されます。ポ

ートやアウトレットには名前を付けることもできます(詳細については、p.101「ポートへの名称設定」を参照してください)。

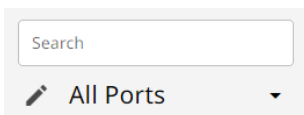
- ◆ オンラインになっているスイッチとポートはモニター画面に緑色のドットが表示され、オフラインになっているデバイスとポートのモニター画面には灰色のドットが表示されます。
- ◆ WebClientパネルでポートにアクセスして操作するには、その横にある  をダブルクリックします。ポート操作の詳細については、第4章「WebClientのコントロールパネル」を参照してください。

注意:

アクセスできるポートは1つだけです。2つの異なるポートを表示するには、2回に分けて多重ログインする必要があります。

フィルター

「フィルター」を使用すると、サイドバーに表示するポートの数とタイプを制御できます。



The image shows a search interface with a text input field containing the word "Search". Below the input field is a dropdown menu with a pencil icon on the left and the text "All Ports" followed by a downward-pointing arrow.

各項目の詳細は下表の通りです。

選択	説明
検索	<p>検索したい文字列を入力して「検索」をクリックすると、ポートネームがその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードの使用が可能ですので、複数のポートを表示することができます。</p> <p>次に例を示します。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「Web*」と入力すると、「Web Server 1」と「Web Server 2」の両方がリストに表示されます。2. 「W*1 or M*2」と入力すると、「Web Server 1」と「Mail Server 2」の両方がリストに表示されます。
全てのポート (デフォルト設定)	<p>これはデフォルト表示です。他のフィルターオプションを選択しない場合、ユーザーがアクセス可能な全てのポートがサイドバーに表示されます。</p> <p>お気に入りの指定されている場合(p.100参照)、リストボックスを展開すると、「全て」以外のお気に入りを選択できます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択した項目のみがツリーに表示されます。</p>

お気に入り

頻繁にアクセスするポートをお気に入りリストに保存できます。サイドバーでポートを探すのではなく、リストを開いてポートのグループを選択するだけです。この機能は、大規模構成において有用です。

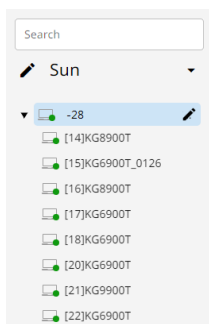
お気に入りの追加

ポートをお気に入りの追加するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「フィルター」で▼をクリックしたら、 を選択します。
2. 「お気に入りの作成」ポップアップウィンドウが表示されます。




3. お気に入りの名前と色分けを定義し、このお気に入りの追加するポートを選択します。
4. 「保存」をクリックしてください。
5. 保存すると、お気に入りの自動的に一覧表示されます。



注意:


「お気に入り」は、サイドバーのフィルタリング用に選択できます。詳細については、p.99「フィルター」を参照してください。

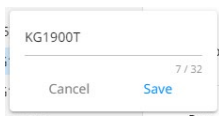
お気に入りの変更

- ◆ 名前を編集したり、削除したりする場合は、対象の隣にある  をクリックしてください。ポップアップウィンドウが表示されます。
- ◆ 設定が完了したら、「保存」をクリックします。

ポートへの名称設定

アドミニストレーターと設定権限を持つユーザーは、各ポートに名前を付けることができます。名前の割り当て・変更・削除を行うには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 編集する項目を1回クリックしたら、隣にある  をクリックします。
2. ポップアップウィンドウが表示されます。

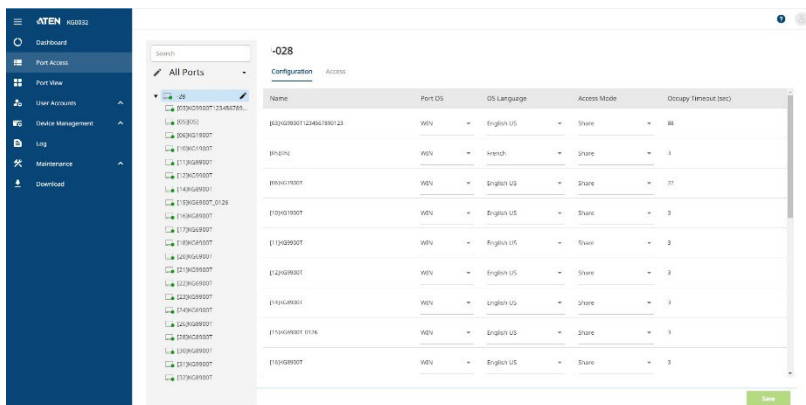


3. 項目の名前を入力します(または前の項目を変更・削除します)。
 - ◆ 英数字の任意の組み合わせを使用できます。この場合、許可される最大文字数は20です。
 - ◆ ローカルIMEを有効にして、英語以外の文字を入力することもできます。2バイト・エンコーディングを使用する言語の場合、許可される最大文字数は9です。
4. 名前の編集が完了したら、「保存」をクリックします。

設定

デバイスレベル

サイドバーでデバイスを選択すると、「設定」画面に「ポートOS」、「OS 言語」、「アクセスモード」、「占有タイムアウト」の項目が表示されます。



リストでポートを選択して、ポートOS、OS 言語、アクセスモード、および占有タイムアウトを設定します。表に記載されているオプションのいずれかを選択します。

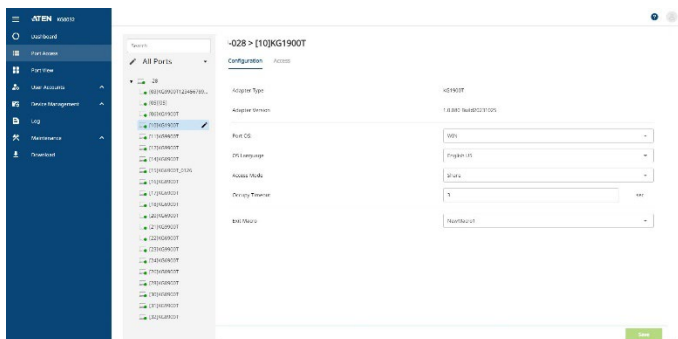
列	説明
ポートOS	接続ポートのサーバーOSを設定します。Win、Mac、Sun、その他で、デフォルトはWinが選択されています。
OS言語	接続ポートのサーバーOSの言語を設定します。利用可能な項目を参照するにはリストを展開してください。デフォルトは英語(US)です。

列	説明						
アクセスモード	<p>次のように、複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。</p> <table border="1" data-bbox="286 209 994 802"> <tr> <td data-bbox="286 209 398 443">共有</td> <td data-bbox="398 209 994 443"> <p>複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 443 398 643">占有</td> <td data-bbox="398 443 994 643"> <p>ポートに最初に操作をはじめたユーザーが操作権限を取得します。他のユーザーも同時にビデオ出力を閲覧できますが、操作権限はありません。設定された時間が経過すると権限は解放され、次にマウスやキーボード操作したユーザーに対して操作権限が付与されます。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="286 643 398 802">排除</td> <td data-bbox="398 643 994 802"> <p>最初にアクセスしたユーザーは1名だけがポートを閲覧・操作できます。ほかのユーザーは画面閲覧や操作権限がありません。アクセスしたユーザーが接続終了すると他のユーザーが利用できるようになります。</p> </td> </tr> </table>	共有	<p>複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。</p>	占有	<p>ポートに最初に操作をはじめたユーザーが操作権限を取得します。他のユーザーも同時にビデオ出力を閲覧できますが、操作権限はありません。設定された時間が経過すると権限は解放され、次にマウスやキーボード操作したユーザーに対して操作権限が付与されます。</p>	排除	<p>最初にアクセスしたユーザーは1名だけがポートを閲覧・操作できます。ほかのユーザーは画面閲覧や操作権限がありません。アクセスしたユーザーが接続終了すると他のユーザーが利用できるようになります。</p>
共有	<p>複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。</p>						
占有	<p>ポートに最初に操作をはじめたユーザーが操作権限を取得します。他のユーザーも同時にビデオ出力を閲覧できますが、操作権限はありません。設定された時間が経過すると権限は解放され、次にマウスやキーボード操作したユーザーに対して操作権限が付与されます。</p>						
排除	<p>最初にアクセスしたユーザーは1名だけがポートを閲覧・操作できます。ほかのユーザーは画面閲覧や操作権限がありません。アクセスしたユーザーが接続終了すると他のユーザーが利用できるようになります。</p>						
占有タイムアウト	<p>「占有タイムアウト」の項目は、アクセスモードが「占有」に設定されているポートの無操作から操作権限を解放するまでの時間を設定します (p.103「アクセスモード」参照)。ポートを占有しているユーザーからの入力操作がない場合、ユーザーはこの設定した時間後にタイムアウトし、権限が解放されます。ポートが解放されてから最初にキーボードまたはマウス入力を行ったユーザーがポートを占有します。</p> <p>0~255秒の値を入力します。デフォルトは3秒です。0に設定すると、入力がなくなると即座に捜査権限が解放されます。</p>						

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

ポートレベル

サイドバーでポートが選択されると、次のような「設定」画面が表示されます。設定画面では、ポートOS、OS言語、アクセスモード、占有タイムアウト、終了マクロの5つの項目を使用できます。



サイドバーでポートを選択して、ポートOS、OS 言語、アクセスモード、占有タイムアウト、および終了マクロを設定します。表に記載されているオプションのいずれかを選択します。

列	説明		
ポートOS	接続ポートのサーバーが使用しているOSを設定します。オプションはWin、Mac、Sun、その他です。デフォルトはWinです。		
OS言語	接続ポートのサーバーが使用しているOS言語を設定します。利用可能な項目を参照するにはリストを展開してください。デフォルトは英語(US)です。		
アクセスモード	次のように、複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。 <table border="1"><tr><td>共有</td><td>複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。</td></tr></table>	共有	複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。
共有	複数のユーザーで同時にポートを共有して操作することができます。ユーザーからの入力はキューに格納され、古いものから順に実行されます。このような状況において、ユーザーはメッセージボードを利用することで、キーボードとマウス、または共有ポートのキーボード、マウス、ビデオの制御に関して相互に通信できます。		

占有	ポートに最初に操作をはじめたユーザーが操作権限を取得します。他のユーザーも同時にビデオ出力を閲覧できますが、操作権限はありません。設定された時間が経過すると権限は解放され、次にマウスやキーボード操作したユーザーに対して操作権限が付与されます。
排他	最初にアクセスしたユーザーは1名だけがポートを閲覧・操作できます。ほかのユーザーは画面閲覧や操作権限がありません。アクセスしたユーザーが接続終了すると他のユーザーが利用できるようになります。
占有タイムアウト	<p>「占有タイムアウト」の項目は、アクセスモードが「占有」に設定されているポートの無操作から操作権限を解放するまでの時間を設定します (p.103「アクセスモード」参照)。ポートを占有しているユーザーからの入力操作がない場合、ユーザーはこの設定した時間後にタイムアウトし、権限が解放されます。ポートが解放されてから最初にキーボードまたはマウス入力を行ったユーザーがポートを占有します。</p> <p>0~255秒の値を入力します。デフォルトは3秒です。0に設定すると、入力がなくなると即座に捜査権限が解放されます。</p>
終了マクロ	「マクロの終了」パネルには、ユーザーが作成したシステムマクロのドロップダウンリストボックスがあります。リモートサーバーの終了時に実行されるマクロをリストから選択できません。終了マクロの作成の詳細については、p.72「システムマクロ」を参照してください。

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

アクセス

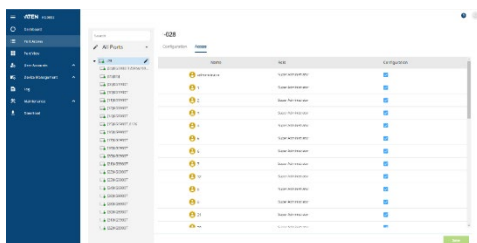
アドミニストレーター権限を持つアカウントは、「アクセス」画面で、本製品および各ポートの一般ユーザーおよびグループのアクセス権と設定権を設定します。

注意:

「アクセス」画面は、「ユーザー管理」権限を持つユーザーに対してのみ表示されます。他の一般ユーザーアカウントは使用できません。

デバイスレベルのブラウザーGUIインターフェース

サイドバーで本製品が選択されている場合、メインパネルは次のようになります。

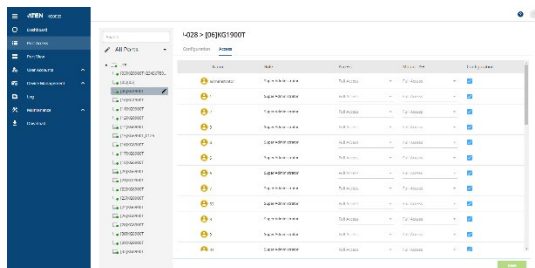


メインパネルは、「名前」と「設定」の2列から構成されます。

- ◆ 「名前」には、作成された全てのユーザーとグループが一覧表示されます。
- ◆ 「ロール」は、権限によって「スーパーアドミニストレーター」または「一般ユーザー」のどちらかを示します。
- ◆ 「設定」は、設定権限を持つユーザーを示します。
チェックマーク(✓)は、ユーザーがKVM本体の設定を変更する権限を持っていることを示します(第9章「デバイス管理」を参照)。空のチェックボックスは、ユーザーが構成変更を行う権限がないことを意味します。
- ◆ 設定が完了したら、「保存」をクリックします。

ポートレベルのブラウザGUIインターフェース

サイドバーでポートを選択すると、メインパネルは次のように表示されます。



次の表で、ポートアクセス設定について説明します。

名前	現在操作しているユーザーがアクセスすることができるポートがこの列に表示されます。	
ロール	「ロール」列では、ユーザーのロールを「スーパーアドミニストレーター」または「一般ユーザー」から選択します。	
アクセス	デバイスへのアクセス権限を設定します。選択肢を循環するには、設定するユーザーに対応する行のアイコンをクリックしてください。アイコンの意味は次の通りです。	
	アクセス不可	このポートへのアクセス権限はなく、ポートの存在自体も表示されません。
	参照のみ	リモート画面を参照できますが、操作できません。
	フルアクセス	リモート画面を表示し、操作できます。

USBのマウント	<p>「USBのマウント」列では、リモートサーバーにバーチャルメディアデバイスをマウントする権限が設定されます。権限を与える場合はアイコンをクリックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「アクセスなし」そのユーザーアカウントにはバーチャルメディアが表示されません。 ◆ 「読み取り専用」では、バーチャルメディアが利用できます。(読み取り専用)、バーチャルメディアへのデータ書き込みはできません。 ◆ 「フルアクセス」の設定では、マウントしたメディアの読み取り、および書き込みを行うことができます。 <p>注意:この項目は、USBバーチャルメディア機能非対応の製品では表示されません。</p>
設定	<p>チェックボックスに印(✓)がついていると、ユーザーにポートの設定権限が与えられることを表しています。</p>

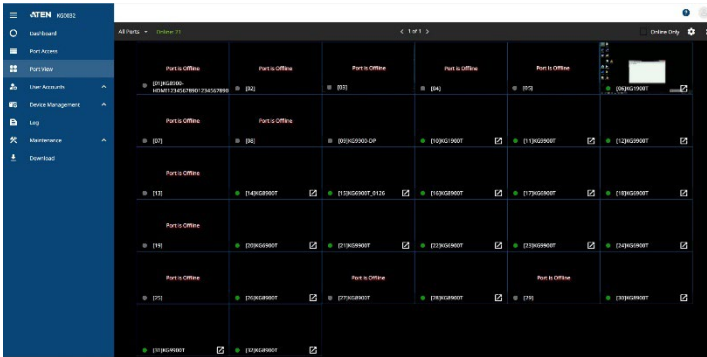
設定が完了したら、「保存」をクリックします。

第7章

ポートビュー

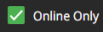
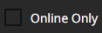

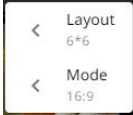

概要

「ポートビュー」タブを選択すると、「ポートビュー」画面が表示されます。



「ポートビュー」画面は、パネルアレイモードを呼び出します。このモードでは、画面は最大64分割までパネル表示できます。WebClientでポートにアクセスして操作するには、ポートパネルをダブルクリックします。ポート操作の詳細については、第4章「WebClientのコントロールパネル」を参照してください。

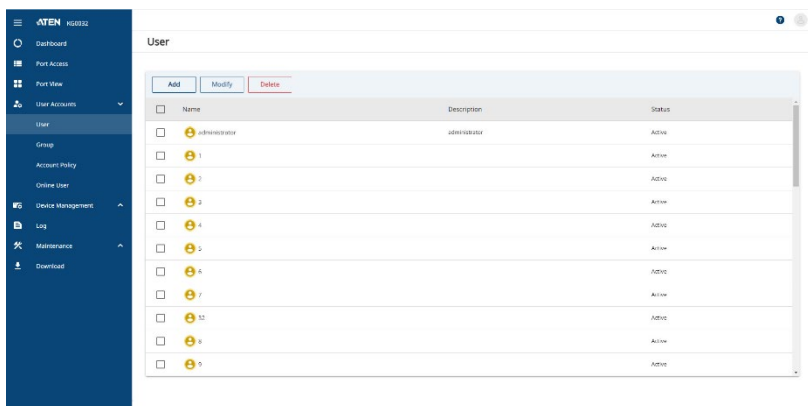
機能	説明
全てのポート (デフォルト設定)	他のフィルターオプションを選択しない場合、ユーザーがアクセス可能な全てのポートがパネルアレイモードに表示されます。 お気に入り指定されている場合(p.100参照)、リストボックスを展開すると、「全て」以外のお気に入りを選択できます。お気に入りを選択すると、お気に入りとして選択した項目のみがパネルアレイモードに表示されます。

機能	説明
オンライン: (n)	n は、KVM本体で使用可能なオンライン・ポートの数(最大16/32)を表します。
オンラインのみ	<p>クリックすると、「オンラインのみ」のオンとオフを切り替えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆  : 有効・オンライン・ポートのみが表示されます。 ◆  : 無効・KVM本体の全てのポートが表示されません。
	<p>レイアウトとモードを設定します。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ◆ レイアウト: 1×1、2×2、3×3、4×4、5×5、6×6、7×7、8×8のレイアウトを選択します。 ◆ モード: 16:9、4:3のアスペクト比、または「画面に合わせる」のいずれかのモードを選択します。
	フルスクリーン機能のオンとオフを切り替えます。

第8章 ユーザーアカウント

概要

ユーザーアカウントではユーザー、グループ、アカウントポリシー、オンラインユーザーなどのオプションの一覧が表示されます。各オプションについては、以下のページで詳しく説明します。



- ◆ ユーザー: ユーザー設定を変更します。p.112「ユーザー」を参照してください。
- ◆ グループ: グループ設定を変更します (p.119「グループ」参照)。
- ◆ アカウントポリシー: アカウントポリシー設定を定義します。p.129「アカウントポリシー」を参照してください。
- ◆ オンラインユーザー: 本製品に接続しているオンラインユーザーのセッションを強制的に終了させることができます。p.131「オンラインユーザー」を参照してください。

ユーザー

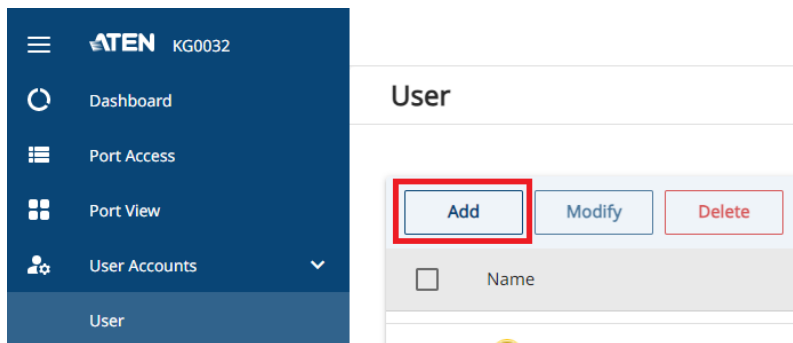
本製品は、次の表に示す3種類のユーザーをサポートします。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポートおよびデバイスへのアクセス・管理、ユーザーおよびグループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポートやデバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーおよびグループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポートおよびデバイスへのアクセス、権限のあるポートおよびデバイスへの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 注意: このタイプのユーザーでも権限が与えられている場合は、他のユーザーの管理を行うことができます。

ユーザーの追加

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「ユーザー」画面で「追加」をクリックします。



2. 「追加」ポップアップウィンドウが表示されます。

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表の通りです。

項目	説明
ユーザーネーム	アカウントポリシーの設定に応じて、1～20文字を使用できます。p.157「暗号化」を参照してください。
パスワード	アカウントポリシーの設定に応じて、0～32文字を使用できます。p.157「暗号化」を参照してください。
パスワードの確認	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。2つは一致している必要があります。
説明	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。

項目	説明
ユーザータイプ	<p>スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリの中から選択することができます。各カテゴリごとのアカウント作成数に制約はありません。(アカウントは合計で64個までです)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。スーパーアドミニストレーターの権限(下記参照)はシステムによって自動的に割り当てられているため、変更することはできません。 ◆ アドミニストレーターのデフォルトの権限には「参照のみ」以外の全てが含まれていますが、権限のチェックボックスをオンまたはオフにすることで、各アドミニストレーター権限を変更できます。 ◆ ユーザーのデフォルト権限にはWinClientとWebClientが含まれますが、権限のチェックボックスをオンまたはオフにすることで、各ユーザーの権限を変更できます。 <p>注意:ユーザー管理権限を付与されたユーザーは、グループにアクセスしたり、グループを設定したりすることはできません。</p>

項目	説明
<p>権限</p> <p>注意:一般ユーザーの場合、デバイス管理、ポート設定、およびメンテナンス権限を有効にするだけでなく、管理を許可される各デバイスおよびポートに対する権限もユーザーに付与する必要があります。詳細は、p.126「デバイスの割り当て」を参照してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「デバイス管理」を有効にすると、ユーザーは本製品の操作全般の設定と制御を行うことができます(「デバイス管理」を参照)。 ◆ 「ポート設定」を有効にすると、各ポートの設定と制御を行うことができます(p.184「設定」参照)。 ◆ 「ユーザー管理」の項目にチェックを入れると、ユーザーおよびグループアカウントの作成・変更・削除が可能になります。 ◆ 「メンテナンス」を有効にすると、「メンテナンス」タブで本製品のメンテナンス操作を実行できます(p.172「メンテナンス」参照)。 ◆ 「システムログ」を有効にすると、ユーザーはシステムログにアクセスできます(p.167「ログ」参照)。 ◆ 「参照のみ」の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品に接続された機器の画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ 「WindowsClient」を有効にすると、ユーザーはWindowsClient APソフトウェアをダウンロードし、ブラウザのアクセス方法に加えて(またはその代わりに)本製品にアクセスできます。 ◆ 「WebClient」を有効にすると、ユーザーはウェブブラウザを介して本製品にアクセスできます。

項目	説明
状態	<p>ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理することができます。詳細は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「アカウントを無効にする」の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止することができます。この機能ではユーザーは実際には物理的に削除されませんので、後に必要となった場合でも簡単に設定を戻すことができます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「アカウントを無期限にする」の項目にチェックを入れてください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「アカウント失効日」の項目にチェックを入れ、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。 ◆ 次回のログオン時にユーザーにパスワードの変更を要求するには、「ユーザーは次回のログイン時にパスワード変更が必要」を選択します。この項目を使うことで、初回ログインでは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用することができます。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「ユーザーはパスワード変更不可」の項目にチェックを入れてください。 ◆ セキュリティーのために、アドミニストレーターはユーザーに定期的なパスワードの変更を要求することが可能です。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ パスワードに有効期限を設けない場合は、「パスワードを無期限にする」の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの有効期限の制限を受けません。 ◆ パスワードに有効期限を設ける場合は、「パスワード失効まで」の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。

4. この時点で、「グループ」タブを選択して新しいユーザーをグループに割り当てることができます。「グループ」画面については、p.122で説明します。また、「デバイス」タブを選択して、ユーザーのポートアクセス権を割り当てることもできます。「デバイス」画面については、p.126を参照してください。

注意:

グループの設定は必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「**保存**」をクリックしてください。
6. 新しいユーザーがリストに表示されます。

他にも追加するユーザーがある場合は、上記の操作手順を繰り返してください。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにしてユーザーネームを選択し、「**変更**」をクリックします。
2. 表示される「**変更**」ポップアップウィンドウで変更を行い、「**保存**」をクリックします。

注意:

「ユーザー」画面についてはp.112で、「グループ」画面についてはp.119で、「デバイス」画面についてはp.126で、それぞれ説明します。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにして、ユーザーネームを選択します。
2. 「削除」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「OK」をクリックしてください。

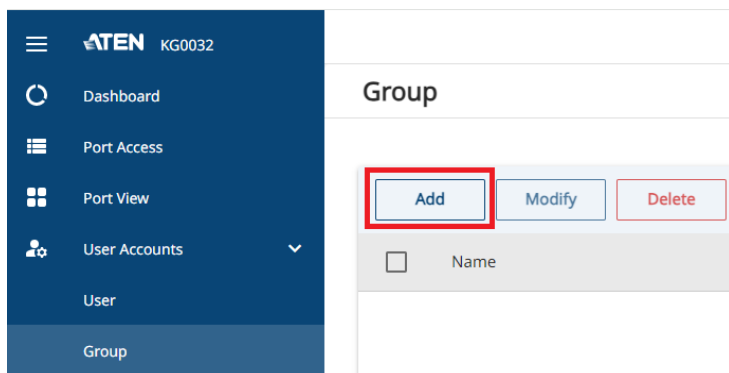
グループ

グループを使用すると、管理者はユーザーやデバイスを簡単に管理できます。グループ単位で設定を行うことで、アクセス権限はグループの全メンバーに適用されます。これにより、個々のユーザーに対して権限を設定する手間が省けます。また、複数のグループを定義することで、特定のデバイスへのアクセスを許可または禁止できます。

グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「グループ」画面で「追加」をクリックします。



2. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表の通りです。

項目	説明
グループネーム	最大16文字まで入力できます。
説明	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。最大63文字まで入力できます。
許可	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。これらの権限は「ユーザー」タブの権限と同じです。詳細はp.115「権限」を参照してください。

3. この時点で、「メンバー」タブを選択してユーザーをグループに割り当てることができます。「メンバー」画面については、p.122で説明します。また、「デバイス」タブを選択して、グループのポートアクセス権を割り当てることもできます。デバイス画面については、p.126を参照してください。
-

注意:

ここではグループの設定は必須ではありません。まずユーザーやグループを作成し、その後、必要になったらユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりしてください。

4. 各項目への入力が終わったら「保存」をクリックしてください。
5. 新しいグループがリストに表示されます。

他にも追加するグループがある場合は、上記の操作手順を繰り返してください。

グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. グループ名の横にあるチェックボックスをオンにして、「変更」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで変更を行い、「保存」をクリックします。

注意:

「グループ」画面についてはp.119で、「メンバー」画面についてはp.122で、「デバイス」画面p.126で、それぞれ説明します。

グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにして、ユーザーネームを選択します。
2. 「削除」をクリックし、「削除」をクリックします。
3. 「OK」をクリックしてください。

ユーザーとグループ

ユーザーとグループを管理するには、「ユーザーの変更」ポップアップと、「グループの変更」ポップアップウィンドウの2つの方法があります。

注意:

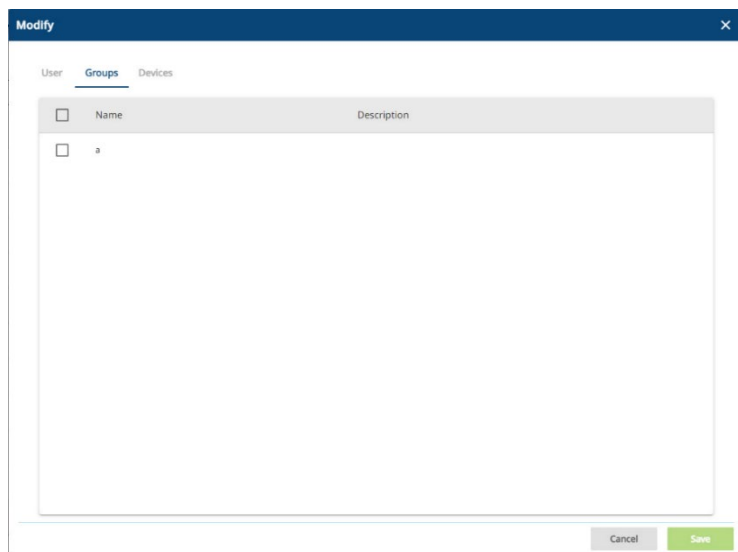
ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。

詳細については、p.112「ユーザーの追加」を参照してください。

グループにユーザーを割り当てるには - ユーザー

「ユーザーの変更」ポップアップウィンドウからユーザーをグループに割り当てるには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにしてユーザーネームを選択し、「**変更**」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「グループ」タブを選択します。そうすると、以下のような画面が表示されます。



3. ユーザーが所属するグループを選択します。
 4. 完了したら、「**保存**」をクリックしてください。
-

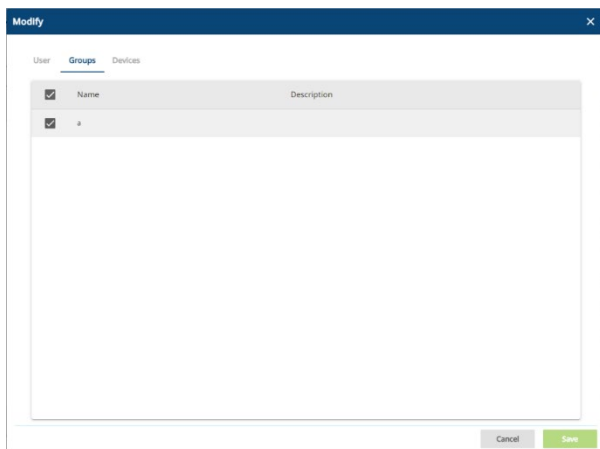
注意:

グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

グループからユーザーを削除するには - ユーザー

「ユーザーの変更」ポップアップウィンドウからユーザーをグループから削除するには、次の操作を行います。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにしてユーザー名を選択し、「**変更**」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「グループ」タブを選択します。以下のような画面が表示されます。

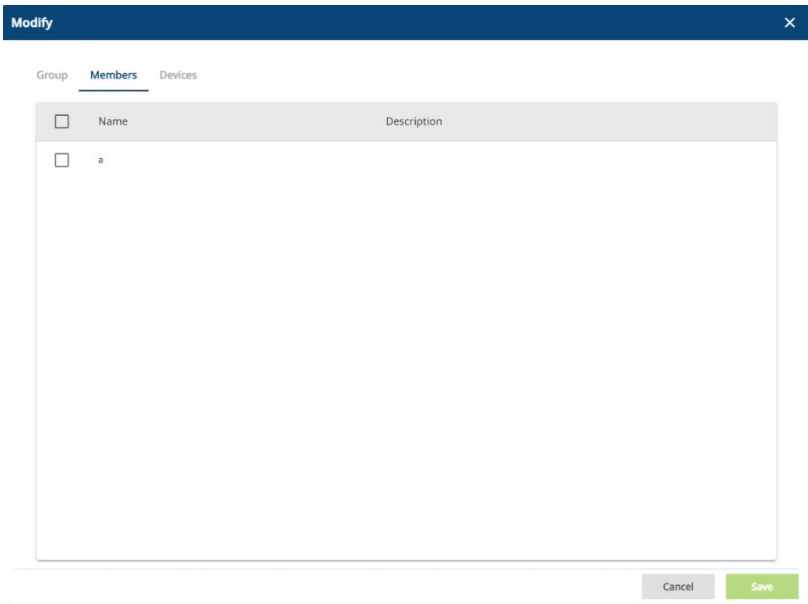


3. ユーザーを削除するグループを選択します。
4. 完了したら、「**保存**」をクリックしてください。

グループにユーザーを割り当てるには - グループ

「グループ」の「変更」ポップアップウィンドウからユーザーをグループに割り当てるには、以下の操作を行います。

1. グループ名の横にあるチェックボックスをオンにして、「変更」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「メンバー」タブを選択します。以下のような画面が表示されます。



3. グループのメンバーにするユーザーを選択します。
4. 完了したら、「保存」をクリックしてください。

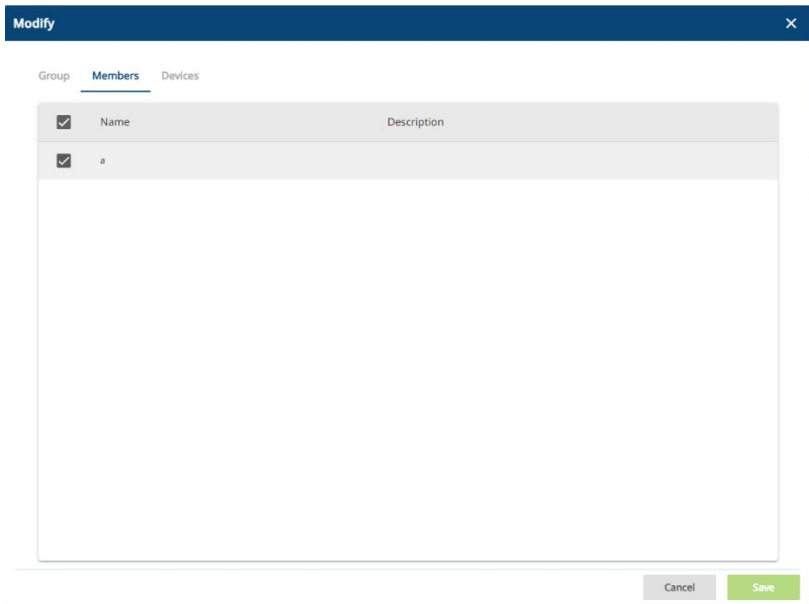
注意:

グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

グループからユーザーを削除するには - グループ

グループの「変更」ポップアップウィンドウからグループからユーザーを削除するには、次の操作を行います。

1. グループ名の横にあるチェックボックスをオンにして、「変更」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「メンバー」タブを選択します。以下のような画面が表示されます。



3. グループから削除するユーザーを選択します。
4. 完了したら、「保存」をクリックしてください。

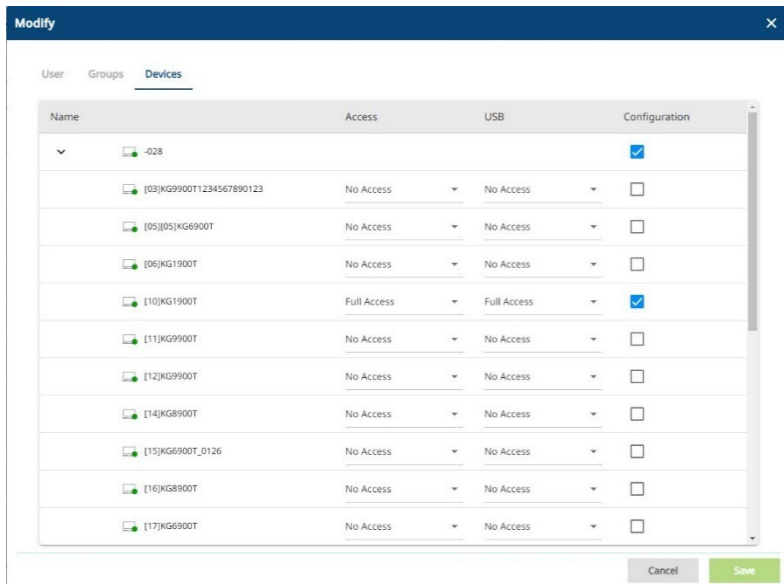
デバイスの割り当て

本製品にユーザーがログインすると、「ポートアクセス」画面が表示されます。ここで、アクセスが許可された全てのポートが画面左側のサイドバーに一覧表示されます。ポートやその接続デバイスへのアクセス権限は、「ユーザーアカウント」画面の「ユーザー」または「グループ」リストから、それぞれのポートごとに割り当てられます。

デバイス権限の割り当て- ユーザー

「ユーザーの変更」ポップアップウィンドウからユーザーにデバイス権限を割り当てるには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 隣にあるチェックボックスをオンにしてユーザーネームを選択し、「変更」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「デバイス」タブを選択します。以下のような画面が表示されます。



3. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

名前:ユーザーがアクセスできる各ポートは、この列の下に表示されます。

アクセス:この列は、デバイスのアクセス権が設定される場所です。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、選択肢を循環させます。アイコンの意味を下表に示します。

アクセス不可	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。
参照のみ	ユーザーはリモート画面を参照することができますが、操作をすることはできません。
フルアクセス	ユーザーはリモート画面を表示し、自分のキーボードとモニターからリモートサーバー上で操作を実行できます。

USB:USB列には、USBバーチャルメディアデバイスのアクセス権が表示されます。ただし、このエントリーはUSBバーチャルメディア機能に対応していないKVM製品では表示されません。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、有効/無効を切り替えます。

「アクセスなし」とは、ユーザーがバーチャルメディアに対してマウント、読み取り、および書き込みの権限がない状態です。「参照のみ」は、マウントされたバーチャルメディアからデータを読み取りのみできる状態を指します。「フルアクセス」は、ユーザーがバーチャルメディアをマウント、読み取り、および書き込みできる状態を意味します。

設定:この列は、ポートの設定を変更するユーザーの権限が許可・制限される場所です。設定するポートに対応する行のアイコンをクリックして、選択肢を循環させます。

ユーザーがポート設定を変更できる場合、チェックマーク(✓)が表示されます。チェックマークがない場合は、ユーザーにその権限がありません。

4. 内容を設定したら、「**保存**」をクリックしてください。

デバイス権限の割り当て- グループ

「グループ」タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. グループ名の横にあるチェックボックスをオンにして、「**変更**」をクリックします。
2. 表示される「変更」ポップアップウィンドウで、「デバイス」タブを選択します。
3. 表示される画面は、「ユーザーの変更」ポップアップウィンドウに表示される画面と同じです。唯一の違いは、設定が、個々のメンバーではなく、グループの全てのメンバーに適用されることです。

p.126「デバイス権限の割り当て - ユーザー」の説明に従って、デバイスの割り当てを行います。

アカウントポリシー

「アカウントポリシー」のタブでは、システム管理者がユーザーネームとパスワードを管理するポリシーを設定できます。

Account Policy

Minimum Username Length	<input type="text" value="1"/>
Minimum Password Length	<input type="text" value="0"/>
Password Must Contain At Least	<input type="checkbox"/> One Upper Case
	<input type="checkbox"/> One Lower Case
	<input type="checkbox"/> One Number
	<input type="checkbox"/> One Special ⓘ
<input type="checkbox"/> Minimum Number(%) of Characters Changed from Previous Password	<input type="text" value="50"/>
<input type="checkbox"/> Disable Duplicate Login	
<input type="checkbox"/> Enforce Password History	<input type="text" value="3"/>

このセクションにおける各項目の内容は下表の通りです。

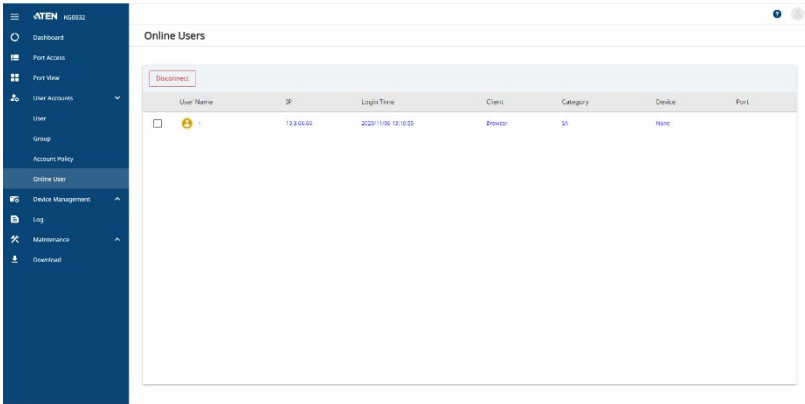
項目	説明
ユーザーネーム最小文字数	ユーザーネームの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。許容値は1～16です。デフォルトでは6に設定されています。
パスワード最小文字数	パスワードの設定に最低限入力が必要な文字数を設定します。設定できる値は0～32です。0を設定した場合は、パスワードの入力が不要です。 ユーザーはユーザーネームのみでログインできます。デフォルトでは6に設定されています。

項目	説明
パスワードには以下が必須	<p>これらの項目のいずれかをチェックするには、パスワードに少なくとも1つの大文字、1つの小文字、または1つの数字を含める必要があります。</p> <p>注意:このポリシーは既存のユーザーアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。</p>
以前のパスワードから変更された文字の最小数(%)	以前のパスワードから変更する必要がある最小文字数をパーセントで設定します。
重複ログインの無効化	これをオンにすると、ユーザーが同一アカウントで同時にログインできなくなります。
パスワード履歴を実行する	これにより、ユーザーがパスワードの再作成を要求されたときに、同じパスワードを使用することを防ぎます。以前のパスワードを2回目に使用する前に必要となるパスワード変更の回数を入力します。

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

オンラインユーザー

「オンラインユーザー」タブでは、デバイス管理権限を持つユーザーが、現在本製品にアクセスしているリモートユーザーの接続を切断できます。



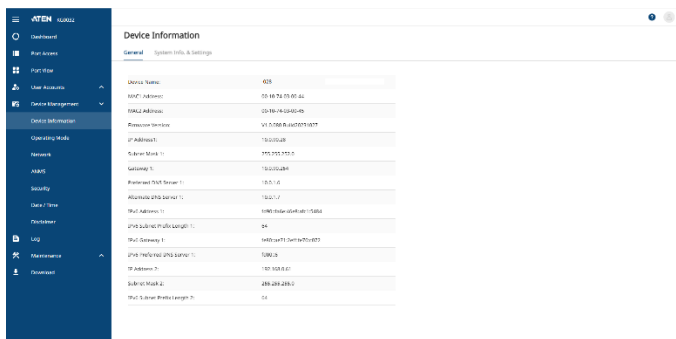
管理者がセッションを強制切断するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. アクセス中のユーザー一覧の隣にあるチェックボックスをオンにしてユーザー名を選択し、「**切断**」をクリックします。
2. 「**確認**」をクリックします。

第9章 デバイス管理

KVM本体のデバイス管理

デバイス管理を選択すると、デバイス情報、操作モード、ネットワーク、ANMS、セキュリティ、日付/時刻、および免責事項を含むKVM本体のオプションリストが表示されます。各オプションの詳細については、以下のページを参照してください。



- ◆ デバイス情報: KVM本体の一般的なデバイスとシステム情報を表示し、そのシステム設定を行います。p.133「デバイス情報」を参照してください。
- ◆ 操作モード: 操作モードを設定します (p.136参照)。
- ◆ ネットワーク: ネットワークのパラメーターを設定します (p.136「ネットワーク」参照)。
- ◆ ANMS: イベント宛先、認証、SNMPエージェントなどのANMS設定を行います (p.142「ANMS」参照)。
- ◆ セキュリティー: アクセス保護や証明書などのセキュリティ設定を定義します (p.151「セキュリティ」参照)。
- ◆ 日付/時刻: 日付と時刻の設定を行います (p.163「日付/時刻」参照)。
- ◆ 免責事項: 免責事項を設定します (p.165「免責事項」参照)。

デバイス情報

「デバイス情報」画面には、「全般」と「システム情報・設定」の2つのセクションがあります。

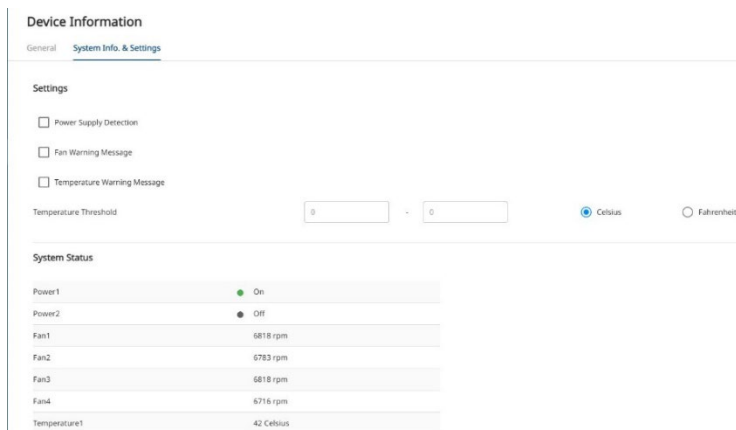
全般

「デバイス情報」画面の「全般」セクションには、選択したデバイスの名前、ファームウェアバージョン、FPGA(本体メイン演算部)、およびネットワーク設定に関する情報が表示されます。

Device Information	
General	System Info. & Settings
Device Name:	中文中文中文中文中文中文-028
MAC1 Address:	00-10-74-03-00-44
MAC2 Address:	00-10-74-03-00-45
Firmware Version:	V1.0.080 Build20231027
IP Address 1:	10.0.90.28
Subnet Mask 1:	255.255.252.0
Gateway 1:	10.0.90.254
Preferred DNS Server 1:	10.0.1.6
Alternate DNS Server 1:	10.0.1.7
IPv6 Address 1:	fd90::fa6e:46e8:afc1:5484
IPv6 Subnet Prefix Length 1:	64
IPv6 Gateway 1:	fe80::ae71:2eff:fe70:c072
IPv6 Preferred DNS Server 1:	fd00::6
IP Address 2:	192.168.0.61
Subnet Mask 2:	255.255.255.0
IPv6 Subnet Prefix Length 2:	64

システム情報・設定

「デバイス情報」画面の「システム情報 & 設定」セクションには、デバイスの環境に関する情報が表示され、「電源検出」、「ファン警告メッセージ」、「温度警告メッセージ」の各設定を行います。



Device Information	
System Info. & Settings	
Settings	
<input type="checkbox"/>	Power Supply Detection
<input type="checkbox"/>	Fan Warning Message
<input type="checkbox"/>	Temperature Warning Message
Temperature Threshold	<input type="text" value="0"/> - <input type="text" value="0"/> <input checked="" type="radio"/> Celsius <input type="radio"/> Fahrenheit
System Status	
Power1	● On
Power2	● Off
Fan1	6818 rpm
Fan2	6783 rpm
Fan3	6818 rpm
Fan4	6716 rpm
Temperature1	42 Celsius

設定

「設定」エントリーの内容は下表の通りです。

項目	説明
電源検出	<p>この機能を有効にすると、KVM本体は電源が1つしか起動していない場合にビープ音を鳴らし、確認メッセージも表示します。</p> <p>ビープ音を停止する方法は2つあります。1つ目は、ボックスのチェックを外して警告を無効にする方法です。これにより、常にこの機能を無効にすることができます。2つ目は、ダイアログボックスで一時的に警告を無効にする方法です。この場合、電源を再起動すると警告機能が再び有効になります。</p> <p>この機能はデフォルトで有効になっています。</p>

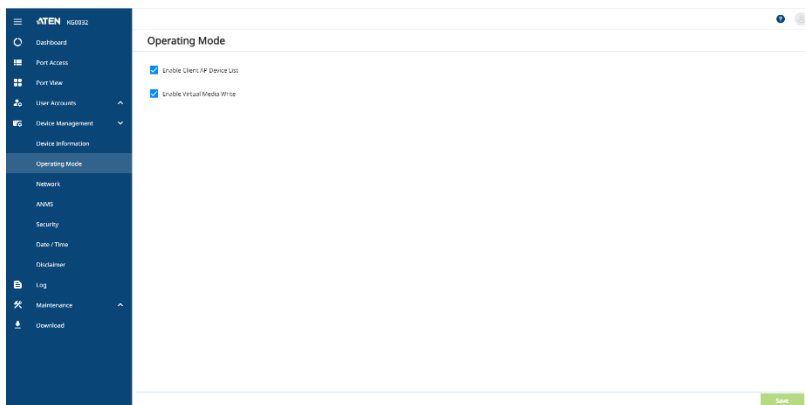
項目	説明
ファン警告メッセージ	<p>ボックスにチェックを入れると、ファン警告メッセージを有効にします。この機能が有効な場合、ファンのいずれかが回転を停止すると、システムログにイベントが記録されます。有効でない場合、イベントは記録されません。</p> <p>注意: 警告は、必ずしもファンが故障したことを意味するものではありません。それは、温度が下限の設定を下回ると、(必要に応じて)ファンの回転が停止するからです。</p> <p>デフォルトでは、この機能が有効になっています。</p>
温度警告メッセージ	<p>ボックスにチェックを入れると、温度警告メッセージを有効にします。この機能が有効な場合、デバイスの温度が最小しきい値設定を下回るか、最大しきい値設定を上回ると、システムはイベントをシステムログに記録します。有効でない場合、イベントは記録されません。</p> <p>デフォルトでは、この機能が有効になっています。</p>
温度しきい値	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 温度警告メッセージの温度しきい値を設定します。 ◆ KVM本体の内蔵センサーから読み取られた温度はここに表示され、摂氏(°C)または華氏(F)で表示できます。

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

システムの状態

「システム状態」画面には、デバイスの環境の情報が表示されます。電源装置に電源が供給されていない場合、「電源1」と「電源2」のアイコンはグレーで表示されます。電源が供給されている場合は緑色で表示されます。

操作モード



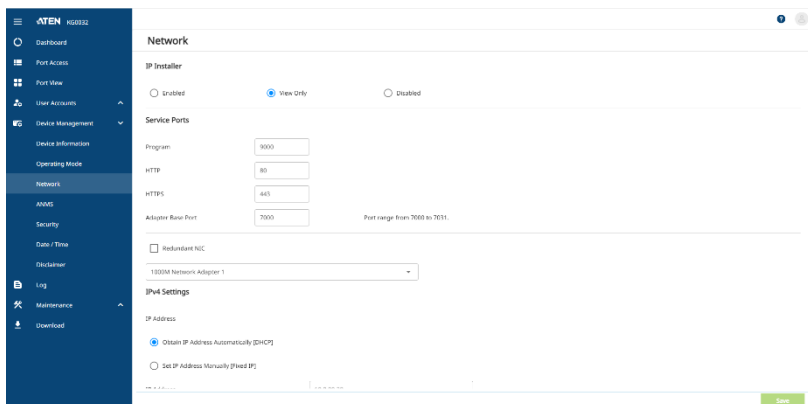
「操作モード」画面は、以下のように作業パラメーターを設定するために使用します。

- ◆ 「クライアントAPデバイスリストを有効にする」を有効にすると、WinClient APを使用した際にKVM本体がアプリ内のリストに表示されます（詳細は p.34「WindowsClient APIによるログイン」を参照）。一方、このオプションが有効でない場合、KVM本体にはアクセスできますが、その名前はサーバーリストに表示されません。
- ◆ 「バーチャルメディアの書き込み」を有効にすると、KVM本体は、ユーザーはマウントしたバーチャルメディアがターゲットサーバーからのデータを書き込むことができるようになります。

設定が完了したら、「**保存**」をクリックします。

ネットワーク

「ネットワーク」画面は、ネットワーク環境を設定する際に使用します。



この画面における各項目については、後続のセクションで説明します。

IPインストーラー

IPインストーラーは、本製品にIPアドレスを割り当てるためのWindows用アプリです。

IPインストーラーの用途に応じて、「有効」、「参照のみ」、「無効」のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IPインストーラーの詳細についてはp.137を参照してください。

注意:

1. 「参照のみ」を選択すると、IPインストーラーのデバイスリストに本製品が表示されますが、IPアドレスを変更できません。
2. セキュリティーを強化するために、IPインストーラーの使用後には、この項目を「参照のみ」または「無効」に設定することを強く推奨します。

サービスポート

セキュリティ対策として、システムにファイアウォールが導入されている場合、管理者はファイアウォールの設定で許可されたポート番号を製品本体側に設定する必要があります。デフォルト以外のポートを使用している場合、ユーザーはログイン時にIPアドレスと共にポート番号を入力する必要があります。無効なポート番号やポート番号が指定されていない場合、本製品は検出されません。詳細は下表をご覧ください。

項目	説明
プログラム	これは、WinClient AP、WebClientビューア、またはバーチャルメディア経由で接続するためのポート番号です。デフォルトでは9000に設定されています。
HTTP	ブラウザーからのログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは80に設定されています。
HTTPS	SSL通信に使用するポート番号です。デフォルトでは443に設定されています。
アダプターベースポート	アダプターアクセス用のポートです。デフォルトは7000です。

注意:

1. 全てのサービスポートにおける有効なエントリーは1~65535です。
2. これらのポートにはそれぞれ固有のポートを割り当て、値が重複しないように設定してください。
3. ファイアウォールがない場合(例・イントラネット)でも、他機器とのデータ衝突するおそれがある場合は別の番号を指定してください。

NIC設定

◆ 冗長NIC

本製品は、本体に2つのネットワークインターフェースが搭載されています。冗長NICが有効な場合(デフォルト)、両方のインターフェースでネットワークアダプター1のIPアドレスを使用します。

この設定を行った場合、セカンドインターフェースは通常、非アクティブな状態になっています。最初のインターフェースでネットワーク障害が発

生した場合、自動的に2番目のインターフェースに切り替わります。

- ◆ 冗長ネットワーク有効 - 両方のインターフェースに同じIPアドレスを設定します。冗長ネットワークを有効にするには、以下の手順で操作してください。

1. クリックして、「冗長NIC」チェックボックスにチェックを入れます。
2. 設定でネットワークアダプター1が選択され、変更不可になります。ネットワークアダプター2は設定できません。
3. 「ネットワークアダプター1」で使用するIPアドレスとDNSサーバーのIPアドレスを設定してください(次のセクションを参照)。

- ◆ 冗長ネットワーク無効 - 両方のインターフェースに異なるIPアドレスを設定します。

冗長ネットワークを無効にすると、両方のインターフェースに異なるIPアドレスを設定することができます。ユーザーは、いずれかのIPアドレスでKVM本体にログインできます。この設定でKVM本体をセットアップするには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「冗長NIC」チェックボックスにチェックが入っている場合は、クリックして選択を解除します。
2. ネットワークアダプターのリストボックスで、「ネットワークアダプター1」を選択します。
3. 「ネットワークアダプター1」で使用するIPアドレスとDNSサーバーのIPアドレスを設定してください(次のセクションを参照)。
4. ネットワークアダプターのリストボックスを展開し、「ネットワークアダプター2」を選択します。
5. ネットワークアダプター2のIPアドレスとDNSサーバーアドレスを設定します。

IPv4設定

◆ IPアドレス:

IPv4はIPアドレスの従来の設定方法です。本製品には、IPアドレスをDHCPと固定IPアドレスの両方に対応しています。

- ◆ 動的IPアドレス割り当ての場合は、「IPアドレスを自動的に取得する [DHCP]」ラジオボタンを選択します (デフォルト設定です)。
- ◆ 固定IPアドレスを設定する場合は、「IPアドレスを手動で設定する (固定IP)」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な値を各欄に入力してください。

注意:

1. 「IPアドレスを自動的に取得する [DHCP]」を選択した場合、本製品が起動すると、DHCPサーバーからIPアドレスを取得するまで待機します。1分後にアドレスを取得していない場合は、自動的に工場出荷時のIPアドレス(192.168.0.60)に戻ります。
2. 本製品がDHCPにて、IPアドレスが分からなくなってしまった場合は、p.207「IPアドレスの設定」を参照してください。

◆ DNSサーバー

-
- ◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「DNSサーバーアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。
 - ◆ DNSサーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「DNSサーバーアドレスの手動設定」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのIPアドレスをそれぞれ入力してください。

注意:

代替DNSサーバーのアドレスは任意で設定してください。

IPv6設定

◆ IPアドレス:

IPv6はIPアドレス設定の新しいフォーマット(128ビット)です(詳細についてはp.209「IPv6」参照)。本製品には、そのIPv6アドレスが動的に割り当てられるようにするか(DHCP)、固定IPアドレスを割り当てることができます。

◆ 動的IPアドレス割り当ての場合は、「IPv6アドレスを自動的に取得する[DHCP]」ラジオボタンを選択します(デフォルト設定です)。

◆ 固定IPアドレスを設定する場合は、「IPv6アドレスを手動で設定する(固定IP)」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な値を各欄に入力してください。

◆ DNSサーバー

◆ DNSサーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「DNSサーバーアドレスを自動的に取得する」のラジオボタンを選択してください。

◆ DNSサーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「DNSサーバーアドレスの手動設定」のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先DNSサーバーと代替DNSサーバーのIPアドレスをそれぞれ入力してください。

注意:

代替DNSサーバーのアドレスは任意で設定してください。

設定が完了したら、「**保存**」をクリックします。

ANMS

「ANMS」(Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関する設定を行います。以下で説明するように、関連する一連のパネルを含む3つのセクションに分かれています。

イベントの宛先

The screenshot shows the 'ANMS' configuration interface. At the top, there are three tabs: 'Event Destination' (selected), 'Authentication', and 'SNMP Agent'. Below the tabs is the 'SMTP Settings' section. It contains a checkbox for 'Enable Report from the Following SMTP Server'. Below this are input fields for 'SMTP Server', 'Service Port' (with '25' entered), and a checkbox for 'My Server Requires Secured Connection (SSL)'. There are also checkboxes for 'My Server Requires Authentication', 'Account Name', 'Password' (masked with dots), 'From', and 'To'. At the bottom of the form is the 'Log Server' section with an 'Enable' checkbox.

SMTP設定

KVM本体からのメールレポートを送信するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「以下のSMTPサーバーからの通知を有効にする」の項目にチェックを入れ、お使いのSMTPサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
2. サーバーがセキュアSSL接続を必要とする場合は、「サーバーでセキュア接続(SSL)が必要」のボックスにチェックを入れます。
3. サーバーで認証が必要な場合は、「サーバーで認証が必要」ボックスにチ

エックを入れ、「アカウント名」と「パスワード」の各欄に適切なアカウント情報を入力します。

4. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

注意:

1. 「差出人」フィールドで許可されるメールアドレスは1つだけで、64バイトを超えることはできません。
2. バイトは半角英数字1文字に相当します。

-
5. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

注意:

複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミicolonで区切ってください。また、宛先のアドレス全体が256バイト以内になるように設定してください。

ログサーバー

ログインや内部ステータスメッセージなど、本製品で発生し検知できたイベントメッセージは、ATEN製アプリ「ログサーバー」で保存ができます。

- ◆ 「有効」の項目にチェックを入れてください。
- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターのMACアドレスを「MACアドレス」欄に入力してください。
- ◆ ログサーバーが動作しているコンピューターがログデータをリッスンしているポートの番号を「サービスポート」欄に入力してください。有効なポート範囲は1～65535です。デフォルトでは9001に設定されています。

注意:

ポート番号は、プログラムポートに使用されている番号とは異なる値を設定してください(p.138「プログラム」参照)。

ログサーバーの設定については、p.181「ログサーバー」を参照してください。ログファイルについては、p.167で説明します。

SNMPトラップ

SNMPトラップイベントを通知するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
 2. SNMPトラップイベントの通知先マネージャのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名のいずれかを入力します。
 3. ポート番号を入力してください。有効なポート範囲は1～65535です。
-

注意:

SNMPトラップイベントが通知されるログは、「ログ」タブの「通知設定」画面で設定します。詳細については、p.171「通知設定」を参照してください。

Syslogサーバー

KVM本体で検知したイベントをSyslogサーバーに記録するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. SyslogサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
3. ポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は1～65535です。

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

認証

ANMS

Event Destination Authentication SNMP Agent

Disable Device Authentication

RADIUS Settings

Enable

Preferred RADIUS

Server IP

10.0.92.221

Port

1645

Authentication Type

PAP

Timeout

3

sec

Retries

3

Shared Secret (at least 6 characters)

.....

AD / LDAP Settings

Enable

◆ ローカル認証の無効化

このオプションを選択すると、本製品におけるリモートアクセス時のログイン認証が無効になります。デバイスには、LDAP、LDAPS、MS Active Directory、またはRADIUS 認証を使用してのみアクセスできます。

RADIUS設定

RADIUSサーバーを介して本製品の認証および承認を許可するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. 優先または代替RADIUSサーバーを選択します。

3. 優先RADIUSサーバーと代替RADIUSサーバーのIPアドレスおよびポート番号をそれぞれ入力してください。IPの各欄は、IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名のいずれかで設定することができます。
4. 「認証の種類」で「PAP」または「CHAP」を選択します。
5. 「タイムアウト」欄に、本製品がRADIUSサーバーの応答を待機する時間を秒単位で設定してください。この時間が経過するとタイムアウトになります。
6. 「再試行」の項目に、RADIUSサーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
7. 「共有シークレット」の項目で、本製品とRADIUSサーバー間の認証に使用する文字列を入力してください。入力には6文字以上が必要です。
8. RADIUSサーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

◆ユーザーエントリーを「su/xxxx」として設定する。

ここで、xxxxは、本製品で作成したにユーザーネームを表します。

◆RADIUSサーバー側と本製品で同じユーザーネームを使用する。

◆RADIUSサーバー側と本製品と同じグループネームを使用する。

◆RADIUSサーバー側と本製品側で同じユーザーネーム、グループネームを使用する。

いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、グループユーザーが本製品で作成した際に割り当てられた権限になります。(p.112「ユーザーの追加」参照)

AD/LDAP設定

LDAP/LDAPS経由でKVM本体の認証と承認を許可するには、以下の表の情報を参照してください。

項目	アクション
有効にする	このボックスにチェックを入れると、LDAP/ LDAPS の認証および承認を許可します。
LDAPサーバーのIPとポート	優先または代替LDAPサーバー選択し、LDAPまたはLDAPSサーバーのIPアドレスとポート番号を入力します。 ◆ 「LDAPサーバー」欄は、IPv4アドレス、IPv6アドレス、ドメイン名を使って設定できます。 ◆ LDAPの場合、デフォルトのポート番号は389、LDAPSの場合、デフォルトのポート番号は636です。
タイムアウト	本製品がLDAP またはLDAPS サーバーの応答を待機してからタイムアウトするまでの時間を秒単位で設定します。
アドミニストレーターDN	この項目はLDAPまたはLDAPSサーバーの管理者にご確認の上、設定してください。以下、設定例です。 ou=kn8132,dc=aten,dc=com
アドミニストレーター名	LDAPアドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
パスワード	LDAPアドミニストレーターのパスワードを入力してください。
サーチDN	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始するDNS名です。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

- ◆ MS Active Directoryスキーマを使用
- ◆ スキーマなし1 - 本製品で使用されるユーザーネームのみがLDAP/LDAPSサーバー上の名前と照合されます。ユーザー権限は、本製品で設定したものと同じです。
- ◆ スキーマなし2 - AD内のグループのみが照合されます。ユーザー権限は、本製品上で、そのユーザーが属しているグループに設定されている

権限と同じです。

- ◆ スキーマなし3 - ADのユーザーネームとグループが照合されます。ユーザー権限とは、本製品のユーザーとグループに設定されている権限です。

注意:

1. 完全にセットアップするためには、LDAP属性が必要です。LDAP属性は、ターミナルインターフェースを使用してGetコマンドから取得できます。詳細は、p.178「ターミナル」を参照してください。一意のX500オブジェクトID(OID)は、組織から割り当てられるか、属性に対して独自に定義されます(例:属性の1.3.6.1.4.1.21317.1.3.1.3)。
 2. LDAPの設定の詳細については、弊社のウェブサイトから完全なLDAPマニュアルをダウンロードできます(2024年5月現在準備中)
-

設定が完了したら、「**保存**」をクリックします。

SNMPエージェント

SNMPエージェントを使用すると、弊社ウェブサイトからダウンロードしたMIBファイルを使用して、大半のデバイス管理設定をMIBブラウザー経由で行うことができます。MIBファイルはMIBブラウザーにインポートすると、次のデバイス管理項目が設定されます。

操作モード: モード、COM設定

ネットワーク: IPインストーラー、サービスポート、IPv4設定、IPv6設定

ANMS - イベント送信先: ログサーバー、SNMPトラップ

利用する製品ページの「サポートとダウンロード」から、弊社ウェブサイトの**KG MIBファイル**をダウンロードします。

MIBブラウザーを介して本製品に接続するには、以下の手順を使用してSNMPエージェントを追加し、本製品の設定に使用するコンピューターからのアクセスを許可します。

Enable

Community / User Name	IP	Version	Access Type
<input type="checkbox"/> ?	?	v1	None

SNMPエージェントを追加するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「有効」の項目にチェックを入れてください。
2. 「追加」をクリックしてください。SNMPエージェントのポップアップウィンドウが表示されます。

SNMP Agent ×

Version v1 v3

Community Name

NMS IP / Host Name

Access Type

3. バージョンを選択します。
4. コミュニティー名を入力します。
5. NMS IP/ホスト名を入力します。MIBブラウザを介して本製品にアクセスするコンピューターのIPアドレスを入力します。
6. 「アクセスタイプ」を選択し、「保存」をクリックします。

7. MIBブラウザからMIBファイル* をインポートし、KVM本体のIPアドレスを入力します。
-

注意:

弊社ウェブサイトの**KG MIBファイル**は、利用する製品ページの「サポートとダウンロード」からダウンロードしてください。

セキュリティー

「セキュリティー」画面は 2つのセクションから構成されています。各セクションには、以下で説明するように、一連の関連パネルがあります。

アクセス保護

Security

[Access Protection](#) [Certificate](#)

Login Failures

Enable

Allowed

Timeout min

Lock Client PC Lock Account

Filter

Enable IP Filter

Include Exclude

<input type="checkbox"/> 192.168.0.90 - 192.168.0.100	<input type="button" value="Add"/>
<input type="checkbox"/> 192.168.0.90 - 192.168.0.100	<input type="button" value="Modify"/>
<input type="checkbox"/> 192.168.0.90 - 192.168.0.100	<input type="button" value="Delete"/>
<input type="checkbox"/> 192.168.0.90 - 192.168.0.100	

ログイン失敗

セキュリティーを強化するために、「ログイン失敗」のセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用されるポリシーを設定することができます。

Login Failures

Enable

Allowed

Timeout

min

Lock Client PC

Lock Account

「ログイン失敗」ポリシーを設定するには、「有効」ボックスにチェックを入れてください(デフォルトでは「ログイン失敗」が有効になっています)。各項目が表示内容は下表の通りです。

項目	説明
許可	リモートコンピューターからの連続したログイン試行の失敗回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。
タイムアウト	許可される失敗回数を超えた後、リモートコンピューターが再度ログインを試みるまでに待機する必要がある時間を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。
クライアントPCのロック	この項目を有効にすると、許可される失敗回数を超えた後、ログインを試みるコンピューターが自動的にロックアウトされます。このコンピューターからのログインは拒否されます。デフォルトでは有効に設定されています。 注意: この機能は、クライアントコンピューターのIPに関連します。IPアドレスが変更されると、そのコンピューターはロックされなくなります。
アカウントのロック	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超えてしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、失敗したユーザーネームとパスワードからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトでは有効に設定されています。

注意:

「ログイン失敗」の項目を設定していないと、ユーザーは無制限で何度でもログインを試行することが可能になってしまいます。セキュリティ上の理由から、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを有効にすることを推奨します。

フィルター

Filter

Enable IP Filter

Include

Exclude

<input type="checkbox"/>	192.168.0.90 - 192.168.0.100
<input type="checkbox"/>	192.168.0.90 - 192.168.0.100
<input type="checkbox"/>	192.168.0.90 - 192.168.0.100
<input type="checkbox"/>	192.168.0.90 - 192.168.0.100

Add

Modify

Delete

Login String

Enable MAC Filter

Include

Exclude

<input type="checkbox"/>	123456789012
<input type="checkbox"/>	123456789012
<input type="checkbox"/>	123456789012
<input type="checkbox"/>	123456789012

Add

Modify

Delete

◆ IP/MACフィルター

IPおよびMACフィルターは、クライアントコンピューターのIPアドレスやMACアドレスに基づいて、本製品へのアクセスを制御します。各フィルターは最大で100項目まで作成できます。設定が完了すると、IPフィルターは上部のリストボックスに、MACフィルターは下部のリストボックスに表示されます。

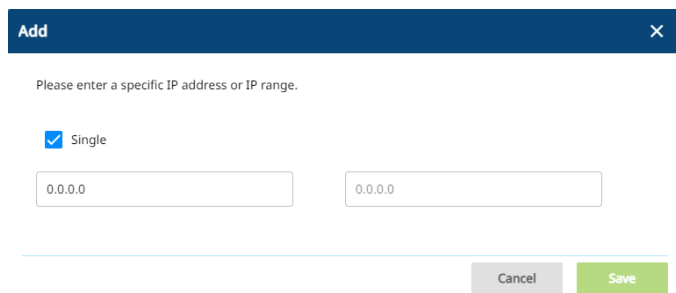
IPによるフィルタリングを有効にするには「IPフィルターを有効にする」チェックボックスを、また、MACによるフィルタリングを有効にするには「MACフィルターを有効にする」チェックボックスを、それぞれオンにします。

- ◆ 「含む」ボタンをオンにすると、フィルター範囲内の全てのアドレスによるアクセスが許可されます。それ以外のアドレスによるアクセスは拒否されます。
- ◆ 「除く」ボタンをオンにすると、フィルター範囲内のアドレスによるアクセスが拒否されます。それ以外のアドレスによるアクセスは許可されます。

◆ フィルター項目の追加

IPアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「**追加**」をクリックしてください。そうすると、以下のような「追加」ポップアップウィンドウが表示されます。



The screenshot shows a dark blue dialog box titled 'Add' with a close button (X) in the top right corner. Below the title bar, the text reads 'Please enter a specific IP address or IP range.' There are two radio buttons: 'Single' (checked) and 'Range'. Below these are two input fields, both containing '0.0.0.0'. At the bottom right, there are two buttons: 'Cancel' (grey) and 'Save' (green).

2. 左側の項目でフィルタリングするアドレスを入力します。
 - ◆ IPアドレスを1つだけフィルタリングするには、クリックして「単一IP」ボックスにチェックを入れます。
 - ◆ アドレスの連続した範囲をフィルタリングするには、右側の項目で範囲の終了番号を入力します。
3. IPアドレスを入力したら、「**保存**」をクリックします。
4. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

◆ ログイン文字列

「ログイン文字列」入力欄を使用すると、ブラウザで本製品にアクセスするときにIPアドレスにログイン文字列を(IPアドレスに加えて)指定できます。

例えば、IPアドレスが「192.168.0.126」で、ログイン文字列が「abcdefg」の場合、ユーザーは次のURLを入力する必要があります。

192.168.0.126/abcdefg

注意:

1. ユーザーはIPアドレスと文字列の間にスラッシュを入れる必要があります。
2. ここでログイン文字列が指定されていない場合、IPアドレスさえあれば、誰でも本製品のログインページにアクセスできてしまいます。これにより、お使いのシステムの安全性が低下することになります。

文字列に使用できる文字は次の通りです。

0~9 a~z A~Z ~ !@ \$ & * () _ - = + [] .

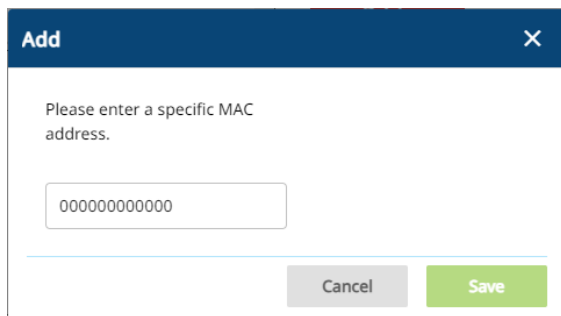
以下の文字は使用できません。

% ^ " : / ? # ¥ ' { } ; ' < > スペース、複合文字(É Ç ñなど)

セキュリティ上の理由から、この文字列を定期的に変更することを推奨します。

MACアドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「追加」をクリックしてください。以下のような「追加」ポップアップウィンドウが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Add" with a close button (X) in the top right corner. The main text inside the dialog says "Please enter a specific MAC address." Below this text is a text input field containing the placeholder text "000000000000". At the bottom of the dialog, there are two buttons: a grey "Cancel" button and a green "Save" button.

2. ダイアログボックスでMACアドレスを入力したら、「保存」をクリックします。
3. フィルタリングする追加のMACアドレスに対して、これらの手順を繰り返してください。

◆ IPフィルターとMACフィルターの競合

IPフィルターとMACフィルターの間競合がある場合(一方のフィルターで許可されているものの、もう一方のフィルターでブロックされている場合)、ブロックフィルターが優先されます。

◆ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目をIPフィルターリスト、またはMACフィルターリストのボックスから選択し、「**変更**」をクリックしてください。「**変更**」ポップアップウィンドウは、「**追加**」ポップアップウィンドウと似たようなインターフェースで設計されています。古いアドレスを削除して新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目をIPフィルターリスト、またはMACフィルターリストのボックスから選択し、「**削除**」をクリックしてください。

暗号化

セキュリティ対策が求められる環境に合わせて映像の追従性や操作レスポンスと引き換えに通信データを暗号化ができます。有効にするには、「ビデオ暗号化を有効にする」および「VM暗号化を有効にする」チェックボックスをオンにして、「**保存**」をクリックします。

セキュリティーレベル

セキュリティーを強化するために、「高」、「中高」、「中」または「カスタム」のラジオボタンを選択してください。

The screenshot shows the 'Security' configuration page. Under the 'Security Level' section, the 'Custom' radio button is selected. To the right, there are several services with checkboxes: 'Enable ICMP Service' (checked), 'Enable SNMP Service' (unchecked), 'Enable Telnet Service' (unchecked), 'Enable SSH Service' (checked), 'Enable HTTP Service' (unchecked), and 'Enable FIPS' (unchecked). A dropdown menu for 'Use TLS v1.3' is also visible.

1. 高 – SSHv2、HTTPS(TLS v1.2)を除く、全てのサービスを無効にします。
2. 中高 – SSHv2、HTTPからHTTPSへのリダイレクト、HTTPS(TLS v1.2)、ICMPを有効にします。
3. 中 – SSHv2を有効にし、HTTPSをHTTPS、HTTPS(TLS v1.0、1.1、1.2)、ICMPにリダイレクトします(デフォルト)。
4. カスタム – 次のセキュリティーオプションから適用したい項目にチェックを入れてください。

◆ ICMPサービスを有効にする

◆ SNMPサービスを有効にする

◆ Telnetサービスを有効にする

◆ SSHセッションを有効にする

◆ HTTPセッションを有効にする

◆ HTTPS セッションを有効にします(「TLS v1.3 を使用」、「TLS v1.2、v1.3 を使用」、「TLS v1.0、v1.1、v1.2、v1.3 を使用」から選択します。)

5. FIPSセキュリティー標準を有効にする場合は、クリックして、「FIPSを有効にする」をチェックします。

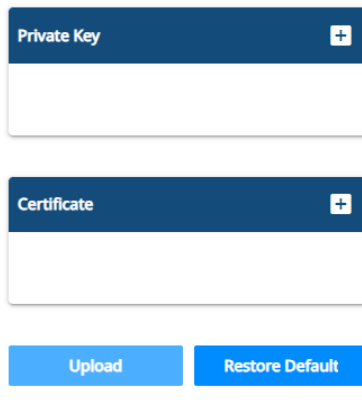
設定が完了したら、「保存」をクリックします。

証明書

プライベート証明書

SSL接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかどうかを検証するために署名済み証明書が使われます。デフォルトのATEN証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化することができます。

Private Certificate



The image shows a web interface for configuring a private certificate. It features two text input fields, one for the 'Private Key' and one for the 'Certificate', each with a blue header bar containing a white plus sign icon. Below these fields are two blue buttons: 'Upload' and 'Restore Default'.

プライベート証明書の作成方法には、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

◆ 自己署名済み証明書の作成

独自の自己署名証明書を作成する場合は、無料のユーティリティー `openssl.exe` をウェブ経由でダウンロードできます。OpenSSLを使って独自のプライベートキーとSSL証明書を作成する方法の詳細については、p.220「自己署名(プライベート)証明書」を参照してください。



◆ CA署名済みSSLサーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局のウェブサイト 액세스

スし、SSL証明書を申請してください。CAから証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適当なフォルダーに保存してください。

◆ プライベート証明書のインポート

プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. プライベートキーの右側にある  をクリックし、プライベート暗号化キーファイルがある場所を参照して選択します。
2. 証明書の右側にある  をクリックし、証明書ファイルがある場所を参照して選択します。
3. 「アップロード」をクリックして操作を完了してください。

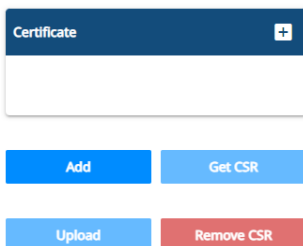
注意:

1. 「デフォルトのリストア」をクリックすると、デバイスはデフォルトのATEN証明書を使用するように戻ります。
 2. プライベート暗号キーおよび署名済証明書は同時にインポートしてください。
-

証明書署名要求

証明書署名要求のセクションでは、CA署名済みSSLサーバー証明書の取得とインストールを自動的に行います。

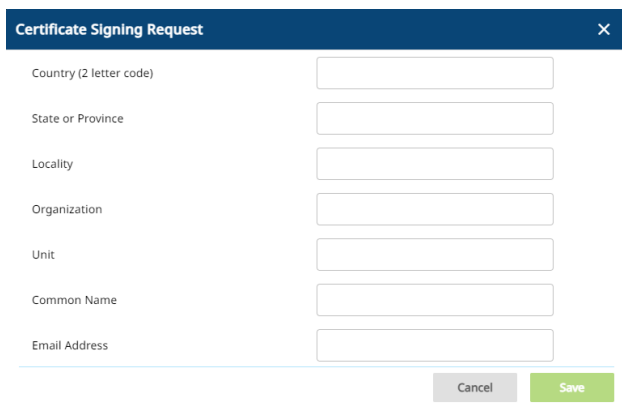
Certificate Signing Request



The interface shows a header 'Certificate' with a plus sign icon. Below it is a large empty rectangular area. At the bottom, there are four buttons: 'Add' (blue), 'Get CSR' (blue), 'Upload' (light blue), and 'Remove CSR' (red).

この操作を行う場合は、下記の手順に従ってください。

1. 「追加」をクリックしてください。次の証明書署名要求ポップアップウィンドウが表示されます。



The form is titled 'Certificate Signing Request' and has a close button (X). It contains the following fields:

- Country (2 letter code)
- State or Province
- Locality
- Organization
- Unit
- Common Name
- Email Address

At the bottom right, there are 'Cancel' and 'Save' buttons.

2. お使いの環境で有効な値を、項目に入力してください。下記に例を示します。

情報	例
国(2文字のコード)	TW
州または都道府県	Taiwan
市区町村	Taipei
組織	Your Company, Ltd.

情報	例
部署	Techdoc Department
コモンネーム	mycompany.com 注意: ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正確に入力してください。サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」で、「mycompany.com」のみを指定した場合、証明書は有効になりません。
メールアドレス	administrator@yourcompany.com

3. フォームに入力したら(全ての項目が必須)、「**保存**」をクリックします。
入力した情報に基づいて作成された自己署名済み証明書が、本製品に保存されます。
4. 「**CSRを取得する**」をクリックし、証明書ファイル(csr.cer)をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。
これは、署名済みSSL証明書の申請の際にサードパーティーの認証局へ提出が必要となるファイルです。
5. 認証局から証明書が送られて来たら、この証明書をお使いのコンピューターの適当なフォルダーに保存してください。 をクリックしてファイルを見つけたら、「**アップロード**」をクリックして本製品に保存します。

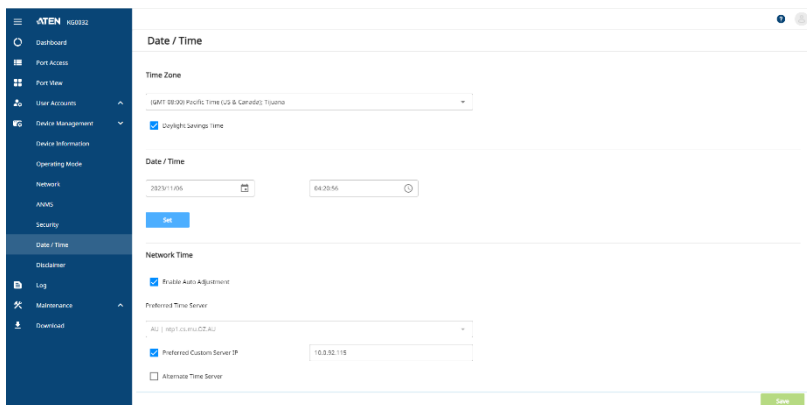
注意:

ファイルをアップロードすると、本製品はファイルをチェックして、指定された情報が引き続き一致しているかどうかを確認します。もし、一致しているのであれば、このファイルを受け入れます。一致しなければこのファイルを拒否します。

証明書を削除する場合(ドメイン名の変更などにより新しい証明書に置き換える場合)は、「**CSRの削除**」をクリックしてください。

日付/時刻

「日付/時刻」画面では、本製品の時刻パラメーターを設定します。



パラメーターは下記を参考にしながら設定してください。

タイムゾーン

- ◆ 本製品が配置されるタイムゾーンを設定するには、「タイムゾーン」リストを展開し、その場所に最も近い都市を選択します。
- ◆ この場所が属している国または地域がサマータイムを導入している場合は、「サマータイム」の項目にチェックを入れてください。

設定が完了したら、「保存」をクリックします。

日付/時刻

- ◆ 「<」をクリックすると1か月前に移動します。「>」をクリックすると1か月先に移動します。
- ◆ 「<」をクリックすると1年前に移動します。「>」をクリックすると1年後に移動します。
- ◆ カレンダーから適切な日をクリックしてください。
- ◆ 時間を設定するには、青い点を時計回りまたは反時計回りにクリック&ドラッグして時間を設定し、青い点をもう一度クリック&ドラッグして「分」を設定しま

す。

- ◆ 設定内容を保存する場合は「**設定**」をクリックしてください。

ネットワークタイム

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 「自動調整を有効にする」にチェックを入れてください。
2. 「タイムサーバー」ドロップダウンリストを展開して、希望するタイムサーバーを選択します。
「優先カスタムサーバーIP」ボックスにチェックを入れ、選択したタイムサーバーのIPv4アドレス、IPv6アドレス、またはドメイン名を入力します。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「代替タイムサーバー」にチェックを入れて、代替タイムサーバーに対して手順2の操作を繰り返してください。
4. 次の同期を行うまでの日数を入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**今すぐ時刻調整**」をクリックしてください。

免責事項

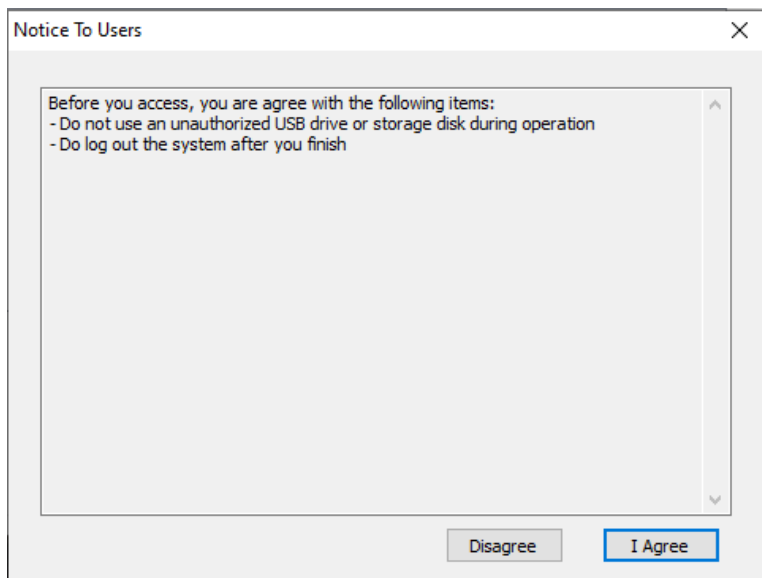
以下の図に示すように、ここで免責事項を設定できます。

The screenshot shows the ATEN iV50312 web interface. On the left is a dark blue sidebar with a menu containing: Dashboard, Port Access, Port Map, User Accounts, Device Management (expanded), Device Information, Operating Mode, Network, ANMS, Security, Date / Time, Disclaimer (highlighted), Log, and Maintenance (expanded). The main content area is titled 'Disclaimer' and includes a checkbox labeled 'Enable Disclaimer' which is currently unchecked. Below this are two input fields: 'Title' and 'Content'. A green 'Save' button is located at the bottom right of the form area.

ログイン時に免責事項を有効にするには、「免責事項を有効にする」ボックスにチェックを入れます(デフォルトでは無効)。

免責事項のタイトルと内容を入力し、「**保存**」をクリックして変更を保存します。

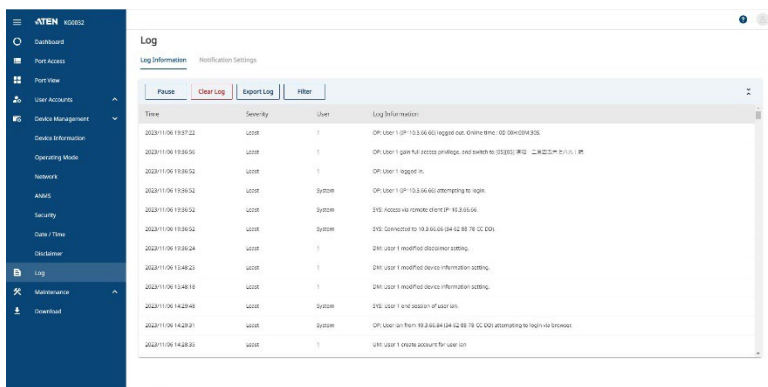
ログインすると免責事項が表示されます。WindowsClient APを使用し、ログインする場合の例を次に示します。



第10章 ログ

概要

本製品は、ログインや本体設定変更など発生したイベントをログに記録します。ログの内容を確認する場合は、「ログ」タブをクリックしてください。次のようなデバイスのログ情報画面が表示されます。

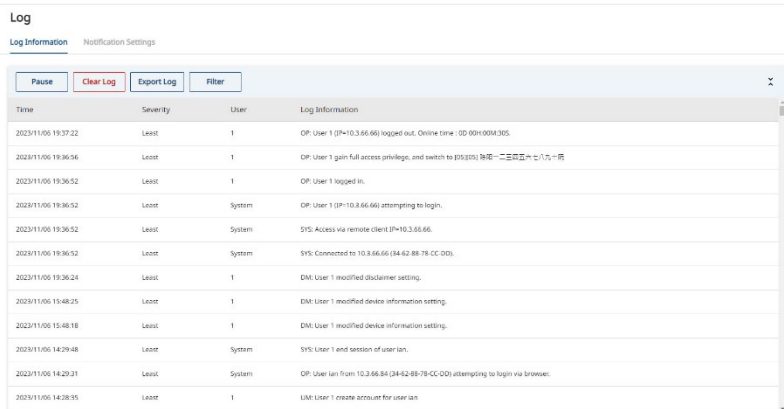


The screenshot shows the ATEN K50012 Log page. The left sidebar contains navigation options: Dashboard, Port Access, Port View, User Accounts, Device Management (expanded), Device Information, Operating Mode, Network, AMMS, Security, Date/Time, Disclaimer, Log (selected), Maintenance, and Network. The main content area is titled 'Log' and includes 'Log Information' and 'Notification Settings' tabs. Below these are buttons for 'Pause', 'Clear Log', 'Export Log', and 'Filter'. A table displays the log entries with columns for Time, Severity, User, and Log Information.

Time	Severity	User	Log Information
2023/11/06 19:37:22	LOGOFF	?	OK: User 1 (IP: 193.3.66.60) logged out. (Device Name: 100-084004-030)
2023/11/06 19:36:50	LOGOFF	?	OK: User 1 gave full access privilege. (net switch to 000000) (SSID: 二層立中 2.11.1) (R)
2023/11/06 19:36:52	LOGOFF	?	OK: User 1 logged in.
2023/11/06 19:36:52	LOGOFF	System	OK: User 1 (IP: 193.3.66.60) attempting to login.
2023/11/06 19:36:52	LOGOFF	System	INFO: Access via remote client IP: 193.3.66.60.
2023/11/06 19:36:52	LOGOFF	System	INFO: Successful to 193.3.66.60 (14-02-88-78-CC-00).
2023/11/06 19:36:24	LOGOFF	?	INFO: User 1 modified disclaimer setting.
2023/11/06 19:36:25	LOGOFF	?	INFO: User 1 modified device information setting.
2023/11/06 19:36:18	LOGOFF	?	INFO: User 1 modified device information setting.
2023/11/06 14:29:48	LOGOFF	System	INFO: User 1 on session IP user login.
2023/11/06 14:29:31	LOGOFF	System	OK: User 1 on From 193.3.66.64 (14-02-88-78-CC-00) attempting to login via browser.
2023/11/06 14:28:30	LOGOFF	?	INFO: User 1 create account for user login.

ログ情報

「ログ情報」画面には、本製品で発生するイベントが表示され、時間、重要度、ユーザー、およびそれぞれの説明が表示されます。列の見出しをクリックすると、その項目で並び替えて表示します。



The screenshot shows a web interface titled "Log" with a sub-tab "Log Information". At the top, there are four buttons: "Pause", "Clear Log", "Export Log", and "Filter". Below the buttons is a table with the following columns: "Time", "Severity", "User", and "Log Information". The table contains 12 rows of log entries, including events like "OP: User 1 logged out", "OP: User 1 gain full access privilege", "OP: User 1 logged in", "OP: User 1 attempting to login", "SYS: Access via remote client", "SYS: Connected to", "EM: User 1 modified disclaimer setting", "EM: User 1 modified device information setting", "SYS: User 1 end session of user lan", and "LM: User 1 create account for user lan".

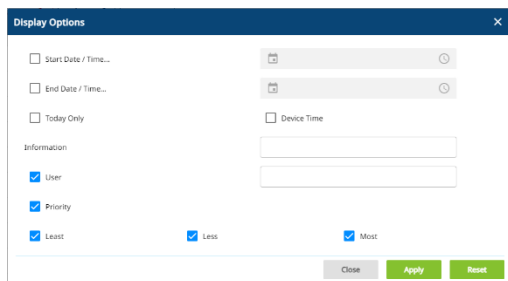
Time	Severity	User	Log Information
2023/11/05 13:37:22	Least	1	OP: User 1 (IP=10.3.66.66) logged out. Online time : 00:00H:00M:30S.
2023/11/05 13:36:56	Least	1	OP: User 1 gain full access privilege, and switch to 既設ID(既設ID: 二五五五七セブテール番
2023/11/05 13:36:52	Least	1	OP: User 1 logged in.
2023/11/05 13:36:52	Least	System	OP: User 1 (IP=10.3.66.66) attempting to login.
2023/11/05 13:36:52	Least	System	SYS: Access via remote client (IP=10.3.66.66).
2023/11/05 13:36:52	Least	System	SYS: Connected to 10.3.66.66 (34-42-88-78-CC-00).
2023/11/05 13:26:24	Least	1	EM: User 1 modified disclaimer setting.
2023/11/05 13:48:25	Least	1	EM: User 1 modified device information setting.
2023/11/05 15:48:18	Least	1	EM: User 1 modified device information setting.
2023/11/05 14:29:48	Least	System	SYS: User 1 end session of user lan.
2023/11/05 14:20:31	Least	System	OP: User lan from 10.3.66.84 (24-42-88-78-CC-00) attempting to login via browser.
2023/11/05 14:28:35	Least	1	LM: User 1 create account for user lan.

ログファイルは、最大1024件のイベントを記録します。記録されたイベントの数が最大まで保存されると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントが切り捨てられます。画面の下部にあるボタンの目的について、次の表で説明します。





ボタン	説明
一時停止	「一時停止」をクリックすると、新しいイベントの表示が停止します。表示が一時停止されると、ボタンは「再開」に変わります。「再開」をクリックすると、イベントの表示を再開します。
ログのクリア	ログファイルの内容を消去します。
ログのエクスポート	ログの内容をお使いのコンピューター上にファイルとして保存します。
フィルター	日付や特定の文字列などでイベントを検索します(次のセクションに記載)。

フィルター

この機能を使うと、表示されるログイベント情報を、発生時間、メッセージに含まれているキーワード、ユーザーネームなどの条件で絞り込むことができます。この機能にアクセスすると、ログフィルターのポップアップウィンドウが表示されます。



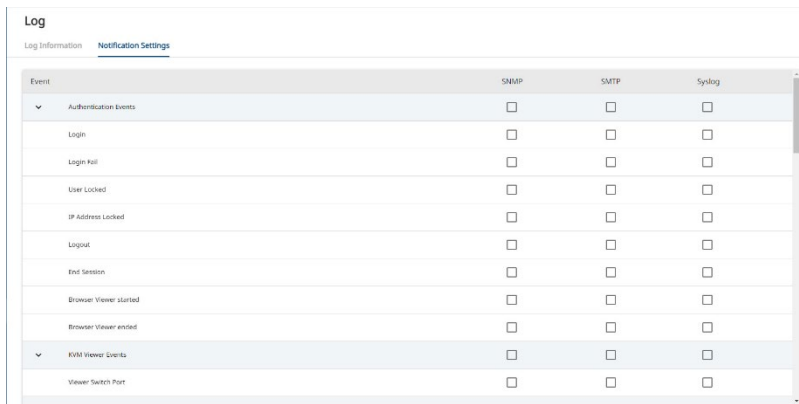
この画面に表示される各項目の内容は下表の通りです。

項目	説明
開始日時	特定の日時から現在までのイベントをフィルタリングします。 <ul style="list-style-type: none">◆ チェックボックスにチェックを入れます。◆  をクリックすると、フィルタリングを開始する日付を設定します。◆  をクリックすると、フィルタリングを開始する時刻を設定します。開始日時から現在までの全てのイベントが表示されます。
終了日時	特定の期間におけるイベントをフィルタリングします。最初に、開始日時(上記)を選択します。 <ul style="list-style-type: none">◆ チェックボックスにチェックを入れます。◆  をクリックすると、終了日を設定します。◆  をクリックすると、終了時刻を設定します。
本日のみ	本日のみ: 今日イベントだけが表示されます。
デバイス時間	本製品で設定された時間に従ってイベントを表示します。

項目	説明
情報	<p>特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードはテキストボックスに入力してください。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。例えば、h*ds はhand とhoods を返し、h?nd はhard とhand を返しますが、hard は返しません。h*ds またはh*k*s はhand とhook を返します。</p>
ユーザー	<p>特定のユーザーに関連するイベントを検索します。まず「ユーザー」ボックスにチェックを入れ、ユーザーネームを入力してから、「適用」を選択します。この文字列を含むユーザーネームに関連したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意:「フィルター」パネルで「ユーザー」チェックボックスがチェックされていない場合は、メインパネルに「ユーザー」列全体が表示されません。</p>
優先度	<p>イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。最小イベントは黒で表示され、最小イベントは青色で表示され、ほとんどのイベントは赤色で表示されます。</p> <p>まず、「優先順位」チェックボックスにチェックを入れます。次に、フィルタリングする重要度オプションをチェックします(複数の項目をチェックできます)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意:「フィルター」パネルで「ユーザー」チェックボックスがチェックされていない場合は、メインパネルに「ユーザー」列全体が表示されません。</p>
適用	<p>指定された条件で検索を行います。</p>
リセット	<p>検索条件をデフォルトの状態に戻します。</p>
終了	<p>このボタンをクリックすると、ログフィルター機能が終了します。</p>

通知設定

「通知設定」画面では、通知を発動するイベントと、通知の送信方法を決定できます。



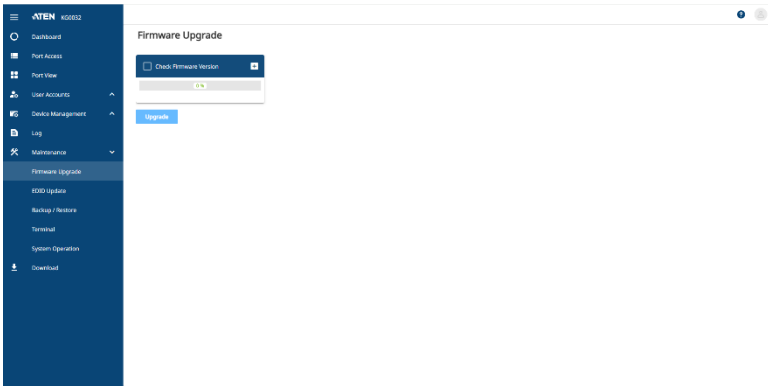
Event	SNMP	SMTP	Syslog
Authentication Events	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Login	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Login Fail	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
User Locked	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
IP Address Locked	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Logout	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
End Session	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Browser Viewer started	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Browser Viewer ended	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
KVM Viewer Events	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
Viewer Switch Port	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

通知は、SNMPトラップ、SMTPメール、SysLogファイルへの書き込み、またはこれら3つの任意の組み合わせを介して送信できます。チェックマーク(✓)は、列見出しで指定された方法に対してイベントの通知が有効になっていることを示し、空のボックスは通知が有効になっていないことを示します。

第11章 メンテナンス

概要

メンテナンス機能は、本製品のファームウェアアップグレード、設定情報やアカウント情報のバックアップとリストア、ターミナルコマンドの送信、ネットワークデバイスへのpingコマンド実行、およびデフォルト値のリストアに使用されます。

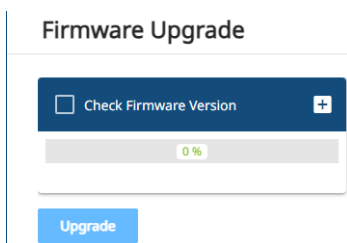



ファームウェアのアップグレード

新しいバージョンのファームウェアが利用可能になると、弊社のウェブサイトからダウンロードできます。弊社ウェブサイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)にて、最新のファームウェアや関連情報を定期的にご確認ください。

ファームウェアをアップグレードするには、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. 新しいファームウェアファイル(本製品)をコンピューターにダウンロードします。
2. 本製品にログインしたら、「メンテナンス」タブをクリックします。
そうすると、「メンテナンス」タブが開き、「ファームウェアのアップグレード」画面が表示されます。



3.  をクリックしたら、新しいファームウェアファイルがあるディレクトリーに移動し、ファイルを選択します。
4. 「アップグレード」をクリックし、アップグレードを実行してください。
 - ◆ 「ファームウェアバージョンを確認する」にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアのバージョンを比較します。2つのバージョンが同じか、本体のファームウェアの方が新しい場合、ポップアップメッセージで状況を通知し、アップグレードが中断されます。
 - ◆ 「ファームウェアバージョンを確認する」の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンの比較を行うことなくファームウェアのアップグレードを行います。
 - ◆ アップグレードの進行状況は、プログレスバーで確認することができます。
 - ◆ アップグレードが正常に完了すると、本製品が再起動します。

5. 本製品に再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されていることを確認してください。
-

注意:

- ◆ 「アップグレードの失敗」の状態から回復するには、p.174「ファームウェアアップグレードのリカバリー」を参照してください。
 - ◆ KVM アダプタはファームウェアを自動的にアップグレードします。本製品をシャットダウンしたり、KVM アダプタを取り外したりしないでください。
-

ファームウェアアップグレードのリカバリー

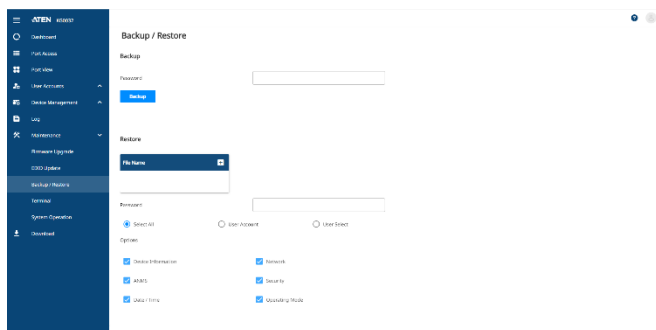
デバイスのメインファームウェアアップグレード手順が失敗し、デバイスが使用できなくなった場合、次のファームウェアアップグレード復旧手順で問題が解決されます。

1. デバイスの電源を切ってください。
2. リセットボタンを押したままにします (p.11「リセットボタン」参照)。
3. リセットボタンを押したまま、デバイスの電源を入れます。

これにより、デバイスは工場製造時に使用した元のメインファームウェアバージョンを使用します。本製品が動作可能になったら、ウェブブラウザを介して本製品にログオンすることで、メインファームウェアのアップグレードを再試行できます (p.173「ファームウェアのアップグレード」参照)。

バックアップ/リストア

「バックアップ/リストア」メニュー項目を選択すると、本製品の設定とユーザープロフィール情報をバックアップできます。



バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「パスワード」の項目に、ファイルの復元に必要となるパスワードを入力してください。


注意:

1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしで復元されます。
2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように別途記録しておいてください。

2. 「バックアップ」をクリックしてください。
3. ブラウザーからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「ディスクに保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適切な場所に保存してください。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

1.  をクリックし、バックアップファイルが保存されるフォルダーを選択してください。
-

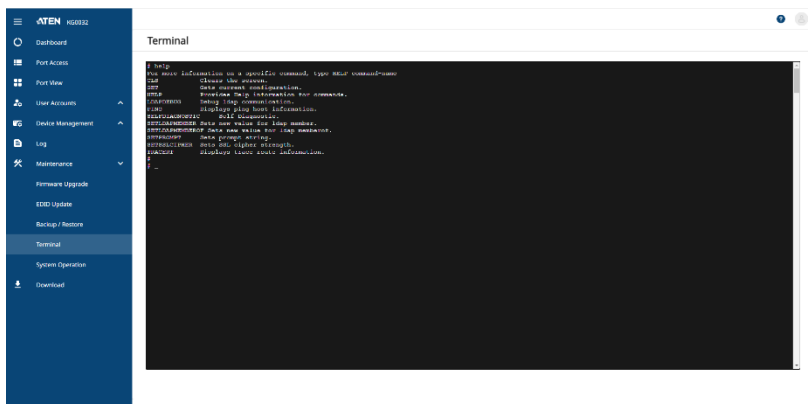
注意:

デフォルト設定のファイル名を変更しても、新しい名前そのままお使いいただけます。元の名前に変更する必要はありません。

2. バックアップファイル作成時にパスワードを設定している場合は、そのパスワードと同じ文字列を「パスワード」欄に入力してください。
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください(複数選択可)。
4. 「リストア」をクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

ターミナル

ターミナルには、ターミナルインターフェースを使用してオプションを実行するためのコマンドラインがあります。ウィンドウにコマンドを入力し、[Enter]を押して実行します。

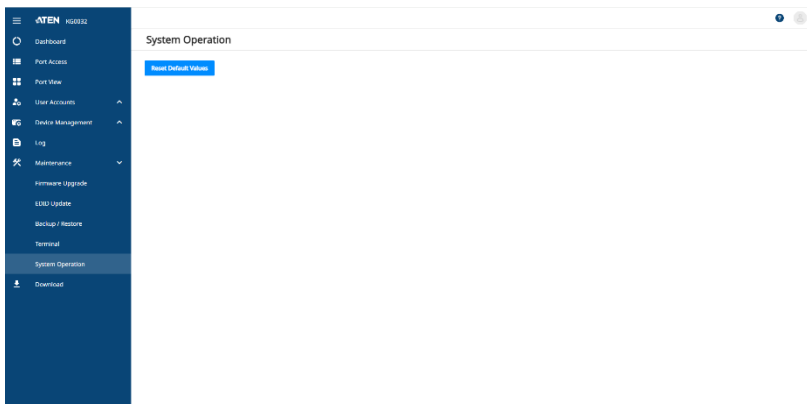


使用可能なコマンドは以下の通りです。

- ◆ CLS => 画面を消去します。
- ◆ GET => 現在の設定を取得します。
- ◆ HELP => コマンドのヘルプ情報を提供します。
- ◆ LDAPDEBUG => LDAP通信のデバッグを行います。
- ◆ PING => pingホスト情報を表示します。
- ◆ SELFDIAGNOSTIC => 自己診断を実行します。
- ◆ SETLDAPMEMBER => LDAPメンバーに新しい値を設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBEROF => LDAP memberOfの新しい値を設定します。
- ◆ SETPROMPT => プロンプト文字列を設定します。
- ◆ SETSSLCIPHER => SSL暗号強度を設定します。
- ◆ TRACERT => トレースルート情報を表示します。

システム操作

「システム操作」画面では、本製品に対して行われた特定の設定変更を元の工場出荷時のデフォルト値に戻すことができます。



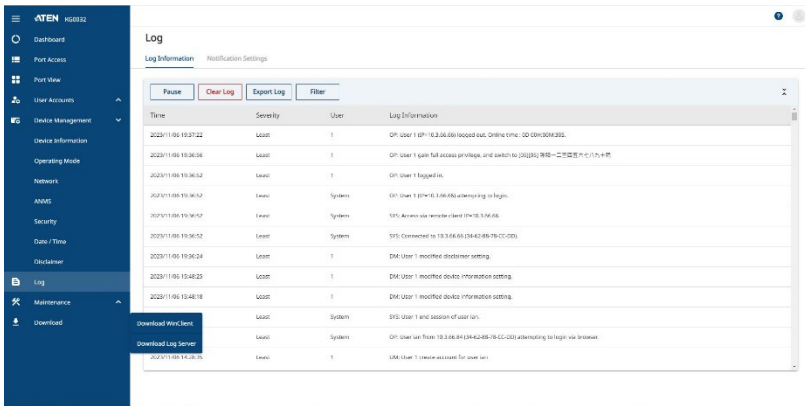
デフォルト値の復元

このボタンをクリックすると、本製品の「カスタマイズ」で行われた全ての変更（ポート名を除く）と（「ネットワーク」画面における）ネットワーク転送速度が取り消され、パラメーターが工場出荷時の初期設定に戻ります。

第12章 ダウンロード

概要

「ダウンロード」は、スタンドアロンAP版のWindowsClientおよびログサーバーのダウンロードができます。



ダウンロードしたいプログラムをクリックし、リモート端末のハードディスク上に保存し、そこから実行してください。

第13章

ログサーバー

Windowsベースのログサーバーは、本製品で検知したイベントを外部ストレージとして記録するための、簡易ロギングアプリです。この章では、ログサーバーのインストール方法と設定方法について説明します。

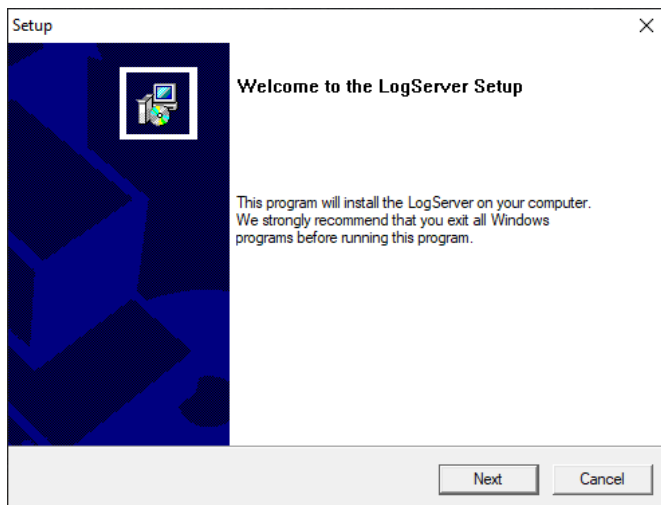
セットアップ

1. 本製品にログインします(p.28参照)。
2. 「ダウンロード」タブを選択し、ログサーバーAPプログラムをダウンロードします。
3. ログサーバープログラムをダウンロードしたハードディスク上の場所に移動し、そのアイコン(LogSetup.exe)をダブルクリックしてセットアップ画面を表示します。

注意:

ブラウザでファイルを実行できない場合は、代わりにディスクに保存し、ディスクからファイルを実行します。

ログサーバーのインストール画面が表示されます。



4. 「次へ」をクリックしてください。画面の指示に従ってセットアップを完了し、デスクトップにログサーバープログラムアイコンを配置します。

起動

ログサーバーを起動するには、ダウンロードしたアプリをダブルクリックします。プログラムの初回起動時には、次のような画面が表示されます。



注意:

1. ログサーバーとして使用するコンピューターのMACアドレスは、KVM本体のANMS設定で指定する必要があります。詳細については、p.143「ログサーバー」を参照してください。
 2. ログサーバーを起動するには旧OS環境で起動する場合、Microsoft Jet OLEDB 4.0ドライバーが必要になることがあります。
-

画面は3つのコンポーネントに分かれています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央に本製品の一覧が表示されます(p.189「ログサーバーのメイン画面」参照)。
- ◆ 下部のイベントリストパネル

各コンポーネントについては、以降のセクションで説明します。

メニューバー

アプリのメニューバーには4つの項目があります。

- ◆ 設定
- ◆ イベント
- ◆ オプション
- ◆ ヘルプ

これらについては、以降のセクションで説明します。

注意:

メニューバーが無効になっている場合は、リストウィンドウをクリックして有効にします。

設定

「設定」メニューには、「追加」、「編集」、「削除」の3つの項目があります。リストに新しいログを受信したいKVM本体の追加・登録編集・削除するために使用します。

- ◆ ログ受信したいKVM本体を追加するには、「**追加**」をクリックします。
- ◆ 登録済のKVM情報を編集するには、まずリストウィンドウでターゲットを選択してから、このメニューを開き、「**編集**」をクリックします。削除するときも同様に、対象をクリックして選択し、このメニューを開いてから「**削除**」をクリックします。

「追加」または「編集」を選択すると、以下のようなポップアップウィンドウが表示されます。

以下の表で各欄の説明を示します。

項目	説明
アドレス	ログ出力するKVM本体のIPアドレス、またはそのDNS名のいずれかを入力します。
ポート	KVM本体の設定「デバイス管理」で指定したポート番号です (p.143「ログサーバー」を参照)。
説明	この項目は、ユニットを識別するのに役立つ説明を入力できるように提供されたものです。
期限	これは、イベントをログサーバーのデータベースに保存する日数を指定します。ここで指定した時間を超えるイベントは、メンテナンス機能で削除できます (p.187「メンテナンス」参照)。
次の頻度で、あるいは保存先に対して自動エクスポートを有効にする	ボックスにチェックを入れて、システムがログファイルを自動でファイル形式でエクスポートする日数を入力します。「参照」をクリックすると、ログファイルのエクスポート先のフォルダを選択します。

項目への入力や変更が完了したら、「OK」をクリックしてください。

Event

「Event」メニューは「検索」と「メンテナンス」の2つのサブメニューから構成されています。

検索:

「検索」メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索することができます。この機能にアクセスすると、次のような画面が表示されます。

Search Dialog

Search Options

- New search
- Search last results
- Search excluding last results

Server List

Priority List

- Least
- Less
- Most

Start date: Start time: End date: End time: Pattern:

11/ 7/2023 10:19:07 AM 11/ 8/2023 10:19:07 AM

Result:

Search Print Export Exit

以下の表に各項目の説明を示します。

項目	説明
新規検索	左上3つのラジオボタンのうちの上の項目です。これを選択すると、選択したサーバーのデータベース内の全てのイベントで検索が実行されます。
前回の結果から検索	これは、前回の検索の結果として発生したイベントに対して実行される二次検索です。
前回の結果以外から検索	これは、選択したユニットのデータベース内の全てのイベントで実行されるセカンダリ検索です。ただし、前回の検索の結果のイベントは除きます。

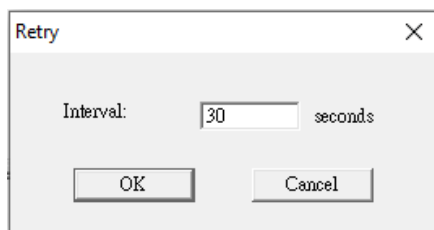
項目	説明
サーバーリスト	登録済みのサーバーがIPアドレスに従って表示されます。検索対象のサーバーをリストから選択してください。複を検索対象として選択できます。ユニットが選択されていない場合は、全てのユニットに対して検索が実行されます。
優先度	ログの重要度を設定します。「Least」を選択すると優先度の低いメッセージを、「Most」を選択する重要度の高いメッセージを表示します。またレベルが「Least」の検索結果は黒色で、「Less」の結果は青色で、「Most」の結果は赤色でそれぞれ表示されます。
開始日	検索範囲の開始日を選択します。「YYYY/MM/DD」の形式で入力してください。 例・2023/11/04
開始時刻	検索範囲の開始時刻を選択します。形式は、「HH:MM:SS」の規則に従います。
終了日	検索範囲の終了日を選択します。
終了時刻	検索範囲の終了時刻を選択します。
パターン	特定のメッセージ検索を行う場合は文字列を入力してください。任意の文字列を表すワイルドカード(%)を使用することができます。例:h*sという検索条件では、「hands」と「hoods」という文字列にヒットします。
結果	検索条件に一致したイベントが一覧表示されます。
検索	このボタンをクリックすると検索が開始します。
印刷	このボタンをクリックすると検索結果を印刷します。
エクスポート	このボタンをクリックすると、検索結果をテキストファイルに保存します。
終了	このボタンをクリックすると、検索機能を終了します。

メンテナンス:

この機能により、アドミニストレーターは、指定されたレコードを有効期限の前に消去するなど、データベースの手動メンテナンスを実行できます。

オプション

「ネットワーク再試行(Network retry)」では、KVM本体との通信が失敗した場合にリトライまでの待機秒数を設定できます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



待機秒数を入力したら「OK」をクリックし、操作を完了してください。

ヘルプ

オンラインのWindowsヘルプファイルにアクセスするには、このメニューからコンテンツをクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ・操作・トラブルシューティングの方法に関する手順が記載されています。

ログサーバーのメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は大まかに次の2つのパネルから構成されています。

- ◆ 上部(リスト)には、ログサーバーで登録済みのKVM本体が一覧表示されます(p.184「設定」を参照)。
- ◆ 下部の(イベント)パネルには、上のリストでチェックで選択されているユニットの情報が表示されます。(複数のユニットがある場合は、選択したユニットが強調表示されます)。
- ◆ リスト内のユニットを選択するには、そのユニットをクリックします。

リストパネル

リストパネルには6つの項目があります。

項目	説明
ID/状態	登録しているKVM本体にID番号を付与します。チェックボックスは外すと記録を止めます。「ID」ボックスにチェックを入れると、「状態」欄に「記録中」と表示され、チェックマークが付きます。「ID」ボックスがチェックされていない場合、「状態」欄に「一時停止」と表示され、チェックマークが外れます。 注意: ボックスにチェックを入れている間は常時、ログサーバーは記録します。チェックを外している間の記録は後でチェックを入れても外している間のログは取得されません。
アドレス	これは、ログサーバーに追加されたときにユニットに与えられたIPアドレスまたはDNS名です(p.184「設定」参照)。
ポート	ログデータを取得するアクセスポート番号です。初期設定は9001番ポートです。(p.184「設定」)。
接続	◆ ログサーバーがユニットに接続されている場合は、この欄に「接続済み」と表示されます。 ◆ ログサーバーが接続されていない場合、この欄には「待機中」と表示されます。これはログサーバーで登録したMACアドレスが正しく設定されていないことを表しています。「日付/時刻」画面(p.163参照)で設定する必要があります。
日数	ログサーバーのデータベースに保存されてから期限切れになるまでの日数が表示されます(p.184「設定」参照)。
説明	設定で記載した情報が表示されます(p.184「設定」参照)。

イベントパネル

下部パネルには、現在選択されているユニットのログイベントが表示されます。現在選択されていないユニットが複数ある場合でも、「記録」ボックスにチェックが入っていると、ログサーバーはそのログイベントを記録し、データベースに保持します。また記録を開始すると、記録開始以降のログのみ記録します。

安全にお使いいただくために

全般

- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ また、弊社ウェブサイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブルなど)を避けるようにしてください。装置が落下すると、深刻な損傷が生じます。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱するおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電気回路が過負荷状態に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源装置の制限を把握し、これを超えないようにしてください。回路の電気仕様を常に見直して、危険な条件を生じさせていないか、また、すでに危険な条件がそろっていないかを確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホ

コリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。お手入れには、湿らせて固く絞った布を使用してください。

- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ お使いの装置への損傷を避けるために、全ての装置を適切に接地するようにしてください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。これは安全性を考慮した仕様です。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせで適切に処置してください。
- ◆ アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。電源コンセントにつながれている製品全ての合計アンペア数は15アンペアを超えないようにしてください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。
- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
- ◆ 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
- ◆ パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
- ◆ お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサ

プラグから全ての電源ケーブルを抜いて、お使いのシステムから切り離してください。

- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットの空きスロットなどに押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。全ての保守については、適格な保守担当者に問い合わせてください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントからはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。
- ◆ 機器を積み重ねて設置する場合は、機器を安定して設置するために、状況に応じて安全保護対策を追加する必要があります(例:ラックに固定する、フレームにネジ止める、その他同様の方法で固定するなど)。
- ◆ Cat 5e/6ケーブルは、電気ケーブル、変圧器、照明器具といった電波障害の発生源となりうる物から、できるだけ遠ざけて配線するようにしてください。また、これらのケーブルは、電線用導管に接続したり、電灯設備の上に置いたりしないようにしてください。

ラックへのマウント

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押しながらデバイスをスライドさせてラックに出し入れする際にはスライドレールに指を挟まないようにご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、慎重にレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給するAC電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックにマウントされたデバイスは、電源タップも含め、全て正しく接地されていることを確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ 本製品で定められている保管温度を超えないように、ラックが設置されている場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

仕様

KG0016 / KG0032

機能		KG0016	KG0032
コンソール接続	ローカル	N/A	N/A
	リモート	16	32
コンピューター 接続数	ダイレクト	16	32
ポート選択		GUI	
コネクター	USBポート	USB Type-A メス×2 (将来の拡張用に予約済み)	
	KVMポート	RJ-45 メス×16	RJ-45 メス×32
	SFP+アップリンク ポート	SFPスロット×2	
	シリアル	RJ-45 メス×2(将来の拡張用に予約済み)	
	電源	IEC 60320/C14×2	
	入力	2ピンDI×2(将来の拡張用に予約済み)	
	リレー	3ピンリレー×2(将来の拡張用に予約済み)	
スイッチ	リセット	ピンホール型スイッチ×1	
	電源	ロッカースイッチ×2	
LED	KVMポート	16 (Green)	32 (Green)
	電源	2 (Green)	
パネル仕様	サイズ	1.6インチ	
	解像度	128×64	
プッシュボタン	選択	プッシュボタン×3 (Up、Down、Enter)	
エミュレーション	キーボード/マウス	USB	
ビデオ	リモート	1920×1200 @ 60Hz	
電源仕様		100～240 V～、最大 2.5A、50～60 Hz	

機能		KG0016	KG0032
消費電力		AC110V:34.1W: 117BTU AC220V:34.6W: 118BTU	AC110V:46.8W: 160BTU AC220V:46.9W: 160BTU
動作環境	動作温度	0~40°C	
	保管温度	-20~60°C	
	湿度	0~80%RH、結露なきこと	
ケース	ケース材料	メタル	
	重量	6.43kg	6.53kg
	サイズ(W×D×H)	43.36×37.90×4.40 cm	

トラブルシューティング

操作全般

問題	解決策
「ローカル」と「リモート」という用語が、どのデバイスを指しているのか混乱する。	KVM本体は「ローカル」、リモートアクセス端末は「リモート」という組み合わせです。 詳細については、p.xiv「用語」を参照してください。
動作が不安定である。	リセットスイッチで再起動し、安定するかお試しください(p.11「リセットボタン」参照)。
アカウントを作成したものの、ログインできない。	1. ユーザーネームとパスワードが正しく指定されていることを確認してください。 2. 各ポートへアクセスするために必要な権限が管理者から付与されていることを確認してください。
IPアドレスやポート番号を正しく指定しても、自宅から会社の機器にアクセスすることができない。	本製品にはポートフォワーディング機能がありません。LAN外部からアクセスする場合は別途ルーターを用意し、ルーターのポートフォワーディング機能を使用してください。 ルーターのメーカーによって設定方法が異なる場合があるため、詳細な設定手順については、各ルーターのマニュアルを参照してください。
ブラウザからログインすると、「404 Object Not Found」というメッセージが表示される。	ログイン文字列が設定されている場合は、のIPアドレスを指定するときに、スラッシュと正しいログイン文字列を含めるようにしてください。(p.155「ログイン文字列」参照)
ネットワーク接続が突然失われる。	いったんリモート接続を終了し、約30秒待ってから再度ログインしてください。
クライアントコンピューターにリモートサーバーのビデオ出力が表示されない。	KVM アダプタのファームウェアバージョンが、KVM本体のファームウェアに保存されているバージョンに対応しているか確認します。 リモートサーバーの解像度を1280×1024以下に設定して表示できるかお試しください。

問題	解決策
<p>コンピューターの表示が歪んでいる。</p>	<p>ポートを別の解像度のポートに切り替えてから、戻し、一時的な事象が確認してください。</p> <p>切り替えても表示が歪む場合は、そのポートの解像度とリフレッシュレートを一度1024x768@60Hzか1920x1080@60Hzへ変更します。その後は、解像度やリフレッシュレートを変更し表示できる数値へ調整してください。</p>
<p>コントロールパネルのロックキーLEDは、キーボード入力の実際のロック状態を正確に反映していない。</p>	<p>初回接続時には、LED表示にキーボードのLEDが正確に反映されない場合があります。問題を解決するには、コントロールパネルのLEDをキーボードと一致するまでクリックします。その後、キーボードから変更すると、コントロールパネルで変更されます。</p>
<p>ログインすると、ブラウザからCAルート証明書が信頼できないという内容のメッセージが表示されたり、証明書エラーの応答が返ってきたりする。</p>	<p>これは証明書の名前がMicrosoftの信頼された認証局のリストに存在しないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、受け入れても問題ありません。詳細については、「信頼された証明書」(p.217参照)を参照してください。</p>
<p>複数ユーザーが操作をしている時、排他的(または占有)な権限を持っていた時にメニュー画面を表示し、ツリーリストをクリックして元のポートに戻ると、別のユーザーに権限を取得されてしまった。なぜ、そうなったのか。</p>	<p>左のツリー表示から選択すると、それまで接続していたポートとのセッションが切断させ取得していた権限が解放されます。そこに別のユーザーがポートで待機していた場合は、そのユーザーが優先され権限を取得します。メニュー画面から権限を解放させずにポートに戻る正しい方法は、「ポートアクセス」画面の右上にある「閉じる」アイコンをクリックしてください。</p>
<p>IPインストーラーのデバイスリストに、ATEN over IPのユニットが一覧表示されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動検出が正しく機能するためには、ルーターからブロードキャスト機能が有効になっていることを確認してください。 ◆ 自動検出が正常に機能するように、ファイアウォールやウイルス対策ソフトウェアを一時的に無効にしてください。 ◆ ATEN over IPユニットとPCが同じネットワーク・セグメントにあることを確認してください。

マウスの問題

問題	解決策
マウスまたはキーボードが応答しない。	<p>KVM アダプタのファームウェアバージョンが、本体が対応するバージョンか確認してください。もし異なる場合はファームウェアアップグレードを再度実行してください。</p> <p>KVMアダプタのUSBコネクタがゆるんでいないか、埃などが入っていない抜き差しして確認してください。</p>
マウスの動作が極端に遅い。	映像データ量が多いため、PCが処理に追いつかないことが考えられます。送信するビデオデータが少なくなるように、ビデオ品質を下げます (p.53「ビデオ設定」参照)。
リモートサーバーにアクセスした後、2つのマウスポインターがある。	別のポインタータイプを選択できます。詳細については、p.60「マウスポインターの種類」を参照してください。
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできません。	コントロールパネルを呼び出し、すぐにポインターをデュアルモードに変更します。
デュアルポインターモードがあるのはなぜか？	ターゲットサーバーのカーソルとリモート端末のカーソルを識別するためです。ネットラグが原因で、リモートサーバーのポインターが、クライアントコンピューターのポインターの位置にないことを確認することができます。
マウスポインターの表示で混乱する。	2つのマウスポインター(ローカルポインターとリモートポインター)の表示が分かりにくい場合は、マウス表示の切替機能を使用して、機能していないポインターを縮小できます。p.65「マウス表示の切替」、およびp.60「マウスポインターの種類」を参照してください。

問題	解決策
Windowsシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. マウスダイナシクモードの設定状況を確認します(p.58参照)。「自動」に設定されている場合は、設定を「手動」に変更し、p.91「手動設定によるマウス同期」の情報を参照してください。 2. 手動モードの場合は、自動同期機能(p.53「ビデオ設定」参照)を使用して、ローカルモニターとリモートモニターを同期します。 3. それでも解決しない場合は、p.65「マウスの調整」機能を使用して、手順でポインターを元に戻します。 4. 上記の手順で問題が解決しない場合は、追加のマウス同期手順(p.213)を参照して、実行する手順を確認してください。
Macシステムにログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	<p>マウスダイナシクの自動設定には、デフォルトとMac2の2つがあります。マウスの同期がデフォルトで満足できない場合は、Mac2の設定を試してください。詳細については、p.90を参照してください。</p>
Sunシステムでログインしたときに、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	<p>自動マウス同期は、WindowsおよびMac(G4以上)システムのUSBマウスのみをサポートします。ポインターは手動で同期する必要があります。詳細については、マウスダイナシクモード(p.58参照)と手動によるマウス同期(p.91参照)を参照してください。</p> <p>上記の手順を実行した後、p.213「その他のマウス同期方法」にあるp.215「Sun/Linux」の実行手順を参照してください。</p>

問題	解決策
<p>Linuxシステムでログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。</p>	<p>自動マウス同期は、WindowsおよびMac(G4以上)システムのUSBマウスのみをサポートします。ポインターは手動で同期する必要があります。マウスダイナミックモード(p.58参照)と手動によるマウス同期(p.91参照)を参照してください。</p> <p>詳しくは、p.90「MacとLinuxに関する考慮事項」を参照してください。</p> <p>上記の手順を実行した後、p.213「その他のマウス同期方法」にあるp.215「Sun/Linux」の実行手順を参照してください。</p>

バーチャルメディア

問題	解決策
バーチャルメディアが動作しない。	接続先のサーバーにUSBストレージデバイスの接続を許可しているかご確認ください。またサーバーの新しいBIOSバージョンがある場合、更新して改善するかお試しください。
コントロールパネルにバーチャルメディアアイコンがない。	KVM本体にログインするアカウントに利用権限とポートごとの利用許可がされているご確認ください。
バーチャルメディアドライブからリモートサーバーを起動できない。	リモートサーバーのBIOSはUSBドライブからの起動をサポートしていません。メーカーからメインボードの最新のファームウェアとBIOSバージョン入手し、メインボードBIOSをアップグレードします。
USBフロッピードライブをリモートサーバーに接続すると、リモートサーバーを起動できるが、これをバーチャルメディアドライブとしてリモートサーバーにマッピングすると、リモートサーバーを起動できない。	USBフロッピードライブには、EFIとCBIの2種類のフォーマットがあります。どちらもOS起動後のバーチャルメディア機能に使用できますが、現在はBIOSレベル(ブートなど)の機能で動作サポートされているのはEFIバージョンのみです。
フォルダーをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	マウントしたフォルダがあるストレージがFAT16ファイルシステムでフォーマットされている場合、そのサイズが2GBを超えるとマウントできません。

ウェブブラウザ

問題	解決策
<p>ファームウェアのアップグレード後、ウェブブラウザでログインすると、は古いファームウェアバージョンを使用しているように見える。</p>	<p>デバイスは新しいファームウェアバージョンを使用していますが、ブラウザにキャッシュに保存されているページが表示されています。ログアウトし、ブラウザのキャッシュをクリアするだけです。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ IE:「ツール」>「インターネットオプション」>「インターネット一時ファイル」>「ファイルの削除」◆ Firefox:「ツール」>「プライベートデータの消去」

WinClient AP

問題	解決策
WinClient AP プログラムを起動しても、サーバーリスト画面にのユニットが表示されない。	プログラム(p.138参照)の「ポート」の入力内容が、「デバイス管理」の「ネットワーク」画面で「プログラム」に指定した入力内容と一致することを確認してください。
WinClient APがに接続できない。	クライアントコンピューターにDirectX8.0以上がインストールされている必要があります。Windows10以降は、クリーンインストールにて動作できることを確認しています。
「ログイン失敗」エラーが表示され、WindowsClientビューアを実行できない。	<ol style="list-style-type: none">1. が最新のファームウェアバージョンに更新されていることを確認します。2. ファイアウォールで80、443、9000などの必要なサービスポートが許可されていることを確認します。詳細については、p.138「サービスポート」を参照してください。3. ビューアを閉じて、再試行してください。
ファームウェアのアップグレード後、WinClient APが実行されない。	古いバージョンの.ocxファイルが削除されていないため古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには次の方法があります。 WinClientAPの場合：エクスプローラーを開き、WinClient.ocxを検索します。全てのアイテムを削除します。

Sunシステム

問題	解決策
HDB15インターフェースシステム (Sun Blade1000サーバーなど)でのビデオ表示の問題が発生する。*	Sunシステムにてディスプレイの解像度は1024×768@60Hzに設定してください。 テキストモードの場合: OKモードに移行し、次のコマンドを発行します。 setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all XWindowの場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。 m64config -res 1024x768x60 2. ログアウトしてください。 3. ログインしてください。
13W3インターフェースシステム (Sun Ultraサーバーなど)でのビデオ表示の問題が発生する。*	ディスプレイの解像度は1024×768@60Hzに設定してください。 テキストモードの場合: OKモードに移行し、次のコマンドを発行します: setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all XWindowの場合: 1. コンソールを開き、以下のコマンドを実行してください。 fbconfig -res 1024x768x60 2. ログアウトします。 3. ログインします。

* Sun VGAカードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決することが可能です。問題が解決しない場合は、Sun VGAカードのマニュアルを参照してください。

Macシステム

問題	解決策
Safariブラウザを使用してログインすると、スナップショット機能の使用時にハングする。	Safariを強制終了した後で、再起動してください。スナップショット機能は今後使用しないようにしてください。 Safariでスナップショット機能を使用するには、Mac OSは10.4.11に、Safariは3.0.4にそれぞれアップグレードしてください。

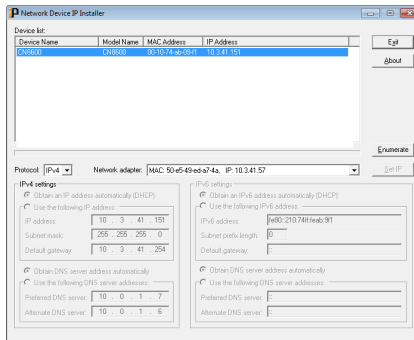
IPアドレスの設定

管理者が初めてKVM本体にリモート端末からログインし、ユーザが接続できるよう KVM本体のIP アドレスを変更する場合、以下の2つから変更できます。いずれの場合も、リモート端末はKVM本体と同じネットワークセグメント上にある必要があります。(p.137「ネットワーク」参照)

IPインストーラー

リモート端末がWindowsの場合は、IPインストーラーというツールを使用してIPアドレスを設定できます。IPインストーラーは弊社ウェブサイトのダウンロードページからダウンロードすることができます。「ドライバー/ソフトウェア」で、のモデルを確認します。IPインストーラーをお使いのコンピューターにダウンロードしたら、以下の手順に従ってIPアドレスを設定してください。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適当なフォルダーに解凍してください。
2. 手順1でIPインストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IPインストーラーの実行ファイル(IPInstaller.exe)を起動してください。
以下のようなダイアログボックスが表示されます。



3. デバイスリストから任意のKVM本体を選択します。

注意:

1. リストに何も表示されない、また、対象となるユニットが表示されない場合は、「**一覧表示(Enumerate)**」をクリックして、デバイスリストを更新してください。
2. NICやwifiを同時に使用している場合は下の「ネットワークアダプター」からKVMと接続しているアダプターを選択します。

-
4. ドロップダウンメニューを使用して**プロトコル**(IPv4またはIPv6)を選択し、以下のIP設定を行います。
 5. 「IPアドレスを自動的に取得する(DHCP)」または「次のIPアドレスを使用する」を選択します。後者の場合は、「IPアドレス」、「サブネットマスク」、「デフォルトゲートウェイ」の各項目に情報を入力します。
 6. 「DNSサーバーアドレスを自動的に取得する」または「次のDNSサーバーアドレスを使用する」のいずれかを選択します。後者を選択した場合は、それぞれに適したIPアドレスを入力します。
 7. 「**IPを設定**」をクリックしてください。
 8. IPアドレスが「デバイス一覧」に表示されたら、「**終了**」をクリックしてください。IPインストーラーについての詳細はp.137を参照してください。

ブラウザー

1. リモート端末のIPアドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください。
ここで、XXX は、60以外の任意の数値を表します(192.168.0.60 は、のデフォルトアドレスです)。
2. ブラウザーでKVM本体のデフォルトIPアドレス(192.168.0.60)を指定すると、接続できるようになります。
3. 固定IPアドレスを割り当ててください。
4. (オプション)IPアドレスを変更しKVMが再起動したら、手順1で設定したIPアドレスを元の値に戻します。

現在、は、リンクローカルIPv6 アドレス、IPv6ステートレス自動設定、ステートフル自動設定(DHCPv6) の3つのIPv6アドレスプロトコルをサポートしています。

ステートレス自動設定

KVM 本体のネットワーク環境に、IPv6ステートレス自動設定機能をサポートするデバイス(ルータなど)がある場合、KVM over IP OmniBus ゲートウェイは、そのデバイスからプレフィックス情報を取得して、IPv6アドレスを生成できます。

(例: 2001::74ff:fe6e:59)。

上記のアドレスは「デバイス管理」→「デバイス情報」メニューの「全般」リスト(p.133参照)に表示されます。

IPv6アドレスの内容が確定すると、ブラウザやWindowsの各クライアントソフトウェアからログインする際にこのアドレスを使うことができます。

次に例を示します。

ブラウザからログインする場合には、URLバーにアドレスを次のように入力してください。http://[2001::74ff:fe6e:59]

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「サーバー」パネルの「IP」欄(p.31参照)にアドレスを次のように入力します。

2001::74ff:fe6e: 59

ポートの転送









ルーターがLAN内で利用されているは、ポート転送によって、ルーターが外部からのデータを特定のデバイスに渡すことができます。ポート転送パラメータを設定することで、特定のポートから入ってきたデータをどのデバイスに送るかをルーターに指示します。外部からのアクセスを設定するには本製品ではなく、ルーターや他のネットワーク機器の設定となります。

ルーターの設定方法は、各メーカー製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細についてはお使いのルーターのメーカー様へお問い合わせください。

キーボードエミュレーション

Macキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、Macキーボードの機能をエミュレートできます。エミュレーションマッピングは下表の通りです。



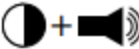



PC用キーボード	Macキーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意:

キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

Sunキーボード

PC互換(101/104キー)キーボードは、[Ctrl]キーを他のキーと組み合わせて使用すると、Sunキーボードの機能をエミュレートできます。対応する機能を下表に示します。

PC用キーボード	Sunキーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	Meta

注意:

キーの組み合わせを使用する場合は、最初のキー(Ctrl)を押して指を離し、次にアクティベーションキーを押して指を離してください。

その他のマウス同期方法

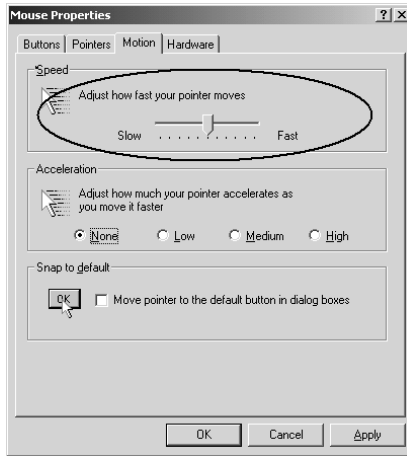
手動設定によるマウス同期を使用する場合は、機器に接続するサーバーで次の操作を実行する必要があります。

注意:

1. これらの手順は、KVMアダプタが接続されているサーバーで実行する必要があります。リモートアクセス端末の本体の設定を変更しても問題は解決しません。
 2. ローカルマウスとリモートマウスを同期するには、Windowsオペレーティング・システム標準の汎用HIDドライバーを使用する必要があります。サードパーティー製のドライバー(例:マウスの製造元から提供されたドライバーなど)を使用している場合は、そのドライバーを削除してください。
-

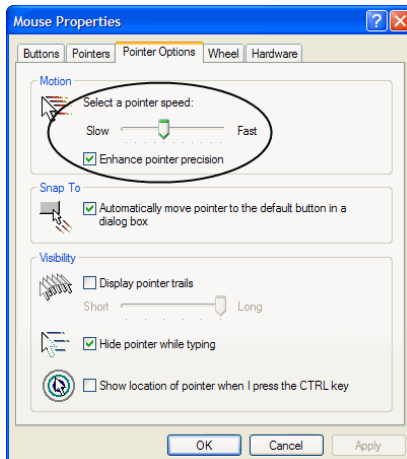
Windows:

1. Windows 2000:
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示してください([コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ])。
 - b) 「動作」タブをクリックしてください。
 - c) マウス速度を中央位置(左から6目盛り)に設定します。
 - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP / Windows Server 2003:

- a) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスを表示してください([コントロールパネル]→[マウス])。
- b) 「マウスのプロパティ」ダイアログボックスから、「ポインターオプション」タブをクリックしてください。
- c) マウス速度を中央位置(左から6目盛り)に設定します。
- d) 「ポインターの精度を高める」の項目からチェックを外して、この機能を無効にしてください。



3. Windows ME:

マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください
(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックしてください)。

4. Windows NT/Windows98/Windows95: マウスの速度を最も低い設定にしてください。

Sun / Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sunの場合: `xset m 1`

Linuxの場合: `xset m 0`

または

`xset m 1`

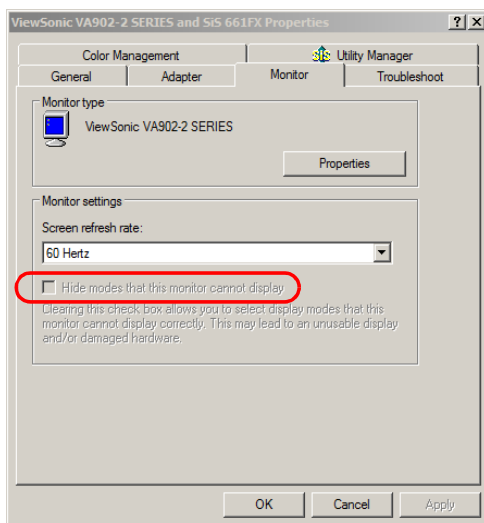
(一方がうまくいかない場合は、もう一方を試してみてください。)

Redhat AS3.0マウスモードを使用したLinuxの場合: `xset m 1`

その他のビデオ解像度の設定

ターゲットサーバーの画面表示で、別のリフレッシュレートをを使用したい場合は、次の手順に従って操作を行ってください。

1. 「コントロールパネル」>「ディスプレイ」>「設定」>「詳細設定」>「モニター」を開きます。
2. 表示されるダイアログボックスで、このモニターが表示できない「非表示」モードのボックスにチェックが入っていないことを確認します。



3. 画面リフレッシュレートリストボックスの右側にある矢印ボタンをクリックし、表示されるリストから目的のリフレッシュレートを選択します。

注意:

選択したリフレッシュレートがお使いのモニターでサポートされていることを確認してください。サポートされていない場合、モニターに重大な損傷を与えることがあります。

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由でデバイスにログインすると、以下のような「セキュリティの警告」ダイアログが表示され、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



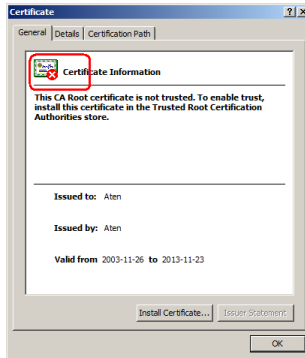
証明書は信頼できますが、証明書の名前が信頼できる認証局のMicrosoft リストに見つからないため、警告が通知されます。これに対応するには、次の2つの方法があります。1)警告を無視して「はい」をクリックし、操作を続行する。または 2) 証明書をインストールし、信頼できるものとして認識させる。

- ◆ 別の場所にあるクライアントコンピューターで作業している場合は、「はい」をクリックして、このセッションの証明書のみを受け入れます。
- ◆ 自分のクライアントコンピューターで作業している場合は、クライアントコンピューターに証明書をインストールします(詳細は以下を参照)。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。

証明書のインストール

証明書のインストールは下記の手順に従ってください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」をクリックしてください。「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意:

証明書の上に赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書が信頼できないと認識されていることを表しています。

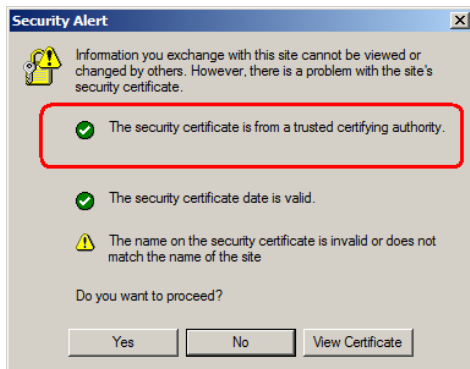
2. 「証明書のインストール」をクリックしてください。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めてください。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールしてください。
4. ウィザードに注意画面が表示されたら、「はい」をクリックします。



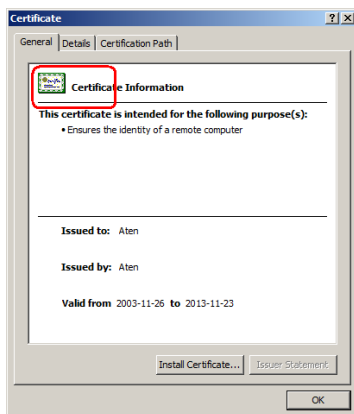
5. 「完了」をクリックしてセットアップを完了し、「OK」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

証明書のインストール完了

証明書は信頼できるものに変更されました。

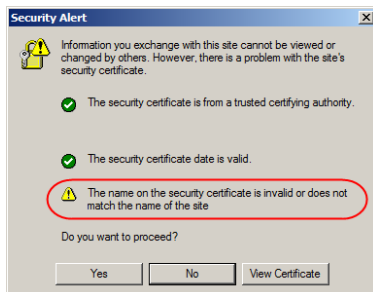


「証明書の表示」ボタンをクリックすると、赤と白色の「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



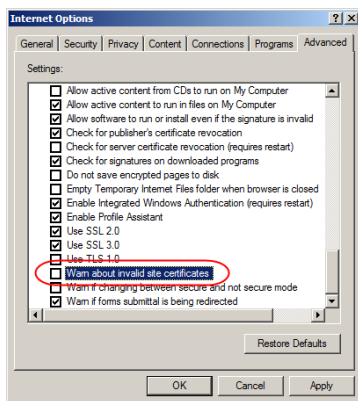
アドレス不整合に関する注意事項

証明書の生成に使用されたサイト名またはIPアドレスがの現在のアドレスと一致なくなると、不一致の警告が発生します。



「はい」をクリックして継続することも、不整合のチェックを無効にすることもできます。不整合のチェックを無効にする場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. ログイン画面が表示されたら、ブラウザのツールメニューを開き、「インターネットオプション」>「詳細設定」を選択してください。
2. リストの下部にスクロールして、「証明書のアドレスの不一致について警告する」の項目についているチェックを外してください。



3. 「OK」をクリックしてください。ここで変更された設定は、ブラウザの再起動後に有効になります。

自己署名(プライベート)証明書

独自の自己署名暗号化キーと証明書を作成したい場合は、www.openssl.orgでウェブからダウンロードできる無料ユーティリティー「openssl.exe」を利用できます。ご自身のプライベートキーと証明書を作成するには、次の手順に従って操作を行ってください。

1. ダウンロードして解凍したopenssl.exeのディレクトリーに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定してopenssl.exeを実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは1行で入力してください。パラメーターの入力途中で[Enter]キーを押さないでください。
 2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください(例: "ATEN International")。
-

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=your country/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganization/OU=yourorganizationalunit/  
CN=yourcommonname/emailAddress=name@yourcompany.com
```

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf -subj  
/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O="ATEN International"/OU=ATEN  
/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw
```

ファイルのインポート

openssl.exeのプログラムが終了すると、プログラムを実行したディレクトリーに「CA.key」(プライベートキー)と「CA.cer」(自己署名SSL証明書)の2つのファイルが作成されます。これらは、「セキュリティ」画面の「プライベート証明書」パネルでアップロードするファイルです(p.151「セキュリティ」、p.159「プライベート証明書」を参照)。

工場出荷時におけるデフォルト設定

デフォルトの設定は以下の通りです。

設定	デフォルト
言語	英語
GUIホットキー	[Scroll Lock] [Scroll Lock]
ポートID表示	ポート番号+名前
ポートID表示時間	3 秒
スクリーンブランカー	0 分(無効)
ビーブ音	オン
マイク/スピーカー	オン
ビューア	自動検出
初期メッセージ	非表示
アクセス可能なポート	<ul style="list-style-type: none">◆ スーパーアドミニストレーター - 全てのポートに対してフルアクセス◆ 他の全てのユーザー - 全てのポートに対してアクセス不可。

対応バーチャルメディア

WinClient AP

- ◆ IDE CDROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読み取り専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ USBハードディスクドライブ - 読み取り・書き込み対応*
- ◆ USBフラッシュメモリー - 読み取り・書き込み対応*
- ◆ USBフロッピードライブ - 読み取り・書き込み対応
- ◆ スマートカードリーダー - 読み取り・書き込み

* これらのドライブは、ドライブまたはリムーバブルディスクとしてマウントできます (p.88「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクを使用すると、ディスクにブート可能なOSが含まれている場合、ユーザーはリモートサーバーをブートできます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合は、リモートサーバーは全てのパーティションにアクセスすることができます。

- ◆ ISOファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り・書き込み対応